大正大年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正十三年一月一日發行（第七輯第一號）

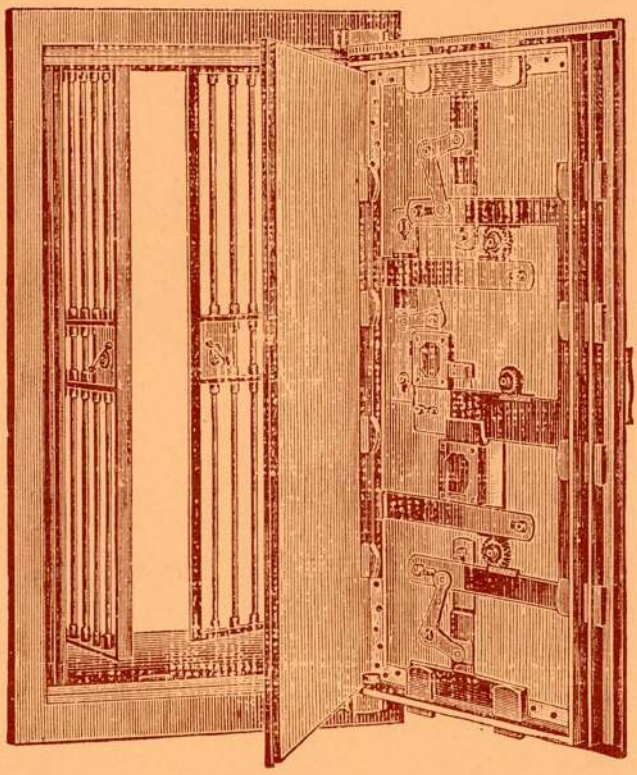


第七輯 第壹號

日本建築協會

大正十三年一月一日

耐震
耐火 理想鐵扉の出現



金庫扉 金庫 製造界の權威

大谷金庫店

店主 大谷榮之介
顧問工學博士 細木松之介
獨逸人 技師 ア・シューハルト

營業所 東京市京橋區岡崎町二丁目
京都市松原通東洞院東入
大阪市東區淀屋橋筋（道修町）
神戸市楠町六交叉點西

工場 東京第一工場 東京市京橋區佃島壹丁目
仝 第二工場 仝 深川區東元町
京都分工場 京都市松原通り大宮西入

高級昇降機

エー・ビー・シー

▼現在ノ最大建築ニ使用サレ！

▼今後ノ高層建築ニ採用サレントス！

最近御採用御先報告

丸ノ内ビルデンク	十一臺
日本郵船	八臺
日本興業銀行	四臺
中外商業新報社	一臺
特許局	一臺
阪急電鐵	一臺
泉尾土地會社	二臺
大學病院	二臺
松竹キネマ座	二臺
神戸商船ビルヂング	四臺
明治海運ビルヂンク	四臺
淺野物産	一臺
村井銀行神戸支店	一臺
プラナモンド社	二臺
内田ビルヂング	三臺
明治屋	二臺
其ノ他	拾臺

A.B.See!

ELECTRIC ELEVATOR CO.

220 Broad Way New York

ESTABLISHED IN 1883

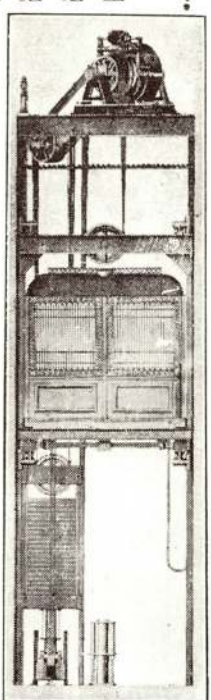


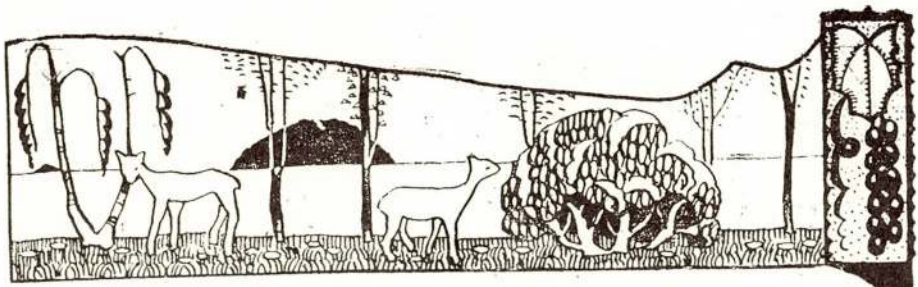
Esteemed enquiries solicited!

東洋總代理店

内田商事株式會社機械部

東京　神戸　大阪





建築と社會　第七輯第壹號目次

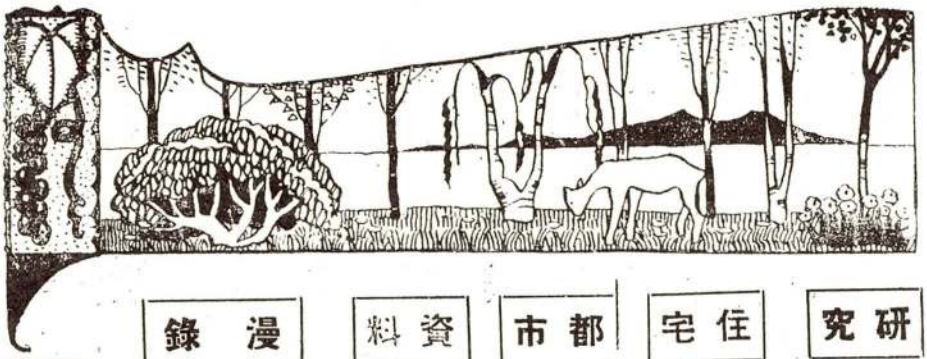
口繪

（一）（二）セントピーターの「ドーム」（ミケロアンヒルの鬼才）
（三）（四）ドームの模型とミケロアンヒルの彫刻
羅馬バチカン宮殿内の壁畫
其の原案

論說

「巻頭語」．．建築と絶對價値の創造．．．．．．．．．．．．．．
○關東震災に目覺め大正維新の實を擧げよ　工學博士　片岡安．
○都市生活と震害防止．．．．．．法學博士　渡邊鐵藏．九
○關東の震災を見て．．．．．．．．．．．藤井厚二　三
○形式上の復興と仝時に精神上の復興を要す　工學士　園部文雄　二七
○今後の地震には奈何に處す可きか　理學博士　今村明恒．三五
○木造家屋の研究を進むるの要なきや　都市計畫技師　大屋靈城．四七
○非常時の設備．．．．．．．．．．．．工學博士　武田五一　五二
○現代科學に伴はぬ我國民の性備．．．．．．．．．．．．．．．谷民藏．五七





研究

○照明に就いて……工學士 大島弘義 六二
○アドソール應用 ―室内乾燥、浴房、煖房裝置― 工學士 山本榮男 六七

住宅

○フートライトと家具……葛野壯一郎 七五
○文化住宅に就いての一考察……別所悌一 八二

都市

○大都市の公園計畫……文學士 黑田鵬心 八七
○市俄古市の地域制……加藤善貴知 九三

資料

○開路市よりミニヤ迄 ―續埃及遊記(一)― 工學博士 天沼俊一 九九
○關東方面震火災被害視察日誌 小川安一郎 一一〇

漫錄

○鳳凰堂の晩秋……澁谷五郎 一二九
○大阪府の誇り『無釘堂』……池田谷久吉 一三五
○美を建てるもの……水町與志雄 一四〇

會報

日本建築協會十二月中記事……



理化學研究所發明

アドソール　室内乾燥裝置
アドソール　冷房裝置
アドソール　煖房裝置
アドソール　溫濕調整裝置

一、食堂、興行場、各種工場、病院、土藏、倉庫、地下室の理想的設備。
一、絶對防火は地下室の外不可能の事は今回の火災にて立證せられた、地下室の濕氣を防ぐにはアドソール乾燥裝置に限る。
一、各裝置の說明書は御申越次第御送附します。
一、各裝置の設計製作工事の請負を致しますから御下命を願ひます。

東洋瓦斯試驗所

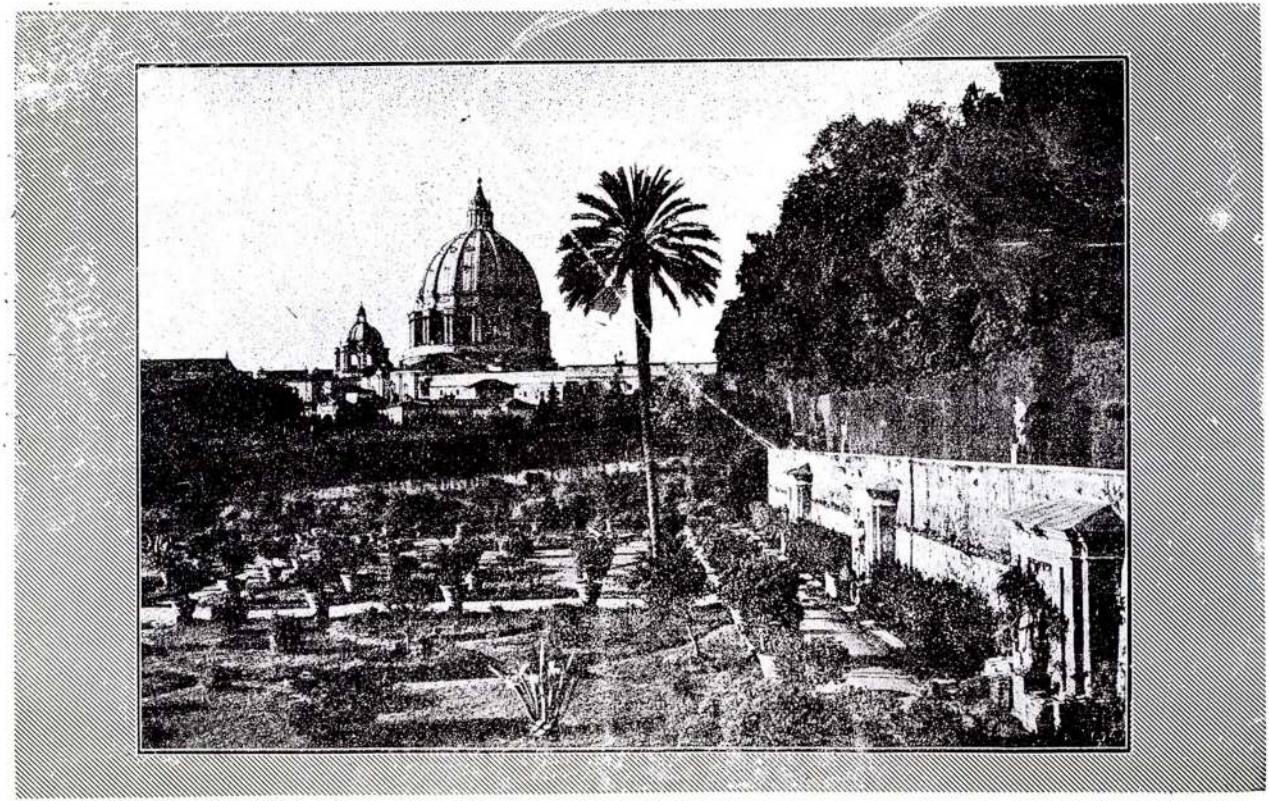
東京市丸の内

久原商事株式會社大阪支店

大阪市中の島

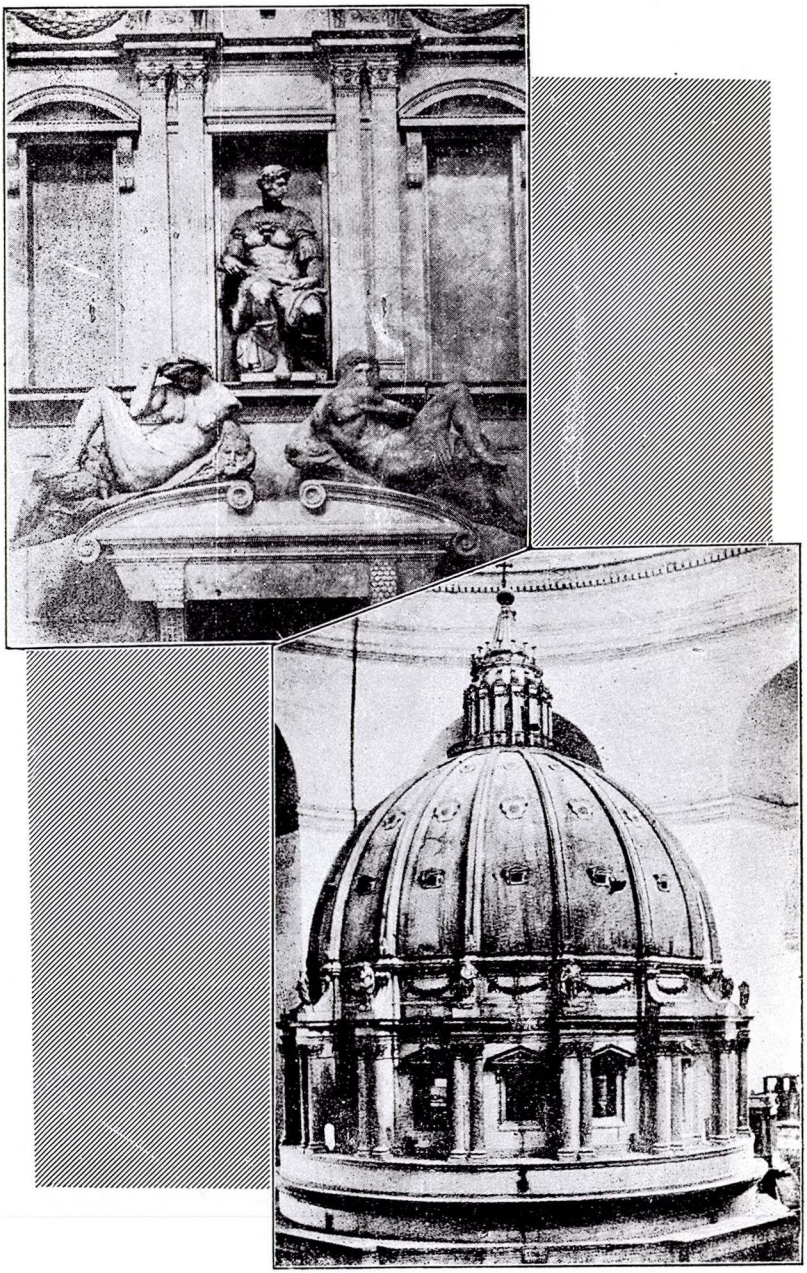
セントピーターの「ドーム」

建築に示されたるミケロアンゼルの鬼才



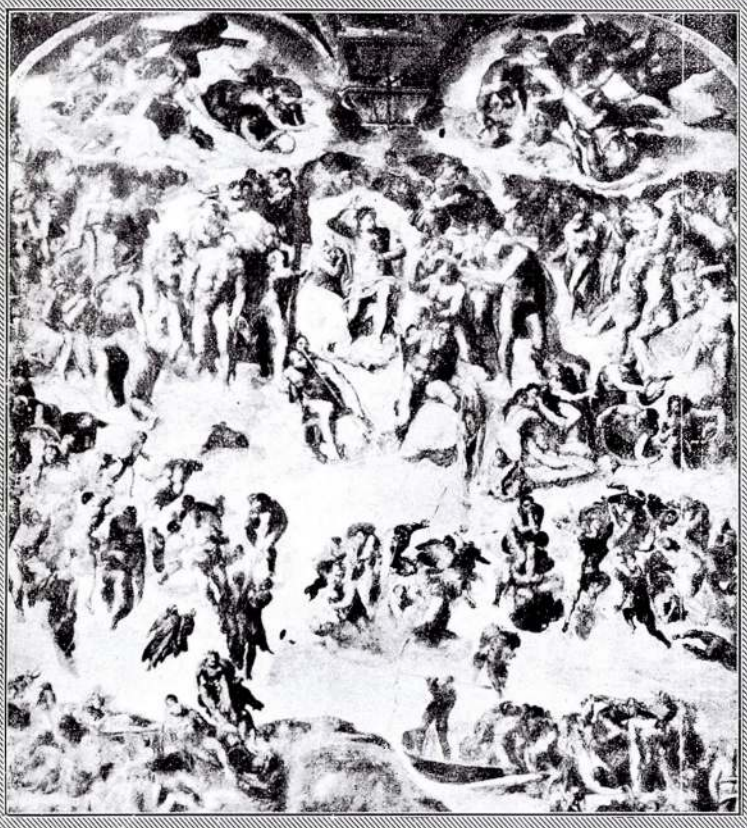
大天才は必ずしも或る一つの局限されたる藝術にのみ達するものにあらずその鬼才が時と所とに應じて各種の方面に燦然たる光を放てるは既にレオナルドンサツチ時代に於ける多數の事實が示せる處なりミケロアンゼルの如きはその第一人者と云ふべし

刻彫のルゼンアロケミと型模の『ムード』



羅馬パチカン宮殿内カペラミスチナ壁畵

—— ミケロアンゼルル ——



同上原案





建築そのものを學術的に識り、藝術的に解し、巧利的に考へようとも、所詮、それらは、究竟の價値生活に到る過程そのものを觀たのに過ぎない。究竟の價値とは、所詮、我等人生の絶對點である。凡ての生活は、斯の焦點に於て營爲されねばならない。建築もその表現の一つだ。所謂西南學派の主張も亦此處に在る。その一人、ヰンデルバンドの言葉を借れば、「普通の判斷は事實 was ist の判斷であるに對して、價値批判は當爲 ollen である。而して、價値には、相對的又は特殊的なものと、普遍的な絶對的なものとある。普遍妥當的價値 allgemeine ingiltiger wert こそ絶對的である。人類意識には、論理的にも、倫理的にも、美的にも、眞僞、善惡、美醜に關する普遍的妥當性を有する絶對價値なるものが存する。」建築は、斯の絶對價値生活を、物的に表現されたるもの丶一つに外ならない。轉じて、對建築批判も、亦斯の價値觀點に於てこそ眞實である。斯る絶對價値の淵源は、認識道德と藝術の究極的統一、若くは超自然的統一であり、一切の絶對完成である宗教そのものに在る。故に曰ふ「建築を眞實に解するならば人生々活が最高の宗教にまで到る過程の一表現である」と。(郊邨)

建築と絶對價値の創造



關東震災に目覺め大正維新の實を擧げよ

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

一

大正十二年九月一日の關東大震災は各方面に於て我國民に偉大の教訓を與へたことは言ふまでもないのである。殊に我都市生活の甚しき不安裡に行はれて居る現在の其の時代後れの實情を自覺せる點は我々の最も慶賀に勝へぬところであつて、其自覺に依りて我國民は前途に初めて安固なる文化生活に入ることが出來るのである。從來我國民は甚しき不安の狀態に其日暮し主義を遵奉して來た世界罕に見る不可思議の惰習を有し、幾たび大震大火の災害を被むるも其苦痛を忘却することの速かなる又其防備に冷淡たることの普遍的なる殆んど文明國民には他に之を見出し得なかつたのである。」明治維新以來焉政革新に伴ひ各般の文物制度より日常の生活に至るまで何れも舊弊を脫却してそこに新たなる新生面を開かんとし、所謂現代の文化に浴す

べく各方面に著しき努力が拂はれたことは我國民の歷史上特筆大書すべき一大革新であつた。然るに何事ぞ政治の組織と國防計畫の大體案成り、敎育の制度儀令の改廢等漸く成ると共に人心再び退嬰主義となり、日進月歩の科學的開拓の大勢に乘じて進展するの方策を採らなかつた事は、其罪は何れに歸するにせよ、我國家の一不幸であつたと言はねばならぬ。之を表面的に見れば或は日進又月歩の狀態を持續し列強のそれと相伍して來たようにも思はれる、即ち外は五大强國の一として數へられ、內は文物制度燦然として現代の文明に添ひ其光輝を放ちつゝあるように見へるけれども、少しくその內容と實質を精査したならば、不幸にして吾人はその貧弱さの甚しきと尙且つ其進展の遲緩さに驚かざるを得ないのである。今一々その實例及其眞價を述べるの要はないが、其著しきものを綜合して之を指摘すれば、其一は製造工業の幼稚なることであり、其二は建設物の時代後れの狀態であり、其三は人事活動の非科學的にして不經濟なことである。此等は何れも我國民をして現代文明の進展に落伍者たらしめる要素であるは言ふまでもない。

明治維新以來開國進取の國是に則り舊弊打破庶政革新の大方針が樹立され、歐米各國の文物制度は盛んに輸入されたのであるが、其大部分は十分に咀嚼されなかつた憾もあり、又同時に其實質眞價を究めずして唯皮相的に之を吸收した傾向著しく、一時は彼の長所を容易に受入れたかの如き觀を呈したのである。乍併自發的啓蒙ならざる模倣的吸收主義は到底歐米の駸々たる文物に並行する能はざるは當然であつて、最近二十年間我國の文化狀態は歐米のそれに比して常に後れつゝ今日に迨んだので、其結果は上述の如き現代文明の進展に落伍者たるべき三大要素を備ふるに至つたのであると思はれる。

製造工業の幼稚なる國民が如何に努力したとて其國富を增すことは或は容易なことであるまい、又同時に現代式の文化生活に入ることも困難であつて、國防計畫の如きも其完きを期する譯にもゆかないであらう。例へば現今の幹要工業として各國ともに生產能力の旺盛なるを競ひつゝある製鐵製鋼の事業の

如き或は油脂工業、曹達工業の如き、或は又各種の機械製作業の如き、我國の現狀は世界各國中の第六位第七位にも及ばぬのであつて、之を以て國富開發などは思ひもよらぬのである。現に毎年百萬噸に近き鐵材と一億圓に近き機械類を輸入して僅かに現狀を維持して居るような始末であつて、到底列國の急進的國富開發の勢力は及びも付かぬのである。現代文明の利器なる自働車、飛行機を始め各種の巧妙なる機械類は一として我國に於て其優秀なるものを供給し得ないと言ふ貧弱さは果して何時の日に之を成し遂げ得るやは今のところ其見込さへ付かぬのである。此等は我國富開發と國防計畫充實の見地から何とかして其見込を立てねばならぬのであるが、此の大震災に遇ひ僅に二三十時間の間に百億に近き國富を失ひたる機會に於て、殊更に其緊急さの程度の甚大なるを感せざるを得ないのである。

二

各種の建築物が日に月に其實質を堅牢にし、其内容を豐富になしつゝあるを現代文明の特徴とするは言ふまでもなきことながら、其の實質内容の進歩によりて、現代の文明國民は其の經濟的及社會的活動を敏活ならしめ又それを堅實ならしめて居るのである。堅實敏活なる活動をなし得るもの即ち意義ある現代生活をなすものとすれば、我國民生活は未だ以て現代生活の眞髓に觸れぬのではないかと考へられる。抑も吾人の生活には交通の利便、衛生上の保護、生活の安固、經濟活動の敏活、此の四者を大綱としてそれ〴〵の最高の設備を必要とするのであつて、其設備に要する建設物は其實質に於て最近益々其程度を向上したことは著しき事實である。最高の文明は即ち最新式の建設物によりその價値を發揮して居ると見ることも出來るのである。

最近各國の都市に於ては都市計畫事業として此等の建設は立案され、其實現が進ばれて居るのであつて、都市生活に於ては其都市の大小を論せず、以上の目的に合致すべく最全の努力が盡されてゐること

ば此處に呶々するまでもない。而して我國に於ても最近に至り此の現代の趨勢に鑑み大小の都市一齊に其改造計畫を攻究するに至つたことは遲れたりとは言ひながら甚だ喜ばしき現象である。唯遺憾に勝へざるは其研究の程度甚だ微温的であつて、其計畫立案の遲々として進まざるのみか、其實現の急要なるに氣付かざるやの嫌あることである。甚しきに至つては都市計畫事業を以て單に路幅の擴張なりと解釋したり、或は市民生活に實際に何等關係なき不急の土木なりと思惟するものあるを見る。殊に建築物の改善即ち現代科學の至善を盡して吾人生活の能率を向上せんとする建築物の制限を以て民間經濟の壓迫なりと考ふるもの、甚だ多きことは遺憾此上もなきことである。乍併斯かる時代後れの我一般民衆も此回の大震災に依つて平常抱懷して來た謬見を悟つたであらうと思はれる。

從來我國の一般民衆は新しき建設物を取入れて舊式のものに買換へる事の考は甚だ不徹底であつた。そこに何等一定の理想や方針なくして唯輕便に取入れ得るものは手當り次第之を建設し少しく手重いものは之を顧ざらんとする便宜主義をモットーとして來たようである。殊に政治の實際に當るものや、實業界の重鎭として任ずるものは概ね法律經濟の學識以外には餘り深き識見を有たなかつた爲めに、法制の改善や社會生活の組織改善にのみ沒頭し、現代の科學に立脚せる文明の眞髓を咀嚼することには可なり疎略であつた。又一方に於て一般民衆はそれ等の人々の指導以外に自から覺醒して現代文化を咀嚼すべき態度になり得なかつたのも事實である。故に我國現在の建設物を精査するときは、そこに甚だしき不秩序、不整理及亂雜を見出すのみか　何等理想に徹底せんとする努力に滿ちた形跡さへも發見されぬのである。政府及公共團體の旋設にかゝる諸施設物の如き不秩序の最も甚しきもの、實例であつて、此回の大震災に依つて其甚しき缺陷を暴發したことは隱れもなき事實である。各省の建造物にして燒殘りたるものは日比谷の二三官衙に過ぎないのみならず、內務省の建物の如きは自から失火して其東部一帶の丸の內の建物を燒失したのである。各官衙の官公用重要書類又殆んど燒失してしまつた其の不始末に

至つては殆んど何を以て之を批評すべきや其言葉さへ見出し得ない。世の中に官紀靡爛と言ふ言葉があればそれを以て之に當て嵌めたいような感がする。獨り官公廳の設備のみではない、民間各會社銀行等に於ても、當然來るべき都市災害に備ふべき組織的科學的の建設をなさずして、其日々々を送つて來たことは、如何に民衆一般の風習とは言ひながら其態度は餘りに不徹底又非科學的であつた、現代の文明國民としては到底之を寬恕することは出來ないのである。

此度帝都復興の急要なる詔勅により、此の驚くべき大災害の罹災地域は從來の如き畸形的不秩序の譏なき現代式の都會に再建改造されんとするに當りて、其建設は主として現代科學の精華を蒐め、適宜それを取捨して銳意其實現を期すべきは誰しも異論のある筈はないが、坊間傳ふるところによればなるべく舊態に近きものを再建すべしと言ふ議論が可なり盛んなるやに聞及ぶのである。それ等は一顧の價値なきものと信ずれども、從來數次洗禮を受けたる大震大火の苦痛も馬耳東風に流されて、何時も舊態を改めざりし我過去の慣習を考ふるときは、吾人も我民衆一般殊に官權の有力者の覺醒には餘りに信賴するの危險を感せざるを得ない。現代の科學を輕侮して其建設物改善に不注意なりし其賠償として受けたる此回の大災害に直面して、尙ほ且つ眞劍味の覺醒なきようなことがあつては、我國民は實に亡國の民たるの素質を具ふるものとでも言はねばならぬ。

三

更に眼を轉じ我國民の活動狀態に就き其實情を少しく注意して見ると、そこに又甚だ慊たらぬもの多きを感ずるのである。即ち我民衆一般の活動は總じて未だ明治維新前の慣習に捉はれて居るのであつて、產業經濟の組織や、政治、社交の形式は凡て世界的に改造されたに拘らず、其活動的の人事關係の部分は其大部に於て尙ほ且つ維新以前の慣習の延長であるように思はれる。而してそれあるが爲めに生

産工業も十分に發展するを得ず、建設改造の進展主義も十分に徹底せざるのではないか。近時盛んに唱へらるゝ精神復興の言葉も亦經濟復興の論議も此の意味に解釋するならば、吾人は大に其緊急事たるに共鳴するものである。『科學的生活に目覺めよ』とは吾人の年來提唱しつゝあるモットーであるが此際殊更に之を高唱せざるを得ない。政治、外交、國防の諸問題より教育、衛生、及社會の各般事項は凡て吾人の科學的處理によつて其開發進展の計畫が立つのである。科學なき或は科學を輕視せる氣分的態度は唯藝術觀照に於てのみは之を容れ得るも、社會國家の實體を充實する爲めには、偏に科學の力、即ち科學的處理に待たねばならぬのである。之によりて製造工業の旺盛を致し、以て國富を充實し、あらゆる施設を畫策すべく、各方面の建設力は又それによりて發揮することが出來るのである。

明治維新前にありては我國民の氣風は凡て之を過去尊重現狀維持主義であつた、從つて發展とか向上と言ふことは絶對に考へられて居なかつたのも致方はない。明治維新以來開國進取の國是により其弊風は一掃されたけれども、久しきに亘り養成されたる過去の慣習は今尚ほ以て根底深く我國民一般の思想を支配し、形式に於て世界的に其態度を改めんとするも、其眞髓に於ては、依然として氣分的であつて又同時に現狀維持主義であることは爭ふべからざる現象である。過去尊重の思想は老人や貴族の過信となり、階級差別主義となり、又閥類横行の現象を釀しあらゆる方面に進展の阻害をなしつゝあるやに思はれる。又現狀維持主義は科學的大發明の促進を遮り、科學的處理の利便を疎外するの結果、あらゆる改善は遲々として進まざるの現狀を釀成するのは自然の理數である。科學的處理を疎外しつゝあつたその結果は此回の震災を非常に甚大ならしめたことは此處に呶々するまでもないが、將來斯かる恐るべき大災害を免かれんとする現時の一般の希望は、或は此の機會に於て從來の態度を一變して、物事を科學的に合理的に處理せんとする一大回轉期を見出し得るのではないかと考へられる。若しそれが實現し得るならば此回の大災害は必ずしも高價なる賠償ではない、むしろ我國民を將來に生かす一大好機であつ

たとも見られる。大正維新の實は我國民の其覺醒に依つてのみ得られるのであるから、吾人は此機を逸せず此の行詰れる我國情を救ふべく努力し、所謂轉禍爲福の成果を擧げねばならぬのである。

紐育のある寃天閣の頂上に近頃作られた屋上庭園は古代バビロンの壯麗な庭園に比すべきものであると云はれてゐる、そこは一面草を以ておほはれ、樹木や藪が繁茂してゐて、建物を圍げうする街路の喧騒を遠に淺がして、田舍の別莊にある感がある、庭園の地面は厚さ三呎であるが、高さ十五呎の糸杉や、ぶだうや、ポプラがよく繁茂してゐる、鄙びたベンチや丸石を敷詰めた歩道や、魚を放つた池や、鳥小舍などが設備されたこの庭園は、目下開掘中の古代埃及の都市における屋上庭園を思ひ起させるさうだ。

都市生活と災害防止

法學博士　渡邊鐵藏

・・震害と火災・・

今度の神奈川縣、東京近傍の災害は一概に大震災と云はれて居るが、地震だけでは決して彼樣な損害はない、その損害の大きなものは火災に因て生じたのである。當時の慘狀に就いては今更ら說明するまでもなく、一箇所に於て三萬四千人も燒かれた所があり、其他川から堀はもとより、少しでも火熱を脫れる爲に路傍の溝にまで逃げ込んで死んだ死骸が轉つて居る。一秒間でも二秒間でも熱さを脫れる爲にさう云ふ所に這入るまでの苦しい思ひをなして死んで居る。怖るべきものは、地震よりも增して火災である。之を數字に就いて申さば、先づ私の概算としては、國家、公共團體の損害から總てを合して、新聞などに書かれて居る程には大きくない。先づ六十億乃至六十五億位の損害であらうと思はれる。然るに、此損害は何に因つて起つたか、と云へば、大部分は火災に原因したのであつた。直接地震に因る財產上の損害としては恐らく三億を超えること多くはなからうと思ふ　即ち今回の災禍全體の經濟的損害總額に對する約二十分の一位のものであらうと考へる。換言すれば、這回の損害は地震よりも火事の方が遙に怖るべきものであつた。併し、地震と雖、震源地附近では甚だ怖るべきものであつた。當時、私は、震源地に近い葉山に居つたが、地震のため夢中で子供を提へて飛出した。危いとか何とか考へて居る餘裕はない。唯命令されて飛出したやうな狀態であつた。幸にして地盤が可かつた爲に、我々の方は潰れなかつたが、數町行つた葉山の町は殆ど全滅になつた。橫濱も非常にひどかつた。東京の方は微震ー

――と言つては少し申し過ぎであるが、殘存して居る山の手方面は何處を電車で通つても、倒れて居る家を目つけ出すことは殆ど出來ない。それ位東京に於ける地震はさう強くなかつたのであるが、而も上記のような損害を起したのは、實に火災そのものである。」

・・問題は構造の合理よりも施工の良否・・

そこで、地震に對してはどう云ふ準備をすべきか。之を一般的に云はば、要要するに、豫め地震の襲來を知るといふ豫知問題であるが、是は私の觸れる範圍でない。

そういふ範圍のものを別として、先づ出來るだけ「地盤の良い所を選ぶこと、」それが先づ一條件である。是は、今次の震害が示した幾多の記錄や、隨分附近は滅茶々々になつてゐても、地盤の良い所の建物は瓦一枚も落ちて居ない、と云ふ實例もある譯で、是は縷說するまでもない事である。次いで第二の條件としては「建築に對する注意」である。即ち堅き地盤の上に十分なる基礎工事をする必要がある。耐震耐火構造に關する問題の如きは、既に他の人々に依て度々論ぜられて居ることであるから、此處に蛇足を加ふるの要はないが、たゞ一言附け加へたいことは、唯建築を耐震耐火的にするには、鐵筋コンクリートにすれば可い、と云ふのでは未だ充分でない。それには、工事そのものを良くしなければならぬ。一例を申せば、東京の四谷見附の附近は瓦が少し動いた位で、家は少しも倒れて居らぬ。然るに、その中でたゞ一つだけ倒壞したのは、皮肉にも鐵筋コンクリート構造の家であつた。即ち俺の家は鐵筋コンクリート構造で、請負師に委かせて建てゝ貰つた大層廉くて濟むだ、といつて安心して居られない他の家は何ともないのに、鐵筋コンクリートのものだけが倒壞した事例は必ずしも唯一でない。斯うした事實からすれば、どうしても建築の監督と云ふことが非常に大切である。又、大阪市の關助役現市長などは、建物の高さを五階位までは可からう、と云ふやうなお考があるらしいが、東京の地震の慘害を

目の當りに視、洋風の高層建築物の實績を、外からばかりでなく、中に這入つて親しく視た者には、却々そんな暢氣なことは考へられない。結論だけを云ふと、如何に建築家が建築學の發達を悟とし、技術の進歩を主張し、材料の改良を高調しても、私等は斷乎として、東京に於ては、鐵筋コンクリートでも三階以上は可けない。と云ふことを主張したいと考へて居る。東京より大阪の地盤が良いのかも知れぬが、五階位までは可いだらうと云ふ説に、私は賛成出來ない。何故そんな高い建築物にしなければならぬか。それは經濟的だと云つて、餘り算盤ばかり彈いて居ると、算盤が壞れてしまふ。唯、地主が、出來得るだけ其土地を經濟的に利用しやう、と云ふことから、無暗に高い家を建てゝ、其中に住んで居る人々の災害、近所の迷惑と云ふことを忘れてしまふが如きことは、甚だ可しくないと思ふ。例へば、東京の丸の内ビルデイングの如き、非常に大きな建物で、地主の得意思ふべしであるが、あの昨年の豫震的地震がなかつたならば、今度の大地震で丸の内ビルデイングは滅茶々々に倒れただらうと云ふことを一流の建築家の多くが言つて居る。それも、無論建築に缺點もあらうけれども、矢張り高層だと云ふことが一つの原因であらうと思ふ。兎に角、さう云ふ高いものを建てゝ、經濟的に利用すると云ふことに就いては、他人の迷惑、其處に住む人の生命の危險、と云ふやうなことも、能く考へて掛からねばならぬ。又餘り高い建物が建て詰つては、交通にも邪魔になる。丸の内ビルデイングなどは、東京驛前の廣い道路に面して居るから、まだ可いが、さうでない所で、一時に千人も五千人もの人が出て來ては、平常の交通にも餘り好ましくない。何分にも此際は安全第一と云ふことを考へて、建築物の高さに就いては、今一應考へ直す必要があるまいか。若し非常に良い地盤であるならば、或は三階を一階位に讓歩しても、可いかも知れぬが、まだなか〳〵それまでの自信は出來ない。

・・・大阪の都と震火災・・・

偖て、若し大阪にあのやうな災害が起つたならば、どうなるであらうか。今村博士は、大阪必ずしも保障が出來ない、と申された。勿論地震が來ると云ふお話ではあるまいと思ふが、災害に對する準備は常に爲して置く必要がある。地震が來やうが、來まいが、それは地震の勝手で、大阪市民としては常に弛緩なく自己の生命財産に對する保護の手段を執ることが必要である。國に戰爭があらうが、なからうが、常にそれに對する準備を爲して居るのと同じである。斯くして、若も災害が起つたならば、吾々は奈何に處すべきであらうか。想へば慄然の感なきを得ない。東京の如く二年も前から市區改正をやつて廣い道路があり、空地も澤山ある所ですら、彼樣な災害を起し、隅田川の直ぐ川緣にある三萬坪の空地に於てさへ、其處に這入つた者は瞬間にして皆燒殺されたのである。況して、大阪の船場や島の內の如き人家の密集した所で、平常の場合と雖も、荷車は通さぬ、空車は通さぬと云ふやうな窮屈なことをして居る所に、あのやうな災害が起つたならば、——私は徒に大阪市民を驚かすのではないが——、先づ五十萬や六十萬の死人の出來るのは譯はない。假に、大阪市の河川に架かつて居る數百の橋が落ちてしまつたとしたら、どうであらうか。殊に川緣が非常に弱い。私は橫濱へ行つて驚いたことであるが、土地が崩れて、元河であつた所が、沼だか何だか判らない程に、川緣が滅茶々々となつて居つた。火事はなくとも、地震でも橋は落ちる。況むや、後に火事が起きて、折角架かつて居た橋も燒落ちてしまつたら、それこそ手も足も出ない。卽ち島の內や船場に俊寬が何萬となく出來ることになる。それを考へると、何十年、何百年の後になるか知らぬが、兎に角東京のような災害が起つたら、その慘憺は推して知るべしである。

又大阪の道路は餘程狹い。大阪ばかりに住つて居る人は、こちらで買つて、又あちら側で買ふ、買物をするのに非常に便利だと考へられるか知らぬが、我々東京からやつて來て　俥にでも乘つて居ると、軒にブツ突かりさうで危い。斯る場所で今回のような災害が起つたらどうであらうか　澤山の人が通つ

て、荷車も通れば、電車が通り、偶には自動車も通る、東京の二十何間の道路ですら、逃け出す時には混雑して、一歩々々しか進めなかつた。さう云ふ時に、千日前のやうな所であつたならば、どうであらうか。焔は遠慮しちや居ない。私は曾て横濱の火事を見て、「横濱市の大火を見るの記」と云ふものを書いたこともあるが、一寸焔が來れば、五軒や六軒は一嘗めである。其迅速な勢を以て追立てられたならば、大阪の市民は右往左往に逃げ迷つて、東京の割合で助かることは困難であらうと思ふ。そこで先づ起つたら恐いぞと云ふ事を私は市民諸君に警告したい。

・・保安の根本的方法と應急的方法・。

然らば、それに處する安全の方法は奈何にすべきであらうか。實は、根本的に安全を圖ると云ふことに就いては、どうも匙を投げざるを得ないのである。それも、何億と云ふ犧牲を拂ふと云ふことになれば、出來得ない事でもないが、市民の過重なる負擔を考ると、到底匙を投げるの外はない、併し、さうかと云つて、徒萬偷息の日を送る譯にも行かないから、吾々は考へざるを得ない。そこで、大阪市の大阪造をやる前に、先づ差當りの應急手段を考へて見ると、是も地震に對する應急手段と云ふものは一寸ないので、火事に就いて云へば、其應急手段として、一番手近なものは、申すまでもなく消防の關係である。是れも彼是詳しく述べることはしないが、幸に大阪は堀割も多いから、水道が壞れても、消防の水はあると云ふ譯である。或人は、文明の爲に東京が燒けたと云ふ。文明のお蔭で水道が出來、それに便つて居た所が其、水道が先づ地震で壞れた爲に、手も足も出ない、空しく指を咥へて、火の燒くが儘に委かせなければならなかつた。安政から七十年も經つた今日、安政時代よりも大なる損害を受けた。そこで、或は井戸を存して置くとか、下水、堀割の利用と云ふことを考へるのは言ふまでもないが、或は市街を走る「ランニング、ウオーター」を造るのも一方法ではあるまいか。是は私の思ひ過ぎかも知

れないが、淀川の水を利用して、何所か高い所に貯水池を設け、常に上町から船場、島の内、靱、堀江と云ふやうな方面に水を流して置いて、平常は撒水にも用ひ、若し出火の場合、ホースさへ持つて行けば、何處からでも水が使へると云ふやうにして置いたら恁麼ものであらうか。又、各戸に消火器を備へ町内で消防隊を拵へることも必要である。而も、今度のやうな場合には、係累あるものは暫く活動して居ても、用が出來れば、家に歸ると云ふことになるから、係累のない獨身者ばかりの消防隊を拵へて置いて、大火の場合に活動させると云ふやうなことも必要であらう。大阪市に於ては、既に非常時に對する準備をやつて居ると云ふことで、寔に結構である。戰時に對する兵隊の動員計畫を不斷からやつて置くのは當然のことで、是非さう云ふ準備をすることが必要であらうと思ふ。

次に、永久的施設の一つとしては、橋梁を改造することである。出來得ることなら、一年位の中に、大阪全市の橋を總て鐵筋コンクリート構造にしてしまへば、最も結構であるが、まさかさう云ふ譯にも行くまいから、兎も角それだけの意氣込で、燒けない橋を架けることが必要である。それは、橋面、橋脚は勿論のこと、橋の裏も燒けないやうにして置かなければならぬ。少しでも木造の部分があると、それに火が移つて、東京にも川上から流れて來た燒船の爲に裏から燃えて、橋が落ちた例がある。又、地震で少々護岸が崩れても、橋は決して落ちないやうに架けて置かなければならぬ。橋を丈夫にする爲には、橋の幅を道路の幅よりも廣くして置く必要がある。何處の橋でも少なからぬ金が要るから、道路よりも橋が狹い。而も橋の數は道路の數より少いのであるから、非常に混雜を來して、災害を大にする。少々金は多く要かつても、道路より三割とか五割とか橋を廣くして置くことが必要であらう。尙、橋の袂も廣くして置けば、方々から集つて來ても、混雜することはない。昔は、東京の町など、橋を以て名物とし、誇りとして居つたやうな有樣で、錦繪などを覽ても、橋の袂は氣持よい程に廣くなつて居た。

故に、橋に就いては十分に注意をする必要がある。

・・都市計畫と避難場所としての公園・・

次に、尙更に永久的の問題にして、長く掛かつてやらなければならぬ都市計畫のことに就いて考へてみよう。都市計畫に就いては、先づ郊外地を良くすべしと云ふ說がある、我々も從來さう唱へて居つたが、今は憲政逆轉で、今度の東京の大災害を見ては郊外の整理も勿論必要であり、着々實行して行かなければならぬが、それと同時に——否それよりも市內の改造に手を着けなければならぬと思ふ。所が、曾て、大阪の或る新聞紙が、大阪市では八千百萬圓かの都市計畫の費用を即決されたと云ふようなことが記して居つたが、私は之を讀むで、流石は大阪である、と敬服した。所が、大阪へ來て親しく訊いて見ると、實はさう云ふ譯でなく、只さう云ふような計畫をしたと云ふだけの話であつた。私は甚だ落膽をしたのであるが、而も其計畫の內容を承ると、郊外の線路のやうである。それも結構であるが、私は寧ろ、此際躊躇なく市內の大改造に着手すべきだと思ふ。

第一に考ふべき事は、災害の起つた場合の避難場所と云へば、厭なことであるが、その避難場所としての公園である。その公園は全都の各所に數多く設ける必要がある。私も曾て種々なものに書いたが、世界中の大都會で大阪程公園の無い、而も其無さの程度の甚しい所はない。今は衛生問題などと言つては居られない。もつと切實な命の問題になつて居る公園を、一日も疾く造らなければならぬ、その必要な事實は、今回の震火災より推知し得る。併し、公園と云つても、所謂廣場に過ぎない例へば本所の被服廠跡の如き樹の無い所では可けない。即ち、相當に樹木のあることが必要である。そこで、避難所としての公園を何處に造るべきか、と云ふことに就いて、私の差當り考へた所を申述べると、——固より是が最良の案であると云ふのではない、防火線とか、避難線とか云ふ原則を適用すれば、斯うも考へら

れると云ふ程度のものであるが――、先づ第一に「南北御堂及び其中間、東は御堂筋から西は西横堀」まで、全部を取拂つて――御堂を取拂ふと云ふのは、甚だ畏いから、御移轉を願つて、彼處を公園にする必要があらう。第二に「島の内」にも一つは要らう。第三、「堀江」第四「江の子島」――是は一つの島になつて居るので、橋さへ丈夫にして置けば、安全な避難場所となり、佳い公園が出來る。尤も府廳があつても可い。詰り、公舘區域として、火が出ても、擴がらないやうに耐火建築を建てゝ、其周圍を公園にして置く。第五「中の島」是も成べく全部公舘地區、公園地區とする。皆金の要することであるが、五年要かつても、十年要かゝつても、やるが可い。第六「商品陳列所附近」――成べく苦情の起らない所を的つて居る。第七、「高津神社及び生魂神社附近一帶」――二つの神樣を中心とし、境内を其儘利用して、もう少し樹を植え、人家を拂ひ、寺院の分合或は移轉を適宜にやり、二つの神樣に公園を守つて戴くと云ふ譯である。第八、「難波方面」――此處には鐵道が二つも這入つて居るし、お寺もあつて、なか〳〵面倒だらうと思ふが、非常に人口の稠密な所であるから、此邊にも一箇所必要だらう。更に北の方に行つては、幸ひ監獄の跡に餘つた土地があるやうである。是等は大變結構であるから、あゝ云ふ所を利用する。是ではまだ少な過ぎるかも知れないが、それ等を四萬坪、五萬坪にするとして幾らになるか中の島全部を入れゝば、可成り大きなものになるが、五十萬坪として、東京の上野公園一つ位にしか當らないから、決して多いとは言へないが、今の島の内、船場をどうして擴げるかと云つても、なか〳〵手の着けやうがないから、大阪では大公園を一つ造るよりも、三萬坪なり、四萬坪のものを彼方此處に設ける方が比較的容易であらうと思ふ。

尙ほ、東京でも非常に問題が起つて、なか〳〵出來ないのが寺院の整理である。無論、我々は、先祖の菩提も弔はなければならぬが、生きて居る人の幸福も圖り、生命財産の安全を畫することも大切であるから、相當に讓り合つて、お互に迷惑の無いやうに適當に寺院を整理することになれば、從來の狀態

より、新に大阪の安全が幾らか加へられるだらうと思ふ。

又地盤の悪い所にどんな建設をしても危險であるから、元溜池があつたと云ふやうな所は、地盤は非常に悪いとすれば、さう云ふ所を捜し出して、公園にしても可からうと思ふ。其他、種々適當な避難場所を求めることが出來やう。今此處に一々述べることは出來ないが、大體さう云ふ風な考で、方々に小公園を置くことを研究する必要があらうと思ふ。

・・都市計畫と防火線・・

第二に、都市計畫として申述べたいのは、防火線の事である。第一に、私は、「西横堀」を以て一つの防火線とし、堀に沿つた西岸の家は全部取拂つてしまひたい。堀縁に家を建てるのは、至極危險な事である。是非其處を倉庫地にしなければならぬとか、どうしても工場地にしなければならぬと云ふ絶對の必要があれば多少利用するのは仕方がないかも知れぬが、さうでない限りは、全部取拂ふ必要がある。隅田川でさへ、東京の猛火は渡つたのであるから、淀川を渡る位は何でもない。況や、横堀川を渡る位はそれこそ朝飯前の仕事であるから、あんな堀があつた所で何にもならぬ。併し、是は、御堂筋と重複するのではない。それは又別の考で、兎に角一つの候補地である。又「東横堀」に就ても、右と同樣にして置くことが安全だと思ふ。先づ西横堀に防火線を置いて、第二に「長堀川」にも一つ防火線を設けたい。防火線の設定に就いては、常に吹く強い風の方向を考へる必要あるが、大阪は西風がなか〳〵強いから、東西のものは勿論必要であるが、南北に於ても防火線を設けることとして、私は長堀線の家屋を取拂つた方が可からうと思ふ。昔、江戸幕府の人は、丁髷を結つて居つたけれども、川の縁には家を建てないと、柳を植えて居つた。それを、明治に到り、市會議員などが運動して、川縁にも家を建てるやうになつた爲に、結局燒死んだりするので、長堀などは十分研究の餘地があらうと思ふ。尙ほ川縁の家を

整理するばかりでなく、樹木を植えることが必要である。樹木が火を止めたことは、今度東京で眼の當り見て居る、更に又川縁の家は特に念を入れて、耐火構造にすることが必要である。少くとも、前にも言つたやうな次第で、橋の袂の如き人の群集する場所は、疾く耐火構造にして置く必要があらうと思ふ。

・・都市計畫と路線擴張・・

第三には、道路の擴張である。平時の交通から云つても必要であるが、危急の場合の交通を考へると尚更のことである。併し、是も、大阪で手を着けたら、何とも彼とも仕樣がない。殆むど手の着けやうがなからう。船場や島の内はどうするか、三筋目位に一つ宛町を除いて行く位にしなければなるまい。是は、財政上困難であるがせめては、少しづつでも準備をして置く必要がある。先づ、東西の線路に於て、本町通りを廣くしなければならぬ。現在十二間道路と承知して居るが、大阪に於ては可成り廣く見えるけれども、十二間道路と云へば東京では——狹い道でもないが、決して廣い道ではない。あれも二十四間位にすることが必要だらうと思ふ。長堀川の線も同樣である。南北に就いては、幸に堺筋が出來て居るけれども、家が耐火構造になつて居ない爲に、防火線たる用をなさない。唯道路を廣くすれば、それで火が防げると考へたら、非常な間違ひである。東京に於ても、六十間道路案が出て居ると云ふことであるが、それは舊式な考で、道路を廣くしただけでは、火が防げるものでない。それに樹が植つて居つたり、耐火構造があるので、防火の効がある。無論、道路を廣くすれば可いのであるが、それだけで大火は防げない。堺筋なども、或場合には强制してゞも可いから、その建物を疾く防火的建築とする必要がある。尙ほ、御堂筋線——案が出來て、何だか煮へ切らなくなつたやうであるが、是も疾く擴張して同時に耐火構造にする必要があらうと思ふ。

私の申述べたいことは、まだ多くあるけれども、要するに　斯う云ふ準備をやれば、必ず非常な金が

要る。けれども、斯んなことは方々でやつて居る。例へば巴里の例を見ても、「オースマン」と言ふ「セーヌ」縣の知事が、八億法の金を、十餘年の歳月を費して巴里の大改造を行ひ、今の綺麗な市を造つたのであるが、今度は當に美觀の問題でない、命懸けの問題であるから、三億要かれば、八億法と大して違はないが、それ位の出費を厭はず、五年、十年或は二十年要かつても、成就すべき必要があらうと思ふ。私は、若し市當局にしてマゴ〳〵して居れば、市民大會を開いてゞも、市民自から市の大改造を要求するのが適當であらうと考へる。實は、數年前に出來た都市計畫法、市街地建築物法などが二十年前にでも出來て居れば可かつたのである。今更言つても甲斐のないことであるが、今後は思ひ切つてやらなければならぬ。又豫て震災豫防調査會に於て、地震學者などから、大地震があれば必ず後に起る火事が恐いからと、其對抗策として小さいことまで注意があつたにも拘はらず、それを我々が肯かなかつたのは、今日として寔に千載の恨事である。是等のことが國民に徹底しなかつたのは、無論市民にも責があるけれども、今までの日本の政治家は、都市問題などに就いては盲目であつたので、其責任の大部分は之を政治家に歸すべきものと思ふ。私は、前述の「横濱市の大火を觀るの記」の中にも、都市問題に比すれば山東問題の如きは比較にならぬと書いて置いたが、山東をごうかして、石炭を掘り、鐵道を敷いて、どれだけの利益があるか知らぬが、數十億の富を一朝にして灰燼に歸した今回の如き損失と何れが大であるか。私等は、今少し、政治家が實際生活に直接した是等の問題について考慮せられんことを希望する。

・・我全國民の緊張を望む・・

最後に私は東京市民は勿論、全國民の緊張を希望したい。此度の震災に對して、世界の同情、殊に亞米利加人の同情は非常なものである。日本には斯う云ふ際に、亞米利加人が攻めて來たら、ごうしやう

なぞゝ心配する人もあるが、此位莫迦氣たことはないそんなことは、人間として出來るものでない。御寛なさい、今度の震災に就いて亞米利加人がどの位同情して居るかを。日本人の方が却て不眞目である紐育などで、日本人が醉つて歩いて居つたり、活動寫眞などを見に這入らうとすると、亞米利加人が承知しない、「お前の同胞が苦んで居るのに、活動寫眞などを、て可いか」と、どうしても入れない。是程同情して、寄附金などもどん〳〵送つて來るが、我國民としては、さう餘り外國の同情ばかりに使つて居る譯には行かない。亞米利加人などは、なか〳〵氣慨があつて、彼の桑港の大地震の時にも外國から寄附して來たが、大統領はそれを拒絶した、外國の寄附を仰がなくても、亞米利加人は十分にやつて行きますから、と云ふのであつた。併し、是は、大分外國人の間にも批難があつて、成程亞米利加人の災害は亞米利加人が救ふて、それで可いかも知れぬが、人間が人間に同情して、それを救はうと云ふのは人道的の問題である、それを拒絶するのは不都合である、と言つて憤慨した。是は憤慨した方がもで、大統領が誤つたのであると思ふが、併し、外國の同情を受け、それに依つてオメ〳〵震災地の復興を圖ると云ふことはよろしくない、即ち、國民全體が緊張してやらなければならぬ。日本の富は、日露戰爭當時まで後戻りをしたと考へて可いのであるから、罹災地を離れた所でも十分緊張する必要がある。大阪なども、矢張り罹災地に對しては十分の同情があつて可からうと思ふ。幸ひ、今までは、十分の同情を表されて、十分な援助があつたことは、東京市民も感謝して居る。此上とも援助が必要であらうと考へる。併し、大阪は大阪自體のことに就いても考へなければならぬ。東京は日本の一方の眼であり、大阪は又一方の眼である。今一眼が潰れ、更に他の眼も潰れた場合には、日本は兩眼盲になのである。此都市を愛して行くことは、市民自からの生命財産の安全を圖ると同時に、國家として最も重要なことである。（文責在記者）

關東の震災を見て

藤井厚二

九月初めに於ける關東地方の災害は、實に甚しいもので、視察に行つても唯茫然として、其被害程度の大きいのに驚くばかりです。曾て歐洲戰亂の跡を訪ふて、戰爭の慘憺な有樣を見て、今もなほ忘れることは出來ませんが、今回の災害の如く、大都市が殆んど全滅して、震災後三週間を經過するも、河中に死體の浮べるを見るが如き慘狀は、未曾有のことで、永久に忘るゝことは出來ないでせう。その震災に直面して、痛切に感ずることは、私の平素建築上に抱いてゐる考を一層深くしたことで、その考は既に度々述べたところですが、茲に再び大體を繰り返して、私の考を明かに致します。

吾々の建築は他を模倣したものでなくて、我國の氣候、風土、風俗、習慣に、ピッタリと適合したものでなければならないと云ふことは、常に深く感じて　機會のある毎に唱導してゐた處ですが、今回の震災を見て、猶一層其感を深くする次第です。然るに、近頃建てられる多くの建築物を見ますと、その大部分は諸外國の建築を模倣した、種々雜多のものでして、曾て述べた樣に、新しい生活方法を採つて腰掛けて暮す部屋を造る場合には、多くは舊來の建築とは全く相違して、外國の眞似をせねばならぬ樣に思つて居ります、甚しいのになりますと、日本で日本人の使ふ建物を、外國人に設計を依賴して、外國で建てるのと全く同一の建物を設計して貰つて、なほ其指揮監督の下に、工事をすると云ふ樣なものもあります。こんなに無條件で外國の建築を受けいれたものが、我國の氣候風土に對して、如何なる結果を齎すかは、申迄もなく明かなことです。一兩年前も、東京の或る建物が、外國の請負業者の手に依

つて工事中に、聊かの地震の爲めに、大きな被害がありました、これは設計上にも間違があつたからでせうが、外國流の施工をしてゐたことにもよるので、我國は外國とは餘程事情を異にして、外國通りにはやれぬと云ふことを、其工事に關係して居た外人を初め、我々一般に教えて呉れました處が今回の震災では、このことを猶一層深く明かに、社會一般の人々に對して教えて呉れた様に思ひます。例へば、鐵筋混凝土造の建物で、倒潰して、一時に數十人數百人と云ふ澤山の死者を出して、今も尚其死者が、倒潰した建物の中に、埋れて居る様な悲慘な實例を殘したものの多くは、アメリカ流の地震をあまり深く考えない設計の建物であつた様です。外國では多くの建物を造る場合に、煉瓦造や石造の様に、材料を積み重ねて造り上げる方法を、用ふることがよくありますが、我國ではこれは非常に危險で、木造や鐵骨造の様に組み立てゝ造るものか、鑄物を造る様にドロ〳〵のものを、流し込んで固めて一つのものとする鐵筋混凝土造に、依らねばならないことが一般に明白になりました。こんな實例はいくらもありますが、單にこれは地震のみに限りません温度に於ても、我國と外國とは、甚しい相違があります。一般的には、濕度は緯度の一度相違して居る場所では、華氏の約一度半相違があるとされてゐますが、吾々が建築上に手本として、參考として居る國々、米國でも、英吉利でも、獨逸でも、何れも日本よりは餘程北に在つて、冬を主として考へなければならないし、我國は夏を主として考へなければならないと云ふ様に、全く反對です。濕度でも外國では冬に高くて、夏に低いのですが、我國はその正反對で、冬は低く夏は高いので、暮しにくいと云ふ様な狀態です。(これに就いては或機會に詳しく述べます。)風俗習慣に於ても、非常に相違のあることは申迄もありません、この彼我相違の頗る甚しい點のあることは、餘程深く注意し研究して、我國獨特の建築を造らなければならないと思ひます。

次に從來の建築に就いての考え方は、餘りに美的方面に對してのみ意を注ぐ弊に陷つて居り、且つ歷史に捉はれ過ぎた傾向がある様に思ひます。これは甚しい弊害を伴ふものですから、もつともつと、構

造設備の方面に注意し、完全な建物を造る樣に期せなければならないと同時に、舊い建築の樣式から全く眼を離して、將來の新しい建築に就いて、考へねばなりません。今回の震災に於ても、この注意を怠つてゐた爲めに、其被害程度を一層大きくした樣な傾向が、明かに見えて居ります。銀行會社の重役が鐵骨造や鐵筋混凝土造の事務所などを建てる場合に、設計を依頼した建築家に、色々と注文して外觀を飾ることに苦心し、それがために、反つて厭味を感ずる程ゴチャ〳〵多くの裝飾をつけて、建築費の大部分を費して、平氣でおりますが、其建物を造るのに最も重大な鐵材などに就いては、何の考へもなく他の建築家が、これと同じ樣な丈夫さの建物を自分にやらせれば、餘程鐵材を節約して、全體の工費を減少することが出來ると云へば、直ぐその話にのつて、其人に設計を依頼すると云ふ事はよく聞く話です。住宅を造る場合にでも、構造に必要な木材は弱い粗末なものでも、床柱や天井板は立派なものを使ひたいと云ふのが一般の通弊です。從來軒を並べて居る市中にある神社佛閣が、絶對に耐震耐火耐久を必要とする場合に、相談を受けた時には、私は何時も、鐵筋混凝土や鐵骨造などを、勸めて居りましたが、其の都度一笑の下に葬られて居たものです。それが今回の震災に依つて、東京市中に再建せねばならぬ寺の中には鐵筋混凝土造にするものもあると云ふことが、先日の新聞紙上に見えてをりましたが、これは洵に當然な、結構なことだと思ひます。それに就いて私は常に考えてをりますことは、建築學はもつと工學的と云ひませうか、實際的にならなければならないと思ひます。これを機械の方に就いて考へて見ますと、馬車から自動車に移り變るに、其間に何の關係もなく、全く相違して居ります。照明に於てもランプから電燈に變るに、電燈はランプの形式に囚はれた處は些もありません。然るに建築では其造る材料が變つても、使用する場所や目的が變つても、往々以前のものに囚はれて居ります。自動車はどうも變だ、矢張り前に馬が二頭走つて居らねばならないと云つて、自動車の前に馬を走らせたり、ランプはホヤが下から上に立つて居るから、電球も必ず、常に下から上に向つて立てなくては不都合だ

とか、云ふ樣な議論をすれば、其愚を笑はれますが、建築にはこれ等と似た要求をする人がよくあります。鐵筋凝混土などで、平たい屋根（陸屋根）を造ると、其建物は家ではない樣に云ふ人もありますし耐震耐火耐久の建物を、鐵骨造或ひは鐵筋混凝土造によつて建てる場合でも、舊來の木造の建物と全く同一に見える樣なものを、造つて呉れと云ふ人もあります。非常に科學の進歩してゐる現代に建てる建物でも、數百年前の昔の建物を模倣して平然として居ります。吾々は嘗つて先輩から建物を設計する時には、歐羅巴の古建築を參考とし、手本とせよと常に聞かされましたが、其手本となることは、僅かに一小部分であつて、建築として最も重大なる點の、構造や設備に對しては殆んど參考になりません。これを眞似ることは、子供が隣近所の同じ年頃の遊び友達の眞似をすれば、家庭の事情が異つてゐても、まだしもですが、腰の曲つた老人の眞似をして、全く時代に相應しない樣な感があります。建築には古い建物が殘つて居て、それを使用し、色々の刺戟を受けるから、この弊が起るのです。これが今回の樣な實に悲慘な災害を蒙る一大原因でして、將來の建築は、實用的方面に意を專らにして、再びこんな災害を繰返すことのない樣にせねばなりません。

次に現代の科學は細かく分類して研究されて居るので、深く進歩して行くのでせうが、大體を總括して考へる場合は少なくて、これが爲めに實際に應用した場合に於て、意外の結果を招く樣なことが、屢々起ります。これを單に建築學のみに就いて云つて見ても、或一方のみを深く究める場合には、他の方面のことは忘れられ易い傾向があります。地震のみに對して耐え得る建物を造ることは、現在の吾々の知つて居る建築學上の智識から、容易に出來得ることですが、總ての方面から考察して、適當なものを造ることは、非常に困難な問題であると思ひます。處が或る一事件がおこると、それに對してのみ深く研究して、他の必要なる多くの問題は、全く忘れられてしまひますから、其次に忘れられて居た他の事件が起つた場合には、全く周章狼狽して爲す處を知らないと云ふ風になります。これは今回の東京の震

災によつても明かですが、將來の建築は色々の方面から考察して、設計せねばなりません。私が災害視察に行つた時、汽車中で罹災者の話合つて居るのを聞いて居りますと、亞鉛鍍鐵板葺の屋根の家が、今度の地震で非常に好結果であることを知つたから、次に建てねばならぬ家は、瓦を使用しないで、それを用ひると云つて居りました。これは地震のみより考えれば至極尤もなことで、木造建築では、屋根の重量が、震災の大原因でして、平家建ですと、其建物の耐震強度は、屋根の重量の一乘に反比例し、二階建ですと、〇・七或は〇・八乘に反比例すると云はれて居りますから、今回の地震で屋根の輕い方が安全であつたことは勿論です。亞鉛鍍鐵板や銅板葺よりも重い石板葺の屋根でも、瓦葺の屋根に比較すれば、其重量は半分にも足りない位ですから、瓦葺木造平家が破壞する強さの、二倍の強さの地震で、石板葺平家は初めて破壞するのです。ですから亞鉛鍍の鐵板や銅板で屋根を葺くことは、地震に對しては頗る適當なことですが、外氣の影響を屋内へ傳へない樣にすることに對しては、極めて不適當なものです。夏は非常に暑いし、冬は寒いので、住宅などではこれのみで屋根を葺くことは出來ません。この點に關しては、從來用ひられてゐる構造の中では火に對して全く耐え得ない藁葺や柿葺を除いては、瓦葺が一番適當です。(これに就いては或機會に詳しく述べます)ですから、銅板や、亞鉛鍍鐵板を以つて屋根を葺いて、氣候の變化に對して、屋内が餘り其影響を受けない樣にするためには、下にコルク板を張るか何にか、他の適當な方法を講じて、それを防がねばなりません。災害後の東京には、亞鉛鍍鐵板で屋根や壁を造つて、外氣の影響を極めて受け易い假建物の中に生活して居る人々を澤山見受けますが、この冬や次の夏に、九月初めの震災に依つて失はれた以上の多數の人が倒れはしないかと心配します。こんな風に地震のみが深く考えられて、他のことが忘れられる場合もありますが、又地震のことは忘れられて、火災のみが深く考えられた實例もあります。木造で棟の長い建物、例へば、病院とか、寄宿舍とか、倉庫とか、云ふ樣なものを造る場合には、火災の危險を慮つて、其長い建物全體が燒失しない樣

に、或は燒失するにしても、なるべく安全に人や物を避難し得る爲め、延燒に時間がかゝる樣にしたい目的から、其建物を處々仕切つて、防火壁を造ります。この防火壁は從來は煉瓦を積んで造つて居りますが、地震の際には、これがある爲めに、建物は非常に弱いものとなつて、頗る危險です。この實例は小山の富士紡績の工場で見ましたが、寄宿舍の同じ樣な建物が並んで建つて居て、防火壁のないものは今回の地震に會つても、安全でしたが、防火壁のあつたものは倒潰しました。又建築上のみから考えれば完全なものでも、他の色々の方面から考えれば、如何かと思へる樣な場合があります。例へば、鐵筋混凝土構造或は鐵骨鐵筋混凝土構造は、極めて適當な耐震耐火耐久の完全なるものでして、これは今回の災害に依つて、一層明白になりましたから、都市の建築は是非これ等の構造によらねばならぬ譯ですが、我國の現狀では、財力其他の關係よりして、これ等によることの出來る建物は極めて一小部分にのみ限られて、大部分の建物は矢張り依然として木造によらねばならぬと云ふことになります。こんな例はいくらもありますが、要するに建物を造る場合には單に一方面のみに氣を取られないで、種々の方面に對して充分に顧慮する必要があると思ひます。

從來社會一般の人々が、建築に對する考へ方に、眞面目を缺いて居る點が多々あつたのですが、それを今回の震災に依つて矯正するを得ば、有形上の損害は未曾有の莫大なものでも、建築上には、洵に無形の莫大なる利益を與へることになると思ひます。（大正十二年十一月上旬）

帝都復興の先決問題として、どんな家屋が耐震耐火上有效であるかと云ふ研究は、各專門家によつて盛に行はれてゐるが、最近警視廳建築課では、こうした研究の基礎材料を得る爲、地震によつて倒壞した家屋を精細に調査した、即ち左の如くである◇木造全くわい一四八七、半一四八八、大破損二四八二◇石造全くわい一八、半くわい二一、大破損二二、木骨石造、全くわい六、半くわい二三大破一一◇木骨煉瓦造、全潰一、半潰四、大破損七◇煉瓦造、全潰五一、半潰九〇、大破損七四◇鑄骨煉瓦造、全潰四、大破損二◇鐵骨コンクリート造、大破損一◇鐵筋コンクリート造全潰六、半潰四、大破損六、右によると最もぐわん丈な建築物は鐵骨コンクリート造り、次は鐵骨煉瓦造り、鐵筋コンクリート造の順で、最も弱いのは矢張り木造煉瓦造石造などである。また住宅より商店及工場の方が遙に耐震力があると。

形式上の復興と同時に精神上の復興を要す

工學士　園部文雄

一

昨年九月一日に於ける關東地方に於ける大慘害は、千古未曾有の事に屬し、其被害範圍の廣大なりし事と、物質上の損害の巨額に上りし事と、幾萬の生靈を犧牲に供せしのみならず、百數十萬と稱せらるゝ多數の罹災者を出せし事に於て世人の耳目を驚愕せしめた大事件であつた。

昨年は主として之等罹災者の救護事業や、燒跡の整理、應急的「バラック」建築の建設に暮れて、復興計畫は唯其基礎の調査を爲したに過ぎなかつたが故に、本統の復興は今年以後に之を實施せねばならぬ。

古來よりの諺の通り、一年の計は元日にありで、所謂更始一新の此の機會に、吾々は國家永遠の爲に深く思ひを致して、再び此の種の悲慘事を繰り返すの愚を避けねばならぬ。

二

抑も昨年の大慘害たるや、人爲を以て避け得ざりし全く不可抗力的のものなりしや否や？。吾人の見る所を以てすれば、決して不可抗力の一言を以て葬り去るべきものとは解せられないのである。

吾々は人事の總てを盡して、尙且この慘事に遭つたのであるならば、これは全く不可抗力として、あ

きらめねばならぬが、此度の慘事の如きは、人事の總てを盡した後に蒙つた天災とは認められないのである。

天災はこの慘事を起さしめた一つの直接動機であつた事は明かであるが、これを斯程迄に擴大せしめた、原因の多くが人爲的原因にある。

誰かゞ言つた樣に、吾々が天爲を無視して、放縱なる仕業をして居つたのに對する天の御譴である、つまり吾々が爲すべきことを爲さず、勝手に振舞つて居つた間に酵生された、缺陷が天災を機として曝け出されたのである。

三

我國には古來頻々として地震の襲來に遭つて居る事は史實が之を證明して居ることであつて、世人も之を知つて居り、建築家に於ては勿論之を知つて居つた事柄である。そして一部の地震學者は近き將來に於て可なりの大地震の來るべき事すら豫言したのであつたが、忌憚なく言へば一般の人々は地震に對して餘り注意を拂つて居なかつた。これが人事の總てを盡して居らなかつた第一の缺陷であつた。

次に火災の方面に對しても、吾々は充分なる事をして居つたとは決して言ひ得なかつた事も明であつて、東京市内に於てすら、震後僅かに三十分にして八十ヶ所近くの火を發した事は、畢竟午頃で火氣を用ひて居る時間で、時機が惡かつたとは謂ひながら、矢張燃へるべきものを多く置てあつたからであるそしてこれには發火のし易き藥品の貯藏に對する處置の惡かつた樣なこともあらうし、訓練が足らなくて狼狽の果、火の用心を疎にした樣な事もあらうし、家屋倒壞して、火を消しに行けなくなつた爲放置して置いた樣な事もあらうし、それやこれや數へ立つれば際限のない位な多數の原因があつたであらうが。結局人爲の盡せる丈盡して後に起つた現象とは認め得られないのである。

そして又火を失してから後に於ても、これを小さく消し止める丈の方法がつかなかつた。といふことは、矢張り其處に大なる缺陷が横はつて居つたからである。災害範圍が餘り大きかつた爲に平常の設備が間に合はなかつたといふ事もあらうし、通信機關の連絡不充分になつたといふ事もあつた。又治安の維持に逐はれて消火、防火に充分なる活動をすることが出來なかつたといふ事もあつたらうし、交通狀態が惡しくなつて圓滑なる活動を阻害したといふ理由もあつたらう。そして又火を喰ひ止めるに足る廣場とか、集團的防火地區が少なかつたといふ事實もあつたらうし、消火用水の缺乏とか、當時稀なる強風にあふられたり、旋風に妨害せられたといふ事實もあつたらうが、結局天爲的の不可抗力と見るべきものはほんの僅かであつて、大部分は人事の盡すべき事を盡して居なかつたか、又は盡すに至らずして事を擴大したに過ぎない。

四

世界の歷史に於て、大なる都市が一朝にして灰滅に歸したといふ事實は「ベスビアス」山の噴火により「ポンペイ」市が埋れてしまつたといふ事位であつて、桑港の震火災や伊太利「メンナ」の震災によりて、一地方の田舍街に可なりの損害を蒙つた例はあるけれ共、世界第何位の人口を有するといつて、人も許し自らも誇つて居つた樣な大都市で、然も世界最大强國の一つである國の首府が潰滅したといふ事は「ナポレオン」時代に其魔手より脫れんとして、自ら首府に火を放つて奇勝を博した、露國の首府「モスコー」以外殆んど史蹟に殘らざる所である。

數百年前で、人智未だ開けず、技術の未だ幼稚なる、產業組織や經濟狀態の未だ進步せざる時代ならばいざ知らず、現今の文明時期に於てこの種の悲慘事に直面せし事は、確に一國の恥辱であり、同時に戰勝の餘映に眩暈して、徒らに形式上の文化を誇つて居つた國民に對する、一大皮肉たるを失はぬ。

元來我國は大陸の東端に偏孤し、一面大洋を背景にしたる特異の地形に據りしを以て、幸に未だ外敵の蹂躙を受けし事なく、國民の氣魄亦旺盛なりし爲に、危く外敵の侵入を擊破し、近くは日清、日露の兩戰役に於て、又は過次の世界大戰に於て或は國運を賭しての戰をなせしと雖も戰場は常に國外なりし爲、未だ嘗て戰禍の災害を體得せず、戰へば必ず勝つの意氣は默々の間に精神の緊張をゆるめて、天爲の恐るべきを疎せしむるに至つたのである。

我々は人爲の戰には勝つの氣魄を有し、その爲には可なりの困難を打破つたのであつたが、未だ天爲の力に對抗する丈の準備を整へなかつた間に今度の災害となつたのである、而して尙これぞ忌憚なく觀測すれば、人爲の戰急なる爲天爲の力に對應する餘裕がなかつたといふよりも、人爲の戰に勝ち誇つて最早慢意を生じ、天爲の力の恐るべきを忘れたといつた有樣であつた、そして形式の整備に甘じて內容の充實を閑却したのである。

五

形式が可なり整備して居つても、內容の之に伴はぬものゝ駄目である事は今更事新しく論ずる迄もない事である。然しながら如何にこの眞理の恐るべきである事を明にする爲、少しくこれに觸るゝことにする。

一國の首都の大部分や、五十萬以上の人口を有する大都會が、一朝の震火災の爲に消滅するといふ事は結局內容が充備して居なかつたからであつて、謂はゞ酒肥りの大男が卒中病で、ころりと倒れた樣なものか、張り物の櫓が風に吹き飛ばされた樣なものである。

そしてあの混亂狀態はどうであつたか、鐵道は不通だし、汽船の着き場所がなし、治安は破壞されるし、通信が停頓するし、救けを求めるものも、救けに行かんとするものも、薩張五里霧中に迷つたのみ

ならず、一國の政を司る中央機關さへ、これに引込まれてしまつて、充分なる指揮、命令を爲すことが出來なかつたといふ有樣であつた。

今更その當時の事を繰り返しても仕方がないが、結局一言にして言へば大東京、大橫濱、なぞと其地域の膨大なることゝ人口の大なることを一種の誇りとして、其內部に於ける施設の充實を疎外して居つた結果招いた慘禍である、その缺點の暴露であるに過ぎない。

而して、これを亦小さく部分的に觀察して見るも、同じ樣な地質で同じ樣な外觀を有して居つた、建築物又は其他のものに於ても、甲のものは破壞され、乙のものは嚴然と存立するなど、又は丙のものが燒けて、丁のものが燒け殘つたなぞ、內容如何に依つて現れたる結果の相違の顯著なるものを諸所に發見するのである。

結局外觀は同じくとも、內容のよきものは存在し、內容の惡しきものは潰滅する事の適切なる實物敎訓を多く展開して、吾々は今更ながら外觀よりも內容、形式よりも精神に注意、努力せねばならぬ事を痛感する次第である。

六

昨年の大慘害は幸にも世界大戰亂終熄の平時に發生し、各國の同情翕然として集まりし時代なりしは不幸中の幸とも稱すべきか、將來の事を稽ふれば、決して樂觀を許さないのである。

第一今迄の戰爭は主として、地上又は海上の交戰に過ぎなかつたが、將來の戰爭は必ず、空中の戰爭を伴ふものであり、寧ろこの方面の戰爭の方が激烈である事は豫想するに難くない。

して見れば一寸の失火の爲に直ちに燃へ出す樣な家屋を建てゝ吾人の生命、財產を保護せんとする事は甚しき暴擧と謂はねばならぬ。

次に又我國は四面海を以て圍れたる孤立の國である、而して食料品を初めとし、工業用原料、衣服用品に至る迄不足を來して、常に外國より供給を受けつゝある現狀であるが故に一朝交戰狀態に陷つて、海上の航行に脅威を感ずる時期とならば物質の缺乏を來す事も明かである。

して見れば救護、復舊の事業に於ても今回以上の混亂、困難を來すことも亦爭はれぬ事實である。斯樣に觀察して見ると、徒らに今迄と同じ樣に火には燃へ易き家を建て、爆彈の投下に對して何の抵抗力もなき施設物を羅列して置くことは、實に危險千萬なる事柄であつて、想像するも肌に粟の生ずるを覺ゆる次第である。

七

我國は世界稀なる地震國であつて、この不幸はる天惠に惠まれ過ぎたる結果は、常に地中より來る災害の豫防に全力を傾注せねばならぬ次第であり、これに加ふるに將來の交戰狀態に際しては空中より來る脅威をも覺悟せねばならぬことも前述の通りであるが、吾々は未だ一つ考へねばならぬことがあるそれは我國につきものゝ風水害による被害である。

由來我國は海洋に聳立せる島國であるが故に海洋中に發生する氣壓の變化、並に多量なる水蒸氣の爲に、毎年或時期には激しき暴風雨の襲來を受くる事があり、崩壞、流失の事故を初めとし、倒潰破損の爲に蒙る損害は可なりの巨額に達し、通信、運輸の機關の如きに至つては不通を來す事恒例的の如くになつて居る、

而して水蒸氣の過多なる事は一面或種の材料の腐朽を早め、保存命數を短縮して默々の間に破壞作用を醉促する事多大である。

吾々は地殼の變化に基く破壞力に抵抗せなければならぬと同時に、地表上に於ける天爲の潰滅力にも

對應せなければならず、加ふるに空中より來る人爲の襲撃力にも備へ、尙且自警を充分になさゞれば安全を期し難いのである。吾人の前途實に多事なる哉。

八

以上數節に亘つて簡略に述べた通り、假令形式は相當整備しても、内容の充實せざるものは何の役にも立たず、一朝非常時に際して脆くも潰滅して千載に汚名を殘すに至るのみならず、不幸期る事變が交戰中に頻發すれば遂には國運を阻害して、社稷を危くするに至る事なきを保せざる次第とすれば、吾人は自己存立の必要上としても之に打勝たねばならぬ。徒らに前途の多事を慨いて逡巡し、姑息なる彌縫を以てこれ足れりとし、百年の大計を誤るが如き事あらば、恨を千載に遺して、尙足らざるものあるであらう。蓋し吾人の採るべき途は一途あるのみである。

曰く「形式の整備と同時に内容の充實」!!!

而して内容の充實たるや其意義極めて廣汎であつて、或は都市をして火災に對しても燃燒の虞れなき家屋、地震其他の天爲力に對しても損傷の憂なき家屋、即ち耐火、耐震の家屋であつて、且空中襲撃にも耐へ得るが如き建造物を以て充滿せしむるも一つであらうし、給水、防火、通信、交通、治安、運輸其他百端の事項をして、最も確實・安全なる方法を具備せしむるも亦其内容を構成する有力なる要素であらう。

然しながら、同じ「コンクリート」で造つたものでも、或ものは壞れ、或ものは堅實であつた樣に、建物個々に就て、又は橋梁個々に就てといふ風に、小部分、部分に就て内容の充實を計り度く事が亦必要なことであり、これらの部分、部分の充實を計る事は言ひ換へて見れば、社界萬端の事物に携つて居る各人の精神的充實に歸着する。

吾々はどうしても、形式上の復興と同時に内容の充實を計らねばならぬ。而して内容の充實を計る爲には、先づ以て精神上の復興より初めねばならぬ。

家を治めんとすれば、先づ其身を修めねばならぬと同じく、形式上の復興を計らんとすれば、先づ精神上の復興より初めねばならぬ。これ年頭に際して敢て一言を發する所以である。

▲大都市または工業都市の空氣が塵あいでもつて非常に汚れてゐることはだれでも知つてゐる通りである。これ等の塵あいの大部分は英國では工場または個人の家の煙突から吐き出される煙を構成するところの堅い炭素から成る物質である。それに地上から吹き上げられる塵と、煙突内にて燃えて燃料のうちから吐き出されるある種の無機物質である、從つて都市の空氣の汚損と、その結果による人間の不健康とに對しては、工場は大なる責任を負はねばならぬわけである。英國における大氣汚染調査委員會の顧問委員等は、時々その調査のけつくわを發表してゐる、その最近の報告によると、英國のある町では、一箇月間における沈下物(空中から落ちてくる積する塵あい類が、一方哩に對して二十五噸に達する所がある、しかしその三分の二は工場からでるけむりの結果であるのである。また地上よりの塵あいはその一割五分に當り、家庭からのけむりはまた約一割九分に當るといふことだ。この種の汚物によつて空氣が汚染せられてゐる割合は、場所の異るに從つて、大なる差がある、夏は概して冬よりも少いのは、倫敦における調査もこれを證明してゐる。即ち同市においては一立方米突中における不純物が冬は〇、六三であるのが、夏はそれが〇、二一である。前記調査委員會委員等は、一立方センチ米突中に含まれるぢんあいの數、その形、その性質、その原因等をも調査してゐるのである。オーツエン博士が倫敦醫師會で發表したところによると、われ〳〵の鼻こう氣管等は適當なる空氣ろ過器の作用をなさぬ、普通の靜かな呼吸では塵あいは肺の深處へは達しないけれど、くしやめせき等につぐ深い呼吸は、それを肺の深處へ達せしむるのである。尚はオーツエン博士は新裝置によつて、空氣中の不純物を計算してゐる。これは空氣が濾過紙を通過するとき、その表面に不純物が附着するやうにできてゐて、センマイ仕掛が一記錄の終る毎に紙を動かすやうになつてゐる、さうして一晝夜に七十回レコードをとる事ができるのである、その紙の表面の黑くなる度合によつて、不純物の量も直に計量する事ができるといふことである。

今後の地震には奈何に處すべき乎

理學博士　今村明恒

地震を理解せよ

徒らに恐怖すべからず
徒らに輕侮すべからず

此度の關東の大震災に鑑みて、お互に心得て置かねばならぬことは、「地震を侮るな」と云ふことである。震災後一般に地震を怖れてはゐるが、それまでは、東京など地震を侮つて居つた　若くは重んじて居なかつたのである。彼樣な場所には地震が起り得べきであり、又其地震が襲つた以上斯る大火災は免れ得ないのである。而も、今日、消防機關などが不十分である以上、大火災に伴ふ人命財產の損害は測るべからざるものがある。或は市內の大部分を烏有に歸せしめ、又十萬二十萬の人命の損失を蒙むるかも知れない。それ等に對する注意も拂はなければならぬ。又地震學の權威者である大森博士の如きは、水道工事に對して地震に耐へるやう、改良施設を特に警告されたことが一再でなかつた。然るに、地震と云ふものが是程偉大なる災厄を與へるものであると云ふことを、從來當局も了解せず、——之に付ては我々も多少の責任を感ずるのであるが——一般社會も地震を侮つて居た。或は、一體に學問を重んじなかつた、とも言ひ得る。併し今度の慘狀を見ては、已に地震を侮るが如きことはないと思ふが、其反動として或は地震を恐れ過ぎて居ないか、地震に怯へ過ぎては居はせぬか、とも憶へる。故に、私は、地震を侮るな、と云ふと同時に「地震に怖るゝな」と云ふことを申述べたい。約り、地震なるものを能く了解して貰ひたい、と云ふに過ぎないのである。

地震の禍害は火災に在り

火災防止の一點が震害の輕減
當時地震學教室の執つた態度

私は、地震の災害を最も輕くする方法としては、地震に伴ふ火災を防止する一點になると云ふ考で、地震それ自身は左まで恐るゝに足りない、眞に恐るべきは地震に伴ふ火災である、と云ふことを十八年以來同僚の間には述べ續けて來た。遺憾ながら、東京に於ては、一般に地震を重大視しなかつた關係で此度の地震の突發に際しては、其侮つた反動として恐怖が度を越え、何よりも先づ火災の防止に努めなければならぬにも拘はらず、炊事中であつた火の元の用心を忘れて逃げ出したとか、暑中のことゝて、上衣を脫いで執務して居つた者が、其儘飛出して、更に上衣を取りに這入ることも得せず、翌日來ても間に合ふ位の積りで、自家の安否を氣遣つて歸つてしまつた後で、事務所は自己の上衣や懷中物と共に燒かれてしまつたと云ふ例が澤山ある。一方に於ては彼の桑港の震災に鑑み、發火の原因が殊に化學藥品に多いと云ふことを震災豫防調査會に於ても報告になり、注意されて居つたにも拘はらず、それ等の取締が何等出來て居なかつたことは、此度の發火の原因が大部分化學藥品にあつた、と云ふ實例が之を示して居る。殊に、其發火場所が、地の震動のひどい所程多いのであつて、潰れ家や破損などの多い場所を選んで發火して居るのは、左もあるべきことゝ思ふ。而も、縱令出火しても、隣保相助けて、それを消防しなければならぬにも拘はらず、避難にのみ急にして、其上荷物まで持出し、道路を塞ぎ、交通の杜絶したる後を火の流に追はれて、終に荷物を燒き、自己の着物にまで延燒して來るとか、或は兩方から橋を爭つて、橋の通行が出來なかつたとか、それ等の狀況は全く安政二年の江戸の大地震に於て經驗した所を、今亦繰返したに過ぎない。此際、新大橋の袂に於て、一巡査が荷物を持つた物の通行を許さず、自から進んで荷物を川に投じた爲に、反抗を買ひ、遂に拔劍を以て强制しなければならぬやうになつたが、全く空手の者のみ通行を許した。之に對して當時大分恨れはしたが、後に至つて、其巡査の

爲に命拾ひをしたと感謝した人が非常に多い、と云ふことである。其巡査の名も今は調べられて判つて居る。

地震の時、私は恰度大學の地震學教室に居つて、震源の位置を考へて居た。外の者も皆地震に就いて比較的能く了解して居るので、地震の爲に怯へるやうなことは決してない。二三十分の後に於ては、震源は斯く〳〵の位置であらう。又海嘯が伴ふであらう。或は此地震は豫て多年疑問に思つて居つた外側地震帶に相當するものである、と云ふやうなことを當時集つて居た外國の新聞記者諸子に向つて發表した。之に對して、私は、今日まで別に修正をする必要を見て居ない。其後、震源に就いて種々の研究者があり、追々と種々な事項が分るやうになつて居るが、地震がどう云ふ場所に、どう働いたか、と云ふことに就いては、今日其正確なる推定を下すのに時期が尚早いと思ふ。取敢へず、海軍の水路部、並に陸地測量部に依頼して、精密なる海の深さの測量と、海岸線の水準の變更等を調査して貰つて居るが、是が早くも來年の一月までは要かる。是が完結しない以上は、十分なる推定は下し難い。

然るに、間も無く大學に於ても化學藥品の原因に依りて、二箇所に出火し、延ひて我地震學教室も三度程屋根に延燒を起した。當時、消防に役立つ水は無く、屋根瓦は散つて、延燒し易い事情にあつた。一方、地震は頻々と相次いで起る。家を地震に搖られながら、屋根に上つて、其延燒を防禦しなければならぬ、と云ふので一寸地震を了解してゐなければ、出來難い藝當であつた。幸に、我教室の職員は皆能く地震を了解して、恐れなかつたが爲に、一同勇敢に戰つた。是が地震學教室を燒失から救ふた大なる原因だと思ふ。

當時の迅速

熾烈なる旋風とその齎らす火焰と毒瓦斯

尙ほ、當日は、初め風速十米突の南風であつたが、四時間の後に於て非常に鋭い疾風を起して、それ

が東京市中を横過つた。海上で經驗のある方は御承知であらうが、「スコール」が起ると、驟雨が降つて來る、其際に於ては龍卷が能く伴ふ、東京に於てもさう云ふ現象を呈した。火災が始ると同時に、それに伴つて、夏の夕立と同じやうな現象が現れ、入道雲がモク〳〵と立昇つた、それが「スコール」を導いたと云ふことになるのかも知れぬ。到る處に旋風を起して、其最も大なるものが被服廠を襲つた。此被服廠を襲つた旋風の現象に就いては、恐らくまだ何處の科學者も說明して居ないと思ふが、震災豫防調査會員たる理科大學敎授寺田博士は專ら是が研究を爲し、可成り調査が進行して居る。其研究に據ると、被服廠を襲つた旋風は、午後四時頃であつて、隅田川の兩國橋の北側（左岸に東京高等工業學校及專賣局の煉瓦建あり、右岸に國技館あり）に於て初て認められた、其旋風たるや直徑は凡そ國技館の三分の二、高さ國技館の三倍位の大きさのもので、それが延燒しつゝある東京高等工業學校の煙や焰を捲込み、川中に浮んで居た船を一間二間の上に持上げ、忽ち横網町の安田邸に上陸して、其東隣なる被服廠の北隅に進行して行つた。今日遺つて居る材料に據つて見ると、其時の旋風の速さは一秒六七十米突、疾風の殆ど最大限に達したかのやうである。或は大木を根こそぎにし、枝をもぎ、或は荷車や自轉車を高い木の枝に引掛け、或ひは亞鉛板二つを恰も手拭をしごひた樣にし、それを高い木の枝に斜に引掛けて居るが如き、非常なる力を以てブッ付けたと云ふことが明に解る。それ程強い力を有つた旋風であつた。當時相生署長は署内の巡査合宿所並に自分の官舍が恰も旋風の上陸した位置にあつた爲に、それへ向つて行く途中、五六間吹飛さるゝ所は認められたさうであるが、遂に署長の死骸は發見されず、唯其帶劍が三十間先の反對側に於て見出されたさうである。而して、此旋風の含んで居た煙、焰が忽ち被服廠に避難して居つた人達の荷物や着物に燃え移り、又其旋風に含んで居た瓦斯を吸ひ込んだ人は直に絶息した。安田邸から走つて來た人が、忽ち木乃伊の如くなつたと云ふことである。斯の如くして、僅の間に、被服廠に避難して居つた人の大部分が燒死し、纔に中央から南の方に避難して居た二三千人

の人が助かつたのみで、其の一廓に於て見出された死骸の正確な數が三萬八千十五人であつた。斯くの如き猛烈な旋風は風速七十米突でなければならぬ。中央氣象臺に於て記錄した風速の最高度は、七十一米突に達して居る。其他、或は、今戸に起つた旋風は家を倒し、十二時の地震と同時に停止して居た電車を四十間の先に飛し、（是は交番の前に於て停止して居つた電車が燒けて、機械だけ殘つた位置が四十間先にあつたと云ふのである）或は、地方橋場に起つたものは、馬車を捲上げた、と云ふが如く、さう云ふ烈勢なる旋風が彼方此方に起つて、初め南から吹いて居た風が、其午後四時を基點として、次第に方向を變へ、遂に一晝夜の間に三百六十度回轉した。若し終始同じ方向で風が吹いたならば、一つの流を燒くだけで、お終ひであるが、それが次第に回轉して、遂に一周をした爲に、前に燒き殘されたものまで、到頭燒き盡されてしまつた譯である。其間、東京を少し離れた王子邊では、初から天氣靜穩であつたと云つて居る。約り斯くの如き風は唯火災に依て誘引されたと云ふことが、實際に近いらしく思はれる。

地震と火災の損害比例

震害は幾等かの人と物を殘すも
火災は凡てを零に歸せしむ

さう云ふ次第で、火災の當時はそんなに風が無くても、火災それ自身が風を起して、それが爲に損害を大きくすると云ふことが、此度の經驗に依り初て了解された。由來、日本に於ける地震の統計の上に現れて居る損害は、日本家屋の潰れ家十一軒に對して、死一は一人しかない。日本家屋が倒壞して、其下敷になつても、餘程運の惡い人でなければ、死なゝい。よく〳〵運の惡い人が、桁、梁のやうな大きな材木に壓へられて、致命傷を受ける外は、下敷になつても、大抵の者は安全に脫れ出ることが出來るそんなことを考へると、地震それ自身は左まで恐るゝに足りない、併しながら、地震に火災が伴つた場

合の統計に據ると、三軒の潰れ家に對して一人の死人が出來る割合になつて居る。即ち、統計の示す所に據ると、地震に火災が伴ふ場合は、地震のみに止る場合よりも、人命に於て四倍の損害を起すことになる。況むや、財産上の損害に至ては、家が潰れても、先づ材料は殘る、財産も下敷になつて居るのを取出すことも出來るが、火災に遭へば、何も彼も零になつてしまふ。

又、從來東京に於ては、防火地區或は防火家屋と云ふやうなものがあつて、多少火災に對する用意が出來て居つたのであるが、地震に會ふと、それ等の防火家屋、防火壁が悉く其防火價値を失つて、土藏の如きも龜裂が入り、屋根が剝れた爲に、其處から火を導くと云ふやうな譯で、耐火家屋、防火地區であつた所が、地震の後に於ては、全く其耐火、防火の意義を失つてしまつた。又高層建築物も、高い場所に矢張り燃燒性のものを備へて居つたのが、高いが爲に自から延燒を導いた。例へば、本願寺の飛火が大川を越えて築島に延燒し、又隅田川の帝大の艇庫の飛火が、川向ふの橋場の方に延燒をした。是等の風が共に加つて働いた關係もあるが、常の意味に於て、耐火家屋であるものが、全く其耐火と云ふ性質を失つてしまふ。

水道鐵管は今回の地震に依り三十分の後に於て用を爲さなくなり、其爲に消防に使ふ所の水利は殆むど無くなつた。縱むばお城の濠の水があつても、平常其心掛が其處に至て居なかつた爲に、折角の溜水も寶の持腐れで、三十尺以下に溜つて居る水は吸ひ上げる力がなかつた。押上げるのには好いが、氣壓の關係で吸ひ上げることが出來ない。さう云ふことで、半藏門脇のお濠の水などは、全く消火の目的に用ひることが出來なかつた。それでも、消防隊の惡戰苦鬪の結果、凡そ三分の一位は消し止めたのである。

所謂地震帶

局部地震と非局部地震

震動の主要部と往復振

約り、私の申述べたいことは、「地震を侮るな」、「地震を怖れるな」――地震の餘震などは左まで怖れるに足りない。此節であると、僅か一分位しか動かない。地震にも、餘程恐怖を感じて逃出すと云ふやうに、大層神經過敏に陷つて居る模樣であるが、其爲に一層災害を小さうすることが出來なかつた、と云ふ場合がある。私の標語のやうに申すのは、地震は左まで怖れるに足りない、眞に怖るべきは、地震に伴ふ所の火災である。火災がどう云ふ手段を以て禍を大きくするかと云ふことは、此度の地震に依つて漸々と能く經驗された次第である。

仍で、大阪の土地に就て考へて見ると、此間も大森博士の意見と云ふものが新聞に出て居つたやうに承知して居るが、地震學の進歩の上から、大阪に於ける將來の地震はどうであるか、と云ふことは、まだ的確に申述べる程度に達して居ない。併しながら、場所に關する地震の豫知問題と云ふことは、今日相當に研究が進んで居る。此度の東京の大地震に就いも、あの位置は今後地震を起すべき場所であるだらう、と云ふことは推定されて居つたのである、約り、大きな地震の起る場所を地圖に標しを付けて見ると、出放題に彼方此方に起るべきものでなくして、或地方に於ける地震を起すべき區域は一つの帶の中に含まれてゐる。其帶を地震帶と稱する。現に今度の地震を起した震源の位置は、日本の外側、太平洋の海岸線に略々平行して地球を南斷してゐる所の非常に大きい地震帶がある其地震帶に屬してゐるものであると云ふことは、先づ殆むど疑のないことであらう。其外、東京では、東京附近を通つて居る小さな低精地震帶がある。安政二年の大地震などはそれに屬したのであるが、此大地震は餘り區域が廣くなかつた、限局された場所に起るので、斯の如き地震を局部地震と稱し、今度のやうな非常に大きな區域に起るものを非局部地震と稱してゐる。今度の地震を、安政二年の地震と比べてどうかと云ふことが能く問題になるが、地震の性質が全く異ふので、比較が困難である、と言はなくてはならぬが、強ひて比較して見ると、安政二年の地震の方が、東京に於ては今度のよりも強かつたであらう。併ながら、地

震それ自身は、今度のより數倍、若くはそれ以上に桁違ひの大きさであつた。又振動の性質が、安政二年の場合と、今度の場合とは全く相異してゐるけれども、明治二十七年の東京地震は、安政二年の江戸地震の系統に屬するものであるが、其經驗に依ると、機械觀測の結果、安政二年の大地震は、初に數秒間比較的餘り大きな振動でないものが來て、數秒の後に本搖れになつた。其本搖れのことを主要部と稱してゐるが、其主要部が一回若くは二回大搖れに搖れ、其後は二分の一、三分の一、四分の一、五分の一と云ふ程度に急に衰へて、次第々々に鈍くなつた。大搖れに大きく搖れたのは、主要部の初の二三回の往復振動だけであつたと推定される。所が、今度の地震は、東京に於ての觀測の結果であるが、是は横濱に於ても、亦鎌倉に於ても同樣の狀態であつたらうと推定される理由がある。それは、大きな主要部の振動になつて、殆むど北々西の方から、南々西の方に向つて主な振動が始まり、初は比較的小さな振動でありながら、壁の龜裂剝落、或は瓦の剝落が起つた。それから、大搖れが前述の方面に始つて、六回目の波が一番強かつたやうである。其一等強い波動は、先づ三分目位で起つたらうかと推定されるが其後一秒半位の搖り方が次であつたものが、二秒三秒と次第に鈍くなり、鈍くなると同時に、搖れ方が大きくなつて、六寸や七寸程度に達したかの如く推定される。而して、さう云ふ波動が繼續すること二分乃至三分、次第々々に弱くなつたが、人體に一番強く感ずるのは、主要部の振動で、其後の大搖りに搖られたのは、恰も大船に乘つて居るやうな緩やかな振動を感じた。けれども、自己振動ののろい、大きな建物や高い塔などは、此後ののろい併し大きな波動の方が敏感であつたらうと思ふ。何故ならば、自己の振動の調子が地の振動と調和するやうな振動であると、共鳴の現象が起つて、次第々々に振動が擴大して來る、そこで洋風建築は殊に其影響が大きかつたものゝやうに推定される。

耐震火構造の建築物

伊太利メツシーナ市の實例
高さの制限に依る解決手段

今日、洋風建築家が、東京邊りに於ては、其建築物の目方の凡そ五分の一、二・二——五分の一位の程度を局限として、耐震建築を設計される。所で　地震動の最大限は、凡そ自己の目方の二分の一位の程度のものまで起るのである。由來、建築家は、大きなもの、高いものを建てることに餘りに熱心であつて、耐震構造と云ふことに關する注意が、或は薄くありはしないかと思ふ。今後の耐震構造に就いては斯う云ふ點にも注意されなければならぬ。さうすると、建築家の方は、さう云ふ耐震力を備へる所の建築は迚も出來難い、匙を投げなくちやならぬ、と言はれるかも知れないが、あの伊太利の『メツシーナ』市の如きは、十五年前に十三萬八千の人口の中八萬三千人が壓死し、是で市街全滅と云ふことが初て言へると云ふ程の大震災に遭ひ、恐らく其復活は不可能であらうとまで云はれて居た。それが、昨年私が行つて見ると、立派に復活されて居る。建築の高さは三階（多くは二階建である）を限度とし、道路を擴げ、公園を增すと云ふやうな譯で、今日は人口十五萬、震災前よりも繁昌して居ると云ふ狀態である約り、建築物をして　地震の振動に耐へるやうにするには、例へば、場所毎に前述の如き耐震力を備へなくとも、非常に地盤の惡い所に於ては、或は自己の目方の二分の一程度の振動に對して抵抗する力を備へしめなくてはならぬ。又同じ東京の町でも、地盤の良い所は、或は三分の一で耐へる場所もある。其場所々々に應じて、相當の耐震力を備へなくてはならぬ。のみならず、斯くの如き計數のみでは不可である。自己振動の如何に依て耐震力は變つて行くのであるから、それ等の關係も考慮されなければ、耐震家屋にはならない。併しながら、尙ほそれでも不滿足である。密集した場所に於ける建物は、耐震建築たるに止まらず、耐震火建築でなければならぬと思ふ。即ち、大地震に出會つても、依然として耐火の性質を失はない所の建築物でなければならぬ。斯様に考へると、建築家の方に取つては、殊に難澁

な問題になるけれども、高さの制限と云ふ點に依つて、能く解決さるべきことである、と私は信じて疑はない。

今後の地帶は何處？

天然痘に罹つた東京と種痘もしない處の大阪

今後の東京の復活に就いても、或は永遠の施設に對して大切なる大阪の如き都市に於ても、講究さるべき問題は多々あらうけれども、地震帶の研究の上から、大阪は悲しい哉、地震學の今日の幼稚なる程度に依ては、將來大きな地震が無いと云ふことを斷言し得ないのである。先づ、大阪には、淀川地震帶が通つて居る。又南方に於ては、大和、伊賀、伊勢の地震帶も通つて居る。更に遙か遠い所の紀州沖に於ては、外側の大地震帶が通過して居る。大阪は彼樣に或は近く、或は遠くに地震帶を備へて居る。而も、東京は、既に今日江戸川、東京灣地震帶も、京都などゝ同じやうに、最早其近所に於ては、再び大地震を起すであらうと云ふ虞が少くなつて居り、又外側の大地震帶に於ても、先づ當分は大地震を起すまいと信じて居る。約り、此地震帶に於ては、或場所に於て地震を起すと、小さな地震帶、即ち區域の狹い地震に於ては、隣から隣へ震源が移動して行く。大森博士が研究して居られたが、そんな譯で、寧ろ大阪の如きは、其研究から云へば、或は他の場所よりも局部の地震を起し易い位地にありはしないか斯の事に就いてはそれを打消す處の材料を有たない。更に、外側の大地震帶を考へると、從來、外側大地震帶に於ては、明應年間遠州灘の大地震に依つて、濱名湖の一部が陷沒して、今切と云ふ所が出來、或は慶長九年に武藏相模の方面に大地震があつて、單獨に起つた場合が通常であるが、又一箇所に大きな地震を起すと、或距離を隔てゝ他の地震が起つて居る例が無いでもない。即ち、元祿十六年に、房總半島の東南海岸で、大きな地震が起つて、恰度今度の地震の東側の續きに當るのであるが、それが、隣の今度の場所に地震を誘發せずして、五年の後、寶永四年十月四日に於て、土佐沖に大地震を起した。

是は、大阪にも海嘯を浸入さしたもので、徳川年代に於ける最大なる地震であつた。又安政元年十一月四日には、駿河の沖に於て大地震を起し、東海道一圓、非常に廣汎なる區域に亘つて潰れ家を出した。唯震源までの距離が遠い爲に、振動は餘り強くなかつたが、同時に海嘯を起して、伊豆の下田に於ては露西亞の軍艦ギアナが難破した。それは安政元年十一月四日の朝起つたのであるが、翌五日の夕方紀州沖に於て、又同樣の大地震が起り、其爲に大阪にも海嘯が浸入し、前日來の地震に怯へて船に避難して居た大阪市民が、安治川木津を溯る海嘯の爲に數百名程溺死し、西横堀の橋は悉く落ち、又木津川筋を蒲鉾型の千石船が押上げられて、途中の橋を總て破壞してしまつたと云ふやうな事實がある。尙ほ、明治年間に於ては、明治二十二年三月二十二日に、根室の沖に起つた地震は海嘯を伴ひ、引續き、同年六月十五日には、陸中の沖合に於て、非常に大きな地震を起した。陸地から遠く震源が隔つて居つたが爲に、地震直接の影響は先づ無かつたと言つても可いのであるが、非常に大きな海嘯を起して、死者二萬二千人を出した。是が所謂三陸の大海嘯である。斯う云ふやうに僅の期間を隔てゝ、又他の場所に於て大きな地震を起す例もある。劣勢なる小地震帶に於ては、隣から隣へ段々と波及して行く例もあるが、優勢なる大地震帶に於ては、突然離れた所に於て起る。而も、僅な例であり、我々の統計は數百年若くは千年位の記錄に便るの外はないので、寔に幼稚ではあるが、此間に於て經驗された結果に依ると、西若くは西南の方に移動をして居る事實がある。さう云ふ關係上、今後は東京附近よりも、寧ろ離れた西の方が不安でないか、と云ふことも感ずる。小さな地震帶に於ては、直ぐ隣の所に他の地震を誘發するが、外側の大地震帶に於ては、非常に大きい區域に於て地震を起し、引續いて、接續せる地方に於て續々餘震を起す。其餘震は若し陸上であつたならば、非常に大きな地震でなければならぬ。東京でも、當日又は翌日までに、一寸から二寸位の餘震があつた。あれが陸上で起つたならば、相當に大きな地震である。それが、最初の大地震の起つた場所から、十里二十里離れた同じ地震帶の上に於て起り、或は直

通する江戸川・東京灣地震帶に於て起ると云ふやうな譯で、近所の位置に於て起る。それ故に、小さな地震帶で現れる性質、即ち劣勢なる地震帶に於ては、一つの大きな地震があつて、隣から隣へ漸次波及することが、大地震帶に於ては、僅か一秒時間の中に既に其仕事を成し遂げて、近所の方もそれで終つてしまふ。斯う云ふ考へから、私は東京邊りはもう天然痘に罹かつてゐまつたので、當分地震と云ふ天然痘に再び罹る虞れは少いであらう。素より、今天然痘に罹つても、將來再び天然痘に罹らない、と言ふことは出來ないが、此際に於ては、寧ろ、まだ種痘もしてゐない大阪邊りが、天然痘に罹り易い狀態にある、と云ふことを感ずるのである。

但し、私は斯う考へる。地震を侮るな、地震に對して怖れるな ― 此怖れないと云ふことが、恐らくは種痘と云ふやうなことに當るのでないか。市民に種痘といふ訓練が出來て、地震を怖れないと云ふ自信があつたならば、ナニ家が潰れたつて、大丈夫だ。大抵助かるんだ。餘程運の惡い者でなければ死なない、倒潰家屋十一軒に對して一人しか死なない、と覺悟して、火の元の用心をせよ。瓦斯に點火してあつたならば、止めて置け、炭の火が熾してあつたならば、消して置け、家がグラ〳〵して居つても恐れるな、火の元を用心せよ、學校などにある化學藥品は平日から始末して置かなければならぬ。我々の震災豫防調査會に於ても、震災豫防に就いて、近く具體的の意見を當局へ提出する運びになつて居る。不幸にして出火したならば、隣保相助けて撲滅せよ。餘震があつて、氣持が惡くても、さう云ふことに決して怯へるな。勇敢に出火を撲滅せよ。斯う云ふことを實行したならば、震災後の火災は、大部分、殆むど九分九厘までは免れ得るものと信ずる。斯くなることが、恰度種痘のやうな作用に當りはせぬか種痘をしても、絶對に天然痘に罹らない、とは限らぬが、種痘をして置けば、假令天然痘に罹つても、非常に輕い、約り、私は、天然痘が流行して、絶えず怖れて居るようであるから、取敢ず種痘をなすつたら如何であるか、と云ふことを申述べたのである(文責在記者)

木造家屋の研究を進むるの要なきや

都市計畫技師　大屋靈城

一

此度の震災によつて案外と思ふ事は澤山あるが、木造家屋の耐震力も案外弱かつたようである。逗子や箱根の田舍屋がバタ〳〵と倒れたのも實に思の外モロイものと言はなければならぬ。然し東京市の内外に並んで居る木造住宅が、僅かに屋根瓦のみの損害に止まつて居るのを見ると　全々木造家屋が地震に駄目なものとも思へぬ。尤も東京は地震の強さに於て餘程箱根等より弱かつたらしいが、それでも土造や煉瓦造の家が崩壊して居る傍らに平氣で建つて居る木造を見る時に、何だか木造家屋の耐震的の力をゼロであるとは認められぬふしがある。

此度の震災によつて、木造家屋が崩壊したからと云つて木造は全々駄目だと論ずることの正鵠でないのは、此度の地震で鐵筋コンクリートのビルヂングが崩壊したからとて、鐵筋は駄目だと結論されないのと同樣に早合點ではあるまいか。私は建築專門家でないから構造上の議論は出來ないが、木造が倒れたのは多く木造其物が惡いのではなくて、木を用ゐて家を造る場合に其の造り方が惡かつたのではなからうかと思ふ。

木造でも神社佛閣の如き手事な建築物中には平氣なものがあるし、又最近に建てゝ大いに注意した建

築には害を被つて居ないのもある。就中屋根を輕くした平家は多く助かつて居る。瓦がメチヤ〳〵に落ちたのも、瓦其物が建築材料として不都合なものであると云ふより、寧ろ其の葺き方に不都合な點があつたと思はるゝ部分が多いようである。或別莊で立派な洋館の母屋が倒れて、主人を初め家族一同はトタン葺の門番の小舍へ避難した等と云ふ話しがあるが、天のなす『イタヅラ』の實に皮肉であるのを思はせるいゝ例であらう。トタン葺の小舍に馬と同樣の待遇を以て飼はれた門番も、時に立派な王樣を避難させる事が出來る。これから考へると木造建築でも穴勝捨てたものでない思ふ。

二

『曾て先年伊太利の震災の時、伊太利皇帝は耐震家屋として日本の木造建築は上乘のものなればよろしく、今後は之れに倣ふべしと云はれた』と新聞記事が出て、これを日本の建築家が誰であつたか忘れたが『是等は外國人が我國情に通ぜざる者の觀察とすれば何等差支ないが、現在我國に於ける先覺者間に斯る思想を有する者多かりしを知るとき吾人は啞然たらざるを得ない』と批評したが、一應御尤とも考へられるが、然し今少し深く考へて見ると、我國の國情に通じ乍ら、これを弊履の如く捨て、且つ顧みぬ建築家も餘りに無謀ではなからうか。

我國二千年來の歷史を考へ、又國としても木材の饒富なる事他に類なき森林國であること濕氣多く夏暑く、歐洲諸國より室內の通風等は多くを要するの國に於て、今日の木造家屋を全々捨てる事は日本國民として餘程の決心と多大の年月を要する事である。而も之を捨て誰も彼もが西洋風に、鐵筋コンクリートの家に住まねばならぬ必要がどこにあらうか。都市に於ては自己本位に行かぬから、他人の迷惑と云ふ事を顧慮して燃え易き家を造る事は愼まなければならぬが、田舍にあつては自分さへそれで滿足出來れば木造で何等不都合はない、寧ろ住み心地よく輕便な木造を勸めたいと思ふ。よしんば都市に於け

る住宅にしても人の迷惑に成らぬように家の周圍に相當の空地を置き、庭園を構へて他と離れて居れば住宅として木造あながち排斥すべきものではないと思ふ。私は伊太利皇帝のこの言葉は當らずとするもこれは實に我日本の建築家に一つのヒントとを與へられたるものとして大いに嬉しく思ふ。すべからく日本の建築家はこの有難き御言葉に奮勵して、木造家屋の耐震的構造法に就て大いに研究して以て世界に誇るべき一つの建築樣式を案出すべきではなからうか。

三

此頃の新聞、雜誌等に發表さるゝ建築諸大家の意見を拜するに多くは木造家屋の耐震耐火力の少なきを說き、將來の日本住宅、特に都市の住宅は絶對に木造不可鐵筋コンクリート可なりと述べ、木造と雖も十分の見込あれば研究すべしと敎ゆるものは至つて稀である。鐵筋コンクーリトが理想的の耐震家屋であるか否かは玆に論じないが、よし理想とするも果して人間の住み家として理想的なるか否かを考ふる必要がある。

住宅は吾人の全生活の中心となるべき大切な場所である。即ちホームである。その心持良きと否とは吾人の精神にも身體にも、將又家族のそれにもこの位大なる關係を有するものはない。今日の生活樣式を全々變へなければ、吾人は鐵筋コンクリートの家に棲む等は出來ない（尤も無理に日本風に鐵筋コンクリートで家を建てる事も不可能ではあるまいが）座式から椅子式位の變化と異つて總ての生活が變る有形的に無形的に。これに就ては大いに考へなければ吾人は木造家屋が捨てられないと思ふ。

今日我國の都市が色々と失敗を重ねるのは多く消化しない、西洋文化を鵜呑みにするから起る事が多いと思ふ。木造家屋を捨てるに於ても鐵筋コンクリート家屋を採用するに於ても、我國の風土は勿論人情風俗を加味して熟慮した上でないといかぬと思ふ。我國の住宅の中でも室町時代から起つた茶席風の

建築所謂數寄屋造り等には將來日本の住宅としての家屋として此れより學ぶところ多いものがあるように思ふ、今日のベランダーの如き又テレスの如き穴勝西洋にのみあつたものではない。又茶席の如き簡にして素而も便利な構造を有する住宅は恐らく西洋にもあるまい

此の頃の人は一も西洋、二も歐米と彼國の風のみを趨ふの傾きがあるが、これは大いに戒しむべき事である。木造建築にありても然り、今日の建築家は木造家屋を忘れんとして居る。私は思ふ木造にして少しく耐震耐火なるに於ては住宅として最も良きものであるだらうと。

木造にして耐火なれとは望み得ぬにしても空地によつて他よりの火事には耐へるように出來る。耐震的に改良することも或は不可能ではない、高さに於て相當の制限を加へ材料と其の取付けを考慮し重力等に就て攻究したならば必ずや耐震の度を或程度まで高める事が出來ると思ふ。

『我國從來の木造家屋は普通の力學上の原則から見て之れを正當の構造と思はぬ』と云ひ切つた儘捨てゝ置く事は決して木造家屋に對して親切な處置ではない、而も國民の大多數が好んでこれを造りたがつて居るこの木造に對して、今少しく建築家諸君が熱心なる研究を續けらるゝ事は國家に忠なる所以であると思ふ　茲に諸彦の一考を促したい爲に『敢て木造家屋の研究を進むるの要なきや』と私は叫ぶのである。（十一月十九日認む）

塀の白さ冬日講義とおくれ來て

非常時の設備

京都帝國大學
工學部教授　工學博士　武田五一

我國の從來の設備は何事も徹底的に出來て居るものがなかつた經費の關係もあり、種々なる事情もあり多くは姑息な一時を糊塗するやり方のものが多くして、到底非常時を考へてやつて居る餘裕などはなかつたようである。德川時代のものは萬事『一朝戰爭あれば』と云ふ覺悟のもとに準備がせられて居たが、明治大正と次第に歐米の文明を攝取する必要に迫られて來ては、其採用模倣に日も亦足らずと云ふ狀態で、社會の體裁を整ふるだけでも未だ充分と云ふ所には達して居なかつた。況んや萬事が徹底的に設備されるなどと云ふ事は、現今の日本では及びも付かないことであつた。唯僅かに軍隊のことが漸く安心が出來かけて居た位であつて、其他の社會設備は遺憾ながら間に合せの有樣であつた。其れで外形だけ少くとも市街の大通りに面して居る部分位は稍歐米の都市に劣らない形だけにはなつて居たが、九月一日の大震はすつかり其眞價を曝露して千古未曾有の大火となり、東京市の大半を燒いてしまひ、約百億に餘る財產を消失せしめた。

我國の斯の如き天災は珍らしいことではない、明曆の大火、安政の大震、濃尾、江州、大和地方、島原地方、至る所殆んど毎年此種の災に逢ふて居る。東京だけでも百年目位には此位の大震は起つて居るのであるから非常時に對する用意は最も必要であることは分り切つて居るにかゝはらず、目下の要求に追はれてそれが出來ないと云ふことは全く遺憾至極のことゝ云はなくてはならない。

それから先きは先づ以て非常時の避難準備をして置いて非常の際、出來るだけ損害の少い手段を講じて置きたいものである。

地震の損害は勿論悲慘至極なことであるが、其れよりも見るに堪へないのは火災の難である。濃尾の震災で計算された所では、震災では毎十一戸に一名の死者を出し、火災では四戸に一人の死者を出したと云ふことである。今回は東京、湘南地方を合して十戸につき一人の震死者を出し四戸につき約一人の燒死者を出してゐるところから見ると、此數字は大抵極つたものと見へるほど火事は恐るべきものである。地震は割合に恐ろしきものでないことが分るのである。

現在の家屋を追々と耐震家屋として行けば、此震死者の割合は非常に少いものとなるであらう。燒死者の方は木造家屋が少くならなくては此割合を少くすることは六づかしからう。木造家屋と雖も之れを耐震構造とすれば燒死者の數は多少減せられることゝ思はれるが、地震的の火事に逢ふては之れもどうか分つたものではない。

我々建築家は耐震耐火の家を造り、都市と市民の安全を保證しなくてはならないが、其れより先きに地震のときの火事は如何なる形で起り擴がり燒け止るかを知つて置くことは無駄ではあるまい。

近代的の都市は火事の起る危險が甚だ多い、特に工場に於いて裸火、爐火を使用し、之れに燃質の材料が觸れるときは忽ち火事となり、電線切斷すれば火花を發して火事の原因となり、瓦斯管の破裂に瓦斯の漏洩石油ガソリンタンクの破裂は忽ち火事を擴大せしめる、特に發火性の藥品を不注意に保管せる場所等は甚だしく危險性を有する地點となる、今回の地震に於て諸學校の化學教室から發火した例は甚だ多い、東京帝國大學構内で三箇所、第一高等學校、陸軍士官學校、日本齒科醫學專門學校其他數ヶ所は何れも化學の藥品室より火を發してゐる、貴重なる圖書七十萬卷を燒いたと稱せられる帝國大學、圖書館も此藥品より出た火から延燒したものである、市内に於ても藥品商店から火を發したものは甚だ多く、其内には猫いらずの製造所等も加はつて居る。之等の危險物を取扱ふ建築は特別に耐火的にして置かなくてはならないが、其取扱者も亦油斷なく注意して居なくてはならない。喉元過ぎて熱さを忘れな

いようにしたいものである。火藥製造所の如きは此點に關し、極めて愼重なる注意がしてあると云ふことである。セルロイド工場、綿火藥工場も亦よく設備がしてあると云ふことであるが、學校試驗場等では藥品貯藏庫に耐火的の手法を施してあり、藥舖に安全裝置のしてある所は餘りないようである。之れからは此點に就て特別なる設備をしたいものである。

貧民窟からは眞先きに火が起る、今度も本所からは眞先に火事が出た、工場地區よりも亦火が起り易い、之れは其住民が多くは借家人で、家に對して執着がなく、家のことを心配する先きに逃げ出してしまふのが多いからでもあり、家自身が安普請ですぐにも火の付き易い薄つぺらなものであるからでもあらう。貧民窟は多くは新開地に建てられる、そして其れは多くは長家造りである、消防裝置が充分行き屆いて居ない、道路の狹い所に薄つぺらな長家が建ち並んで居る、其れが一朝震災に遭遇したときどこかに火が出たと想像して見れば　其跡から起つて來る事變は誰れが考へても身の毛もよ立つばかりである。淺草千束町、玉姫町、鮫ヶ橋等は非常の變を慮りて常に何等かの設備をして置かなくてはならない所であつた。谷間の地又は低地は又不思議に常々火災に見舞はれる所である。之れは風が常々其部分に集中することゝ貧民窟が多く其等の部分に蝟集して來るからであらう、小石川柳町、神田三崎町、早稻田田畑、赤阪田町等は皆此等の種類に入るものである。都市として危險より免れんとするには先づ之等危險地帶に眞先きに耐火、耐震の設備をして置かなくてはならなかつた健全なる住宅を得んとするには其便所又は塵溜を完全に消毒して清潔なる場所としなくては安心出來ないことゝよく似て居る。復興すべき東京市に於ては先づ貧民窟を清潔安全なる地帶たらしむることが第一の急務であることを忘れてはならない、貧民窟を耐火、耐震構造として置けば其地の部分からは先づ大火災が起ることはないであらう——例へ起つたとしても其れを消し止むることはさして難事ではあるまい。

火事が起つたとして其れが如何に延燒するかも知つて置かなくてはならない、平常のときなれば火の

粉が飛んで來ても屋根なり壁なりで相當防げないこともないが、地震、火事は先づ屋根瓦と壁土を振ひ落して木部を裸かとし、煉瓦壁には龜裂が出來て先づ堵家若くは切妻の如き獨立部を挫折する火の粉は之等の部分より遠慮なく侵入して小屋組内の建物の最も弱點を突かれることゝなる、東京帝大の圖書館も第一震で破壞されたる切妻の部分から火の粉を呼びて最上階の貴重圖書庫を灰燼にしたと云ふことである。窓の流水裝置もスプリンクラーも其源タンクを破壞さるゝか水道に故障を起して何の役にも立たなくなると平常時の消防裝置は全く頼みにならなくなり、火は枯野を燒くが如くに自然の儘に擴がりて行くばかりである。氣温は益々昇るばかり、現に東京市の燒跡で見るが如く、鑄鐵の電車センターポールが曲る位の温度即攝氏八百度以上の温度になつて、其れに十米以上の風が加はつて來るから木材、紙綿等は直接火焰に接せずとも忽ち焰を發して風の速度と同じ位の早さを以て木材を燒いてしまう、非常なる速さで延燒したと云ふことであるが、さもあるべき事と思ふ。木造三層樓でもあつて其が燒け落ちることなると其激動で其部分には一時的の施風が起り、其れが又疾風を呼び起す地震、火事の恐ろしさは到底平時は想像し得られないものであるに相違ない、之等の變に際する消防裝置が震災前に考へられて居たであらうか、米國の桑港でも先年の震災のときには水道が破壞されて市の半ば以上を燒いた苦しき經驗に鑑みて市外のツキンピークに高壓水道水源池を作り、水道管を地下深く埋めて、非常時用の水道とした大阪島の内でも其れと同樣な企圖がある由であるが、此種の設備がせめて京橋日本橋の一部にでも出來て居たら東京の燒野原も其部分だけは丸の内のような原形を維持し得たらうと思はれて殘念至極である。芝の高地給水所は百萬石の水が溜められ、深さ十六尺にしてあつた筈である。本郷の高地給水所も略ぼ同樣にしてあつた筈であるが、どうして居たものかこれも非常のときは役には立たなかつた三宅坂一體を燒いた火に對しては深さ五十尺もある濠からポンプで水を吸ひ上げたのであるが、ポンプの能力は約三十尺以上には達せないので數臺のポンプを使用しなくてはならず、さりとて崖の中途は勾配

が急になつて居る斷崖であるから一度び櫻田門近くに水を導いて、其れから何臺ものポンプで漸く用を辨じたと云ふことである。其混雜の有樣は想像しても氣の毒千萬のことである。餘りに平時の消防にのみ安心して非常時のことを考へて居なかつた結果に外ならない。非常時に要する水溜りと其れに近づき易き道路にして、しかも重き三十噸以上もある蒸氣ポンプが安全に通過し得る道路を作つて置かなくてはならない、近來の消防は餘りポンプに信賴する弊がある、未開時代の破壞的消防法は非常時にはなかなか効果があるものである、阪本署長が坂本署を曳き倒して延燒を止め、日暮里附近の類燒を免れしめたことは特に注意してよきことである。非常時に於て家屋を破壞する道具は平常備へ付けて置きたいものである。

近來の大きな建物は米國風になつて間仕切りを廢止する傾向になつて來たが、此種の建物が類燒するとなると直ちに家中一面の火となりて甚だ消防に困難である、或程度までは間仕切りを作つて置て震害に備ふると同時に消防の助けにもしたいものである。

非常時の群衆心理は一般の例に依れば、暗示にかゝり易く極めて恐怖心と慘忍性に富んだものである其れが爲めに徒らに混雜を增し、怪我人を出し、當然の結果以上の怪我人を出すものである。被服廠の死者の中にも此種のものが定めし多いことであらうと思はれる。火事の際に一つでも多くの荷物を持ち出したいのは人情でもあり自然のことでもあらうが、其れが爲め火事の擴がりを廣くしたことは爭はれない事實である　其爲めに交通を害することも見逃すことは出來ない、如何に廣き通路でも前車の連續で交通速度が極度に短められる、其爲め折角身一つで遁げようとする一被難者が氣ばかりヮせつて足は進ませることが出來ず、其內に荷物に火が付き車が燒け人命をも危ふくしてしまう、折角の空き地も積み重ねられたる荷物で避難所の性質を失ふてしまう、海軍大學の燒失は其明き地に積まれた荷物に火が付いた爲めだと云ふことである。大學の構內も其爲め一事危險狀態になつたと云はれる　被服廠の內で

も其爲めに被害が一層多くなつたとも傳へられて居る、吾妻橋は其上に運ばれた荷物の爲に、橋板が燒け落ちて數百の人命を損じたと云ふことである。隅田川の數多き橋の內助かつた唯一の新大橋は一巡査の死力を盡した努力によつて荷物を橋上に運ばせなかつた爲めであるとのことである。非常時に於ける民衆心理の訓練と平時の心得は極めて必要なことである、流石に江戶時代には、所謂武を練ることに心懸けて常に武士の家では非常の際の心得を日常子弟家族に言ひ聞かしてあつたと云ふことであるが、之れからは國民敎育の內にも此種の敎育を施したいものである。毒瓦斯に對するマスク火の粉を防ぐ眼鏡其他科學的に考案されたる種々の避難器具が外國にもあり、我國にも傳はつて來て居る筈であるが、其れを使用して多少でも災害を輕減したことを聞かない。百の新案千の發明があつても一つも其れを應用されて居ない所を見るとまだ〳〵我國の科學の應用と云ふことは前途遼遠の感がある、かくの如き非常の際にこそ科學的の發明が役立たなくては何にもならないことゝ思ふ。發明家先生達の一層の發奮と努力とを希望する次第である。

□我に終りし着帳の筆も夜半の冬

□咲き褪せて菊瓶にあり夜半の冬

現代科學に伴はぬ我國民の性癖

日本エレベータ株式會社
常務取締役　谷民藏

一

現代文化は科學萬能である。然して科學の進化は遂に人類の精神界をも奪つた樣な感がある、我國は明治の維新以來世界の文化を輸入して遂ひに今日を贏ち得た事は事實である、故に世界の先進國は我同胞の恩師である、恩師の恩を忘却してはならない、大に報ゆる所なかるべからずと一度崇拜と報恩の念に驅られた我國民は是も非もなく拜外宗と化し、追慕日も足らざる有樣である。吾人は建築界の一員として過去廿年寢食を忘れて太西科學の薰陶を得た斯界は、既に歐洲にも亦米國にも敢て恥しからぬ外觀整ふる名建築も出顯し、科學的智囊に於て或は海外の恩師を驚嘆せしめたものである。見よ明治の中興より大正の今日まで歐米直寫の建築は幾何ありや官民何れを問はず、苟も大厦高樓にして現代文化を掌握する建築物はそれならざるはなし、斯の現象は獨我建築界のみならず、我國の天下は概ね歐米文化の直寫である。精神界に於ても亦近時思想の襲來に依つて甚大なる衝動を與えてゐる、我大阪の如き浪花人士の特徴を踏襲し來つた都市民と雖も、外國にその精力を奪はれ、譬へ我家傳の優秀品と雖も顧客の間に對して、イヤこれは上等舶來であると自家の製品に外國の『レッテル』さへも張り付けまじく、巷間叫ぶ露天商人と雖もサア舶來の上等と呼稱するも敢て怪しまぬまでに我國民性に進入し、小學兒童にまで強く感染した走馬燈の如く、先進にのみ狂奔せる國民は例令自信なき外國品と雖も、購入後の失態は天下がこれを公認すると云ふ不思議な現象を知委した外人は、所謂東洋向きなる特種劣等品すら放賣

し、使用後業績の擧らざるものにはその取扱ひ宜しきを得ずとして自己の足らざるものと自ら恐縮隱閉するの事實すら少からず、我建築界に於ては外國斯業者に實費計算を是認し、又外國注文には隨意契約をして怪まざるものも我國所謂組織完備を人また我も公認せる當業者に對しても、猛烈なる低價競爭を行はしむる事は一般の認むるところなり。

二

實に我國家國民が武力戰爭にと云へば一命を屠して敢て惜まざるも商戰に於ては何等戰ふところなくして、武力戰爭以上の代償を仕拂つて奇怪とせぬ、故にかゝる不條理の國民性は海外文化國民の判斷し能はざるところにしてこれを直解して曰く、日本國民は戰爭好なり、血を以つて戰ふ武力戰爭は、三度の食事以上の好物視するものと恐怖し、こゝに平和的商戰に於てまんまと大勝を博して居る外國民に敬意を拂ひ、戰爭以上の成果を支拂ひつゝある事を忘るべからず、殊に這般の震災に現れたる諸現象中先づ都市建築物の大破の慘害を見て、如何に我一部の國民が太西文化の模倣直寫でありしかを思はしめたり。米國某大學教授の談に曰く、鐵筋『コンクリート』は硬化凝結を終るまで一百分の二乃至五の伸縮あるものなりと云ふ、之等の調査果して然りとせば、近來我都市に需要盛なる或種鐵筋の如きは甚だ失墜の大なるものにして、地震國にあらざる米國建築にすら採用するものなく、該地に顧客を失つた奸商人は外國崇拜せる我日本に放賣せんと然も計算表まで表指して、廉價なる建築の出現するを見たる我無定見者は震災の脅威を忘却して乖誕直らに之れが購求し、その示す脆弱なる計算表に則りしものゝ建築が這般京濱間に於けるが如きその慘害の酷烈でありしかを首肯せしむ、かゝる類似の例は各方面に決して淺少ならざるべし。之等は採用せしむる技術家に責任あるなしと雖も、その大半は安物に着目強大する需用家にあるを非認する事が出來ない。宜敷獨逸前皇帝カイゼルの十訓を修得する必要がある。

三

更に世人の卑怯なるを慨歎せざるべからざるは不慮の災害に遭遇する時招致せる惡結果には自他共にその責任を回避し、甚だしきは自己の責任を他に轉化し、社會を欺き或は他の責任者を冶評する例は各方面に於て露骨に紹介されてゐる。即ち必要なる出費を惜み安物の化者なるを考へずして、直ちに建築技術者を論難し、或は責任呼はりをし、自他共に威信を傷け財寶を湮滅し、社會を欺き國家に大損傷を釀す例尠からずと雖も、眞相を調査する事なく、社會的には何等の制裁を加へず不關心のまゝ七十五日を一期として萬事を葬るのが我國民性の通弊である。

四

更に不可思議なるは國家百年の長計と口にしてそのなすところは唯眼前のみに焦慮する事である。これ或は惟ふ古來地震國として寸先暗恰も爆彈上の樓廊に居住する地震國の因襲的氣分に支配されしにあらざるか、聞くところによれば英國にても亦獨、佛兩國にも建築上には材料の試驗場を完備し主要材料には嚴重なる『テスト』をなし、或は權威者の『サーチヒケツト』付きの材料にあらざれば採用せずといふ、これを我國に徵せんか、建築材料は愚か機械や化學工業家の内にも研究課若は試驗場の設備をなせる者甚だ稀である。只々他人の考案若は發明品を盜用し、類似せる粗惡品を製作して奇利を博するを能事となす一製作者が前途ある事業を創設せると見るや、定見無智識にして何等の設備を施さずして類似品を製造し、巨大と虚僞の宣傳ビラを振り翳して商買になるといふ奇現象である。

五

斯の如き輕佻浮薄の思想を以つて現代科學を應用せんか、狂人に刀物を持たせたるに等し、吾人は將來起るべき都市建築は過般の天譴に依つて示されし如く、科學には眞の精神を注入したる建築に依つて初めて眞の文化的生活をなし得るものであると思ふ。鐵筋コンクリート類の建築に眞精神が普及されざれば全都市を木造建築に成すより人命を傷付くる上には更に大なる慘害を見る事ならん。之れを極言せば科學と精神の合致點に文化の華が咲く、即ち都市建造物の將來は鐵筋コンクリート建築に依るべく之れが構造には眞の科學の應用と精神的の努力をなすにあらざれば佛を造つて魂をへれぬ類にして、過般の震火災の慘害より更に數倍の大慘劇を蒙る事を思ひ、國家子孫の爲め獻身的努力するこそ吾人が在世の眞意義であらむ。

青空の飾　冬よ　あなたが　あのおだやかな秋から手渡された青空の飾には　もう　優しい光が夢見ることなく　異形は
灰色の斷雲が　ものうく搖られてゐる。
いつか　鉛色のもの影は　寒む寒むと　地に散り敷き　私の庭の池や木立の　沈默は　破るに　手段もない……
見よ、　ことごとく皺んだ睡蓮の紫の掌に　過ぐる日　輝き榮えた絲玉は　色褪せくづれてゐる。
眞裸な　細枝の間に



『照明』に就いて

工學士　大島弘義

——照明と價値——

——保健の關係——

段々世の中が忙しくなるにつき、晝だけ働いて勉強しただけでは、なか〳〵間に合はぬから、夜になつても勉強して働かなければならぬやうになつて來た。而も亦晝は忙しいのであるから、夜家庭に歸つて、晝の疲れを癒す爲に、家庭を樂しくして、家庭で慰安を求めなければならぬと云ふ時代になつて來た、さう云ふ譯で、昔のやうに、夜になつたら暗いものであると云ふことで、夜家に歸つても、唯寢て居ると云ふだけではいかぬから從つて燈りを點けて家庭を明くして勉強もしたり慰安を求めると云ふ必要が出來て參つた。所が、今日の照明の程度ではまだ不十分であつて、もツ

と明い燈りを點けて、所謂夜の能率を今よりもツと良くしなければならぬのであるが、餘り明い電燈を點けると癖になるとか、或は電燈を澤山點けるのは贅澤であると云ふやうなことを往々聞くがそれは所謂照明と云ふものが無駄であると考へるから、さう云ふ議論が起るのである。けれども、夜をもツと明くすると、それだけ能率が良くなつて、それが爲に仕事も能く出來るし、夜十分に疲勞の回復が出來れば、又晝間の能率が擧ると云ふことになるのであるからして、是非必要な燈りは十分に點けなければならぬのである。其燈りが贅澤であると云ふやうなことを言ふ人は、例へば梅田から天王寺に行くのには電車があるにも拘はらず、電車賃を出すのは不經濟であるからと、歩いて行つて、餘計な時間を潰すと云つたやうな類のことである。時間の貴いこと、能率の增進と云ふことを知らぬから、さう云ふことが起つて來るのである。それで、我々の家庭で電燈を十分に點けるのと、電燈を十分點けずに儉約をして居るといふので、一つの家族で月にどの位支出が異ふかと云ふた所で、金にして、私共の家庭であれば、僅に二三圓のことである。それだけの金を儉約をする爲に、他にどれだけ大きな損失があるかと云ふことを知らずにやつて居ると云ふことは、長い間に於ては隨分莫迦氣たことである。又徵兵檢査をするのに、日本の壯丁の體質が段々と惡くなつて就中眼の惡い人が三分の一程もあると云ふことを聞いて居る。或は文部省が學校生徒の眼の檢査をした或レコードに據れば近視眼が非常に多い而も年齡が進むに從つて段々近視眼の人が多くなつて居る。例へば十三歳の時には六『パーセント』例の近規眼が、二十歳になりますと、三十一『パーセント』二十七歳になる四十五『パーセント』と云ふ風に段々近視眼が殖えてくる。是は種々な原因もあらうと思ふが、暗い燈りで無理に勉强をしたと云ふことも、その一つの原因でなからうかと思ふ。

——適當な光度と——
——調和せる環境——

さう云ふ譯であるから、明い燈りを點けると云

ふことが必要である。けれども、唯無暗に電燈を明るくしさへすれば可い、と云ふ譯ではない。即ち、適當に明るくして點ける、と云ふことが必要である。例へば、砂糖は甘いものであるからと云つた所で、黑砂糖や赤砂糖を其儘嘗めて居つたのでは一向詰らないのである。通常に外のものを調合して、お菓子を拵えるとか、飴を拵へるとか云ふことにしてやらなければいかぬのである。恰度電燈も同じ譯であつて、唯電燈が明るいと云ふことだけでは不十分であるから、光線の工合であるとか、其色合、或は電燈に伴ふ種々の器具だとか云ふものを適當に按排して、其場合々々に應じて適當な燈りを點ける、と云ふことが必要である。

そこで、其適當な燈りと云ふことに就いて、第一に先づ美術的の方面から申さば、其建築の樣式と電燈の裝置と云ふものが調和しないと面白くないものである。又同一の部屋の中に點ける電燈を天井に附けるか、壁に附けるか、或は『テーブルスタンド』と云ふやうなものをそれ〳〵調和をしたものに附けなければいかぬ。さうして、其器具に附いても、それ〳〵適當に釣合が取れ、色の適當な、意匠の適當なものを用ひなければいけない又一般に電燈とか器具とか云ふものは、種々と人々の趣味嗜好もあるから、それ〳〵それに適合したものを用ひなければならぬ。

——電燈の色彩と——
——散光性の電燈——

次に電燈の色のことを申さば、黃色味のかゝつた綠色と云ふものは、温味のある色であるから、冬の寒い時とか何とか云ふ時には、さう云ふ黃色味の勝つた綠色と云ふやうな温味のある色を用ひる必要がある。青味のかゝつた綠色は寒い感じのするものであるから、夏涼しく見せるとか何とか云ふ場合には、さう云ふ色が必要である。又黃い色は感じの好いものであるから 不斷我々の家庭の部屋であるとか、或は客間と云ふやうな所に黃色のかゝつたものを使ふと、餘程心持のよいものである。又薄い綠色は餘程氣持を引締める嚴肅な氣味のあるものであるから、書齋などには、さう

云ふ色に適當して居るのではなからうかと思ふ。近頃青い色の晝光色の電燈が出來て居るが、あゝ云ふものを使ふのも可からう。

次に生理的の方面から電燈のことを申さば、眼に有害なる光は避けなければならぬのであつて、眼に有害なる光と云ふのは、光がチラついて、其強さが一定しないもの、或はギラ〳〵して眼に眩い感じのする光、或は光其ものは眩くなくても、斯う云ふ机の上などに置いてあるものに反射してギラ〳〵する光も避けなければならぬのである。それで、第一の光のチラつくのは、電燈を點ければ、さう云ふものは妨げるのであつて、眼に眩い光、或は物體に當つて反射の眩いもの、さう云ふのは散光性の電燈を用ひれば可しい。散光性の電燈とは、直接照明であれば、電球の下半分を艶消しにするとか、全部を艶消しにするとかした所謂艶消しの電球を用ゆれば、其ぎら〳〵して眼に眩いと云ふやうなことは防ぐことが出來る。序に、此艶消しの電球を使ふと、餘程暗くなつて損だと云ふやうな考へがあつて、一般に餘り用ひられて居ないのは、私共の非常に遺憾に思ふて居ることで、艶消しにして、燭光の下るのは、色々のやり方もあるが、先づ五『パーセント』から十『パーセント』位しか下らないのである。けれども、散光性にすれば、一寸見た所では燭光が餘程下るやうに見えるが、眼に見た程燭光は下るものではないさうして、此散光性の電球としては、有色の電球が出來て居る。英語では『ホワイトランプ』と云ふが、それもなか〳〵眼には氣持の好い電球である又器具の方から云へば、下にお椀みたやうな傘を附けるとか、『グローヴ』を嵌めるとかすれば、約り散光性の光を得ると云ふ目的になる。

次に、光の爲に餘り鋭い濃い影が出來ると云ふことは、氣持の好いものではない。是も矢張り艶消の電球を用ひるとか、間接照明を用ひることにすれば、さう云ふことも防げる。今一つ眼に有害なる光は——光と云つては語弊があるかも知れぬが、約り、紫外線である。是が眼に有害であつてそれが眼に當ると、眼が惡くなるとか、眼の病氣になるのであるが、それを防ぐには、カナリヤ電

球と云ふものが出來て居る。是は眼に有害なものを吸收して、眼に見える光として出すのであつて餘程面白いものである。攝政宮殿下が御渡歐の時に、軍艦の香取、鹿島には斯の電球を點けたと聞いて居る。斯の電球は、黃な色の附いた硝子で、黃色を帶びた光が出るから、先程申した通り餘程溫味があつて、色の方から云つても、氣持の好いものである。

——光線の經濟的關係と——
——各種の能率——

次に經濟的方面から申さば、光の方向と云ふことも考へなければならぬのであつて、下の方を明くする必要のある時には、下の方に光線が行くものを使ひ、横の方を照す必要がある時には、又さう云ふ風な器具を使ふ必要があるのであつて、各々其光の目的に應じて、それ〳〵適當な器具を選んで使ふ必要がある。又電球の能率と云ふことも實際使ふ上に於ては考へなければならぬことであつて、普通の電燈に就いて云はゞ、電球の能率を良くすれば、其壽命は短くなるのであつて、能率を惡くすれば、壽命は長くなるのである。而も、徒らに電球の壽命が長いと云ふことばかりが必要なことでなくて、其能率も良く、壽命も長いと云ふことが必〇なのであるから、實際使ふ場合に就いて言はゞ、電氣の方の値段と電球の値段と、それを寄せたものが、或一定の期間寄せた所で、一番廉い、と云ふのが經濟的なものであつて、一般に言はれるやうに、電球が長く保てば、それだけで經濟である。と云ふことも云へぬのであるから電球の經濟と云ふことを考へる時には、電球の能率と云ふことも考へなければいかぬのである。それで、普通の日本の部屋でゞの位の燈りを點けたら宜いかと云ふことの凡そのことを申せば、是は各部屋に依て異ふのであるから、一概には申されぬが、大體『ソート・キャンドル』からして之『フート、キャンドル』位の燈りが適當であらうと思ふ。斯う申しただけでは一寸解りにくひのであるが、之を解りよく申さば、疊一疊に就いて、四燭光乃至六燭光である之を『ワット』で申さば、

五『ワット』乃至七『ワット』位が適當であらう。例へば、六疊位の所では二十四燭乃至三十六燭、八疊で三十二燭から四十八燭、十疊で四十燭から六十燭、先づそれ位の燈りならば、相當だらうと思ふ。

——電燈器具と——
——強光能率の關係——

さらば、先程述べたやうな電燈を點けるとして之を一遍附ければ、それで何時までも可いか、と申さば、それは、始終電球共に電燈器具を掃除しなければいかぬのであつて、放つて置くならば、段々塵が溜つて、折角十分な燈りだと思ふて點けたのが、不知不識の間に暗くなると云ふことが起る。一例を擧ぐれば、是は或所の例であるが、放つて置いて暗くなつたのを計つた時の光が『百』と段定すれば、電球を洗ひ器具を綺麗にしました所が、百三十七、即ち三割七分も明るく成り、それから新しい『ランプ』と取換へた所が、百八十五、即ち八割五分も明るくなつた。次に、壁や天井と云ふやうな所を塗り換へた所が、二百六十七、即ち始の二倍半も明るくなつた。斯う云ふことを申さば何でもない話のやうであるが、往々我々の家でも電球を附け放しにして置いて、暗くなつたのも知らずに其儘放つて置く、電燈代の方は遠慮なしに取られて、甚だ不經濟なことがある。それですから、部屋に依て塵の立つ所があり、綺麗な所もあつて、種々と塲合が異ふ、けれども、適當に掃除をする必要がある。先づ大體月に二回位は電球の掃除をする必要があらうと思ふ。

深く掩へる火は
最も好く燃ゆ

アドソール應用

——室内乾燥、冷房、暖房裝置——

工學士　山本榮男

アドソールの性狀

アドソールは理化學研究所研究員理學博士池田菊苗氏、理學士磯部甫氏等により研究された吸着劑で空氣中の濕分を能く吸着する性質を有す其物理的性質、化學的性質は左の通りである。

一、色は白色又は稍々赤褐色である

一、多孔性粒狀にして積み重ねても形狀は變化せず通風する事が出來る。

一、見掛の比重は約〇・五であるから水の目方の半分と見ればよろしい。

一、空氣中に放置すると空氣中の濕分を吸着する其の割合は自身重量の二五—四〇パーセントの水を吸着するする能力がある。此の水分は熱を與ふれば再び發散し冷却すれば濕分吸着能力を恢復するから反複使用する事が出來る。

一、アドソールの吸着量に就ての研究は理化學研究所より發表せられて居るが其の概要左の通りである。

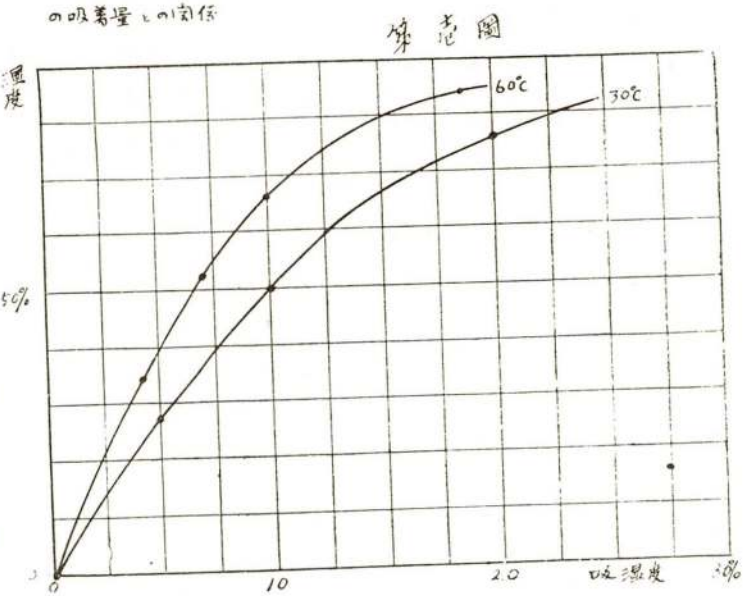
一、濕度による吸着量の變化

アドソールはコロヾダルシリカの樣なもので極めて廣い表面を有してゐる攝氏二〇〇度以上の高熱に會ふと收縮して段々と表面積が小さくなるので吸着力も自然に減じて行く、同じ濕度に加熱しても熱する時間の長短によつて吸着力の變化を異にし長く熱すれば熱する程吸着力を減ずるものがある。但し此變化は攝氏二〇〇—三〇〇度以上で起るので二〇〇度以下では殆ど何等の變化もしない

一、濕分吸着量と其速度

水の蒸氣壓は濕度が增すと共に急に增して行きま

すが一定の溫度では一定した蒸氣壓を示します。



即ち攝氏二〇度の空氣が濕る時は同二〇度の時の蒸氣壓までゞ之れ以上の濕分を含む事は出來ませんそれ以下の蒸氣壓である時其空氣は乾いてゐると申します。

アドソールの濕分吸着量も其まわりにある空氣が濕つて居る場合と乾いてゐる場合で異つて來ます第一圖空氣中の濕分含有量とアドソールの吸着量との關係といふ表は空氣中の濕度の異るに從つて即ち全く乾いてゐる空氣なればアドソールは少しも濕分を吸着する事が出來ないし濕つてゐればゐるだけよく濕分を吸着し得られることを示しているのであります。

例へば攝氏三〇度の溫度で五〇パーセントの溫度の空氣にアドソールを觸れる時いくら吸つてもアドソールの濕分を吸ふ量は一・〇パーセントより以上吸ふ事は出來ない事を示してをります。

濕分を吸着する速さは眞空中での場合と濕つた空氣の場合と異つていて眞空の時の方が速く濕分を吸着するものである。

一、アドソールを通過したる空氣は細菌類の種を皆吸着されるので一尺程の層で百分の一以下に

細菌數を減せしむる事が出來る。

一、一立方米の空氣は濕ると常温でも三〇瓦も水分を含んで居るが是等の水分を除去した乾燥空氣に一立方米につき一瓦の水を蒸發させたとすれば攝氏の温度二度を冷す事が出來る、五瓦蒸發させれば一〇度冷却する事が出來る理である此の事實を應用したるものが室房裝置である。

室内乾燥裝置

アドソール應用室内乾燥裝置は吸着塔二個、送風機二個、更新機一個及連結風管よりなり極めて簡單な設備で素人にも取扱ひが出來至極便利である。

吸着塔は鋼板製圓筒狀をなし筒内にアドソールを塡充するのである、下部より送風機の風を通過せしむると空氣はアドソールの積層を通りて上部より出る此の間に空氣中の濕分は殆んどアドソールに吸着されるから出口の空氣は全く乾いたものとなる。

更新機は熱風（攝氏一五〇度位）を作る一種のコークス爐であつて送風機を附屬する、此の送風機から出る風を二つに分ち一部分はコークス燃燒用に用ひ爐の下部より吹き込み爐の上部から燃燒瓦斯が出る、此の瓦斯は温度が高いから他の一部分の風を混合して温度を調節するのである、攝氏一五〇度前後の熱風を要するのであるが之れは風の加減により容易に出來る。

吸着塔二個を設備してある理由は一塔（A）を前述したる如く數時間使用すると塔中のアドソールは吸着濕分が飽和して來るから乾燥した空氣が出來なくなる。此の場合にバルブを切り換へ他の塔（B）を使用して乾燥空氣を作る濕りたるA塔には更新機より出る熱風を通過し外氣に放出せしめると吸着されたる濕分は熱の作用により全部離脫され外氣に棄てられるからアドソールは再び濕分を吸着する能力を恢復して次の作業を待つ事になるB塔の濕分が飽和して來ればA塔に切り換へB塔の濕氣を熱風で追ひ出す、斯くの如く交互に作業を行へば連續して乾燥空氣を製出することが出來るのである。

乾燥空氣は風管(ダクト)にて所要の室内に導入し室内反對の側より濕りたる空氣を吸ふ風管を作り送風機の吸ひ込み口に連絡して運轉を繼續すると室内の空氣は乾燥裝置を通過して循環せらるゝ事になり順次室内は乾燥狀態になる。

東京市内凸版印刷株式會社印刷工場にて實施せられた實例は左の通りである。

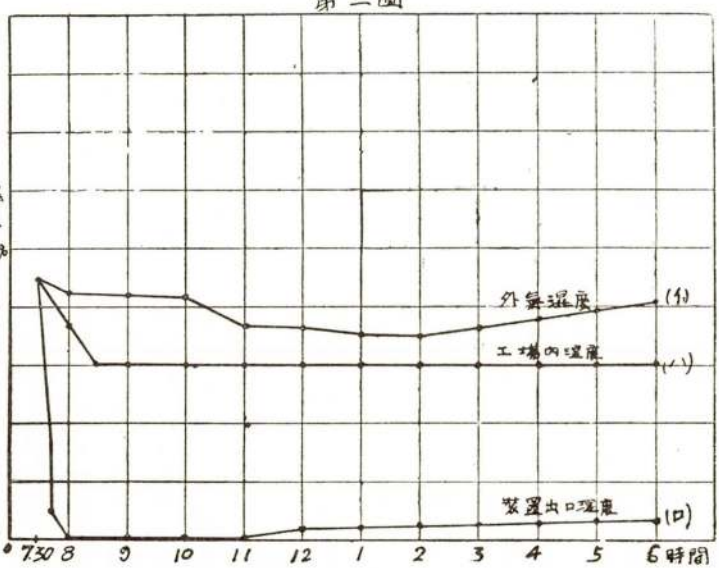
工場建坪三百三十坪

工場内容積三十萬立方尺

此の工場内空氣の温度を常に六〇パーセントに保持する條件の許に設計製作されたもので其の成績は條件通りに實行する事が出來た、即ち第二圖に示す如く曲線(イ)は室外の濕度(ロ)は乾燥裝置出口の濕度(ハ)は工場内の濕度を顯はしたものである曲線(イ)が示す通り室外の濕度は一日中にでも朝夕晩各乾濕不同であるが工場内の濕度は曲線(ハ)が示す通り六〇パーセントに殆んど一定して保持する事が出來る。

乾燥裝置より出る乾燥空氣は曲線(ロ)が示す通り作業開始の際は殆んど濕度〇パーセントで時間の進むに從ひ濕度は稍々增加するが要するに非常に乾いた空氣を得らるゝから之を巧みに使用すれ

第二圖



ば室内の空氣濕度を七〇パーセントに一定することも出來六〇パーセントにする事も出來又五〇パーセントにする事も容易に出來るのである。本裝置は規模の大小により何れとも適當の大きさに設備出來るから至極便利で又經常費は主なるものは送風機を運轉する動力と燃料用ヮークスとで是亦至極低廉のものである、凸版印刷會社の實例では

動力費	一日間に付き 一、三三
燃料費	同 上 一、六五
計	二、九八

即ち一日間の運轉費用は僅かに三圓前後であつた濕度多き雨天の日丈け運轉すればよいのであるから僅少の費用で此の大工場の空氣濕度の調節が出來たのである。

アドソールの性狀に述べた通りアドソール層を通過したる空氣は其含有せる黴菌の殆んど全部を吸着せられ無菌乾燥空氣となる故に之れを室内に吹き込めば其の室内は衛生的で快感を與ふる室となる事は明かなる事實である。

冷房裝置

前記アドソールの性狀の項に述べた通り乾燥空氣中に水分を蒸發させると氣化潛熱の爲め空氣自身の溫度は降下するもので、一立方米の乾燥空氣中に五瓦をを蒸發させれば攝氏一〇度を降下する事が出來る、華氏では二〇度降下する事が出來るから夏時華氏九〇度のとき七〇度の空氣を得る事が出來る、然も一立方米に五瓦の水は濕度が二〇—三〇パーセント增す位であるから寒冷且つ乾燥空氣を得られ人體に快感を與へる空氣となる、此の空氣を室内に適當の量を送り込めば室内は涼しく感じ氣持ちのよき室となる。

冷房裝置は前項の乾燥裝置の外に冷却器と混霧器とを增置すればよいのである、冷却器は冷水を用ふる表面冷却器で混霧器は乾燥空氣中に噴霧器を取付け水分を霧狀にして空氣中に混和し蒸發を早くするのである。即乾燥空氣を冷却器にて水の溫度位迄降下し更に混霧器にて溫度を下げるから夏でも七〇度位の空氣を作ることは容易である。

煖房裝置

アドソールを暖房裝置に應用する場合には之れを蓄熱材料として使用するものである。アドソールの比熱は約〇・二で又攝氏二〇〇度に熱してもアドソールの性質は少しも變らないから一キログラムのアドソールは四〇・〇〇〇カロリの熱量を蓄積する事が出來る、之れに空氣を通過せしむれば空氣は此の熱量を運び熱風となるから之れを風管にて所要の室内に吹き込めば室内を暖める事が出來る、一方の塔が使用數時間の後其の内容のアドソールの温度が降下したるときはバルブを切り換へ他塔を使用し其間に更に二百度迄熱し次の通風を待つ事乾燥の場合と同樣である攝氏二〇〇度に熱したるものに風を通す場合に出來る風の温度は初めの内は高過ぎるからバイパスにより冷風を混じ適當の温度にすればよろしい。

應用方面及地下室

アドソール應用乾燥・冷房、暖房の三裝置は各別のものでなく一つの裝置で乾燥用にも冷房用にも亦暖房用にも用ひらるゝので一ヶ年を通じて利用が出來る、例へば倶樂部の食堂に設備したとすれば梅雨期には室内乾燥用に用ひ盛夏酷暑の期節には冷房用として用ひ冬期嚴寒の際は暖房用として使用するのである。

本裝置を使用する方面は各種食堂、劇場、各種興業場・デパートメントストア、事務室、紡績工場、印刷工場、化學工場、病院、艦船、倉庫・地中火藥庫・地下室等が主なるものである。

今回の震火災中完全な防火の目的を達したものは地下室のみで地下室にあつたものはガソリンでさへも安全に保存せられた實例があるのに各種の耐火建造物土藏倉庫等多大の費用を費し建てられたるものも殆んど燒き盡されたのであるを見れば今後の耐火建築貴重品保存には地下室といふ事を忘却する事は出來ない、地下室は濕氣が多いといふ害がある、此の防濕法を如何にすべきか、地下室の多濕である理由は、

（一）建築工事の際使用したる材料中には皆水が

含まれて居るものである。此の水は乾かない爲めに壁、床、天井等の表面から室内の空氣に出る、それで室内は常に濕潤狀態にあるので壁、床天井等に含まれて居る水分の量は計算して見るに非常に多量であつて、之れが一年や二年では乾かないのが當然である。

(二) 土壤の濕氣が壁、床の材料に浸み込み之れが室内の空氣を濕らすことになる。

(三) 地下室の温度は春、夏、秋の際は一般に外氣よりも低温度にある、之れが爲め外氣が地下室に浸入すると濕氣が增加して多濕となる、即ち温度と濕度との關係は次の如くである。

空氣一立方米中に含まるゝ水量

	一〇〇%	九〇%	八〇%	七〇%
攝氏三〇度	三二瓦〇	二八瓦八	二五瓦六	二二瓦四
同 二五度	二四、〇	二一、六	一九、二	一六、八
同 二〇度	一八、〇	一六、二	一四、四	一二、六

此の表に依つて見ると外氣が攝氏三〇度(華氏八六度)のとき地下室が攝氏二五度(華氏七七度)であつた場合に濕度は如何に變化するかといふに、

外氣九〇パーセントのときには地下室では一立方米につき四・八瓦の水は露となり冷縮し殘る空氣は一〇〇パーセントである。

外氣八〇パーセントのときは地下室では一立方米につき一・六瓦の水は露となり冷縮し殘る空氣は一〇〇パーセントである

外氣七〇パーセントのときは地下室では約九二パーセントの濕度となる。

此の樣に比較的乾燥した空氣でも地下室に浸入すると多濕の空氣となり濕度多き空氣が地下室に浸入すると露となるから地下室では各種の器物及貯藏物品は濕害を受けるのである。

以上地下濕氣の理由中(一)及(二)は建築上の方法即ち陶製瓦、石材、防水、セメント、アスファルト等の防水劑で濕氣の豫防は出來るが(三)の理由の起るのは夏期酷暑の候であるから火を用ひて温度を上ぐる事は暑くて面白くないといふて常温では適當な防濕法がない、地下室の濕氣排除が難問題で解決出來なかつたのは之れが爲めである

然るにアドソール常温乾燥裝置を使用すれば此の問題は容易に解決出來るから地下室倉庫は最早安心して採用出來如何なる種類の貴重品にても絶對に火災の憂なく且つ完全に保存する事を得るので

ある、實に理化學研究所の此の世界的發明が完成せられたのは世界に對して我國の誇りと云ふてよい、之れ我々が建築家諸賢及江湖の識者の後援を得て廣く之れを利用され事を乞ふ所以である。

最も高きに達する道途
は最も低き所に横はる

望みは風雨の夜に
早くも朝紅を示す



フートライトと家具

――モントローズ・ゼー・モーゼス氏の記述より――

葛野壯一郎

舞臺に飾り付ける家具であつても、亦、普通住宅に置くものであつても、それが上手に出來てゐるものでさへあるなれば、特に舞臺の上だからと云つて區別をする必要はないのであります。若し其部屋の裝飾が一般法則に宛はまつて何等目障りなくよい趣味に出來て居りますなれば、その部屋に這入る人をして、美と平和のもの靜かな感じを與へる事でありませう。舞臺の上にしても同じ事で其裝置が如何にもよく調和されてゐますなれば緞帳が上げられた時、觀客は其處から家具抔の不調和の爲に、劇其ものゝ興味までも殺れるといふ事はないのであります。

住宅裝飾の上から云つても、中紀、ビクトリヤ風と云ふものが、全く其跡を絶つたと同じ樣に、

劇場に於きましても、寫實主義の古めかしい、遣方は今日殆んど見られなくなつてしまひました。若しも今日の舞臺に於て、何か見苦しい嫌な感じの家具の排列を見るなれば、それは寧ろ劇そのものゝ本質に多分の醜さを含んで居る爲であるからだと考へる方が至當でありませう。

實際住宅においても其内部裝飾につき、種々な專門家が殖えた樣に、舞臺の上の住宅にしても、從來の樣な極ありふれた遣方でなしに、もつと宜いものにすると云ふ運動が近年大層熾んになつた樣に思はれます。

樣々な種類の家具を列べたてゝ舞臺を騷々しくするといふ事は、惡い表現法であります。よい表現法と云ふのは、其處に一つのよい空氣を創造するといふ事であります。如何なる人でも其家を見れば其人の性格を容易に知る事が出來る樣に、舞臺にしても其シーンを見て、一目に如何なる劇であるかといふ事を分り得る樣に作り度いものであると思ひます。たとへば、オーガスタス・トーマス氏の作『男としての考へ』（アズ・エー・マン・シンクス）の三幕目『ゼーリヒ博士の書齋』の場を見ると、其人の富と感情と、そして人種的の惡い趣味が明らかに示されてゐる樣に、或は又、ミルチー氏の作『ドバーの道』の序幕に於て、其主人公の快活なラチマーが、どんなに遍屈な獨身者であるかといふ事を、其處に備へつけられてある、硝子の器、又は花瓶や卓子掛（テーブル）で知る事が出來る樣な類であります。（ミルチー氏の記す所によると此室の意匠はジュラックによつて出來たものと思はれます）

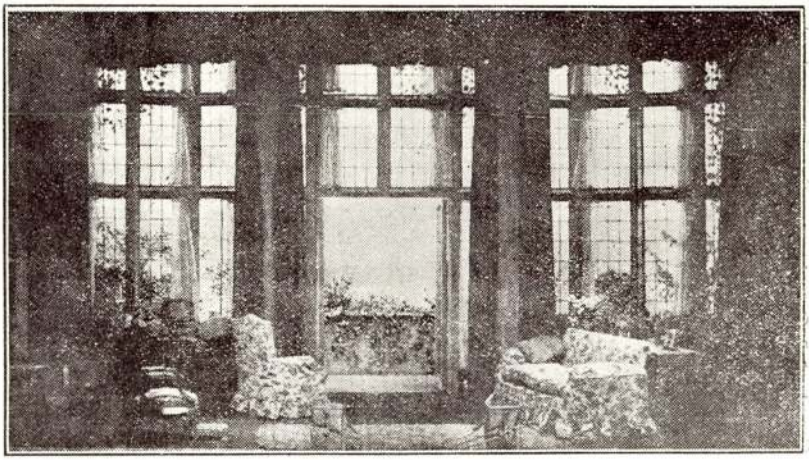
舞臺の藝術家は丁度裝飾家が一つの家を裝飾すると同じ樣に、舞臺上の家に就いて、劇に對して持つ同じ興味を持たねばならない筈のものであります。問題は、何れにしても人を標準とする事は舞臺に於てゞあつても又實際に於ても一樣であります。けれども、舞臺と實際生活は判然と區別があつて、其處に專門的の問題が存在する理であります。そして、舞臺の上については實際のものに對してする樣に忠實に凡てに追隨するような遣方は、反つて惡い結果を得て、失敗に終る樣な事があります。勿論今日、舞臺に於けるあらゆるもの

は實際的のものであります。たとへば扉が必要であるとしますと、それは明けたての出來る堅い本當の扉が用ひられ、最早風が吹けばフラ〳〵する樣な、或は又、單にカンバスに穴を明けたといふ樣な種類のものではありません。併しさうかといつて煖爐がありましても、火災の規則によつて本當の火を焚く事は許されておりません。本箱を置くとしましても、眞實の書物で一杯にする必要はなく、それから取り出されるホンの一二冊の本が置いてあればそれでいゝのであります。

芝居には多分の虛構がある事は免れない事實であります。舞臺藝術家がしなければならない事として考へられる事は、殊に社會劇に於ては、愉快であるとか裕福であるとか、又はよい地位であるとかいふ事の暗示（サゼスション）を與へる事に重きを置かねばなりません。試みに舞臺へ昇つて近づいて見ると、其處いらに飾りたてゝあるものが、如何に價値のないもの許りであるのに何人も驚く事でありませう。フートライトを通じて眺めれば普通の安物の硝子でも、充分立派なものとして見られる處へ、わざ〳〵本當のベヂチヤの硝子を澤山に使ふのはそれは愚であるといふ事は分り切つた事であります。誰がそんな馬鹿げた事をするものですか、纖細な部分的な裝飾が、丁度繪畫に於ける色彩と影の樣に、實際の家に人を魅する美しさを與へるのでありますが、オーケストラに座つて舞臺上の裝飾を眺めると、さうしたものは何も認められないのであります。

人が芝居にゆくと、先づ芝居其ものに心を奪はれ、背景から來る一般的空氣の中に、何物をも包み込んで仕舞ふものであつて、特に作者が其劇の一つの必要として、飾られた家具の何物かに注意を拂はせる事を要する場合の他は、特に列べられてある家具等に何等注意をしない事もあるのであります。

內部裝飾家が、裝飾の注文を受けますと、それぞれの仕樣書だの、其家の持主と種々打合せて、其人の氣に入る樣に、造り上げる順序となるのであります。實際に於ても裝飾家といふものは、注文者の趣味や希望に付いて、忠實にそれをなし遂

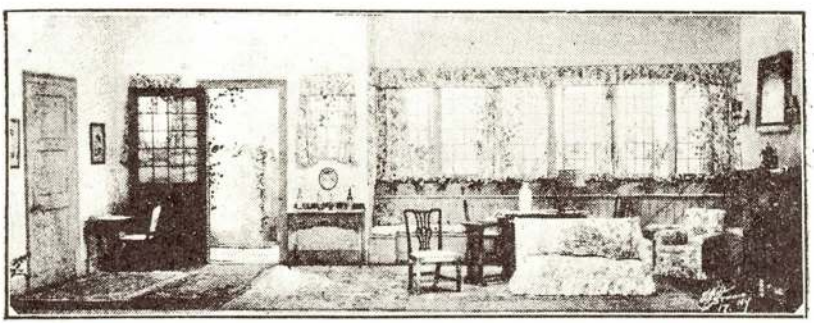


シモンソン氏案「ラツキー・ワン」の序幕舞臺裝置

げる義務があるのであります。と同じ樣に舞臺藝術家は、先づ、脚本其ものをよく讀んで、其中に如何なる種類の生活があるのか、ハツキリと決めてかゝらなければなりません。ノルマン・ベル・ゲデス氏がミルネの作の『ブレードに就ての眞理』の三幕目の非常な魅惑的な舞臺裝置を考案したについて斯樣に話しております。彼は先づ、舞臺に就て詳細に記された筋書を讀みました。それから各人物の一般の動き方を心の內に考へ、さうして入口と出口が一ヶ所の戸で濟むといふ事に決めました。次に彼は、此話の動作に就て當然なくてはならぬと考へらるゝ家具類について注意しました。そして、其部屋に於ける人物について、創造せられねばならぬ空氣を、ハツキリと定めたのであります。有名な年をとつたブレードや、其友人のジョージ・メレジス、國民の最も崇拜する詩人、その人を表現するのに、どういふ種類の部屋が適當であるかと考へました。其結果を彼はミルネー氏の筋書と照し合せてみたのであります。そうして吾々の舞臺で、近年稀に見る、最も成功した室內裝飾を造り上げたのであります。其考へ方は全然組織的でありまして、其中から一寸した一つのものでもとつて仕舞ふと、直ちに全體

に、非常な缺陷を與へずにはおかない程、無駄のすこしもないものでありました。で緞帳が上ると其色彩の美しさに於て、部屋は完全な美の空氣の中に包まれておりました。が何かしら暖みが必要である。生きたものゝ存在を必要とする樣に感せられました。併し、美しい華やかな一塊の花が持ち來された時に、部屋の空氣といふものをば、全く落ちつかせて仕舞ひました。是れは、單なる付け足しではなくして、此場面の生々した、重要なものであつたのであります。

一つの一寸したものでも、其舞臺面を支配する要點にふれない樣なものは、使ふ事を許されていないのであります。處が極端な寫實主義者には、此點に非常な誤りを持つております。それは、凡てのものを必要とするか、或は又凡てのものを不必要とするかと云ふ樣な極端な傾向があります。觀客に何の興味も起させないものだの、又劇其ものに一向關係のない部分に、惡智惠を弄ぶ樣な嫌があるのであります。そして、見物人の注意を、絶えず道具の上に迷はせるのです。客の注意を心



目幕三及幕二の「ルース・イウ・トント」た示を部内ジテツコのの物本

理的に集注する爲に種々なものを飾り立てる、極クラシックな例をとつて見ませう。ベラスコー氏の『ピーターグリムの歸還』でピーターが死んで歸へつたと云ふ其痛切なる感じは彼の古い持物の中に彼の靈としての存在を認めさせる點であります。即ち、古い生きてゐた時のものがなくなつてゐる事、たとへば煙草であるとか帽子であるとか上衣であるとかでありますが、それが彼の死と云ふことを、

一層誇張してゐるのであります。又前から馴染みの部屋の種々な細かい部分をつかつて、ピーターの死と其生きて居つた當時との著しき變化を、一層痛切に、感ぜしめて居るのであります。是を評すれば、ピーターが歸つてきたと云ふ事を表現するには、もつと直接な有効な方法で、そんなに澤山な細いもので舞臺を一杯にせずに、注意をそれ程迄に煩はさないで、現はす事が出來ると考へられます。此の難かしい舞臺面について、兎に角ペラスコー氏は成功を收めたのではありますが、今日ならば、もつとよい方法が用ひられると云ふ事は確かであります。今や舞臺藝術の哲學は、一つに單純（シンプリシティー）といふ事であります。そうして、それは裝飾藝術に於ても亦同樣であります。

脚本家は自分又建築家であるとも云はれます。即ち、劇の上の人物が住つてゐる家といふものについて、よく知らなければならないのであります。さうでないと、凡ての人物をみんな二階へほうり上げて仕舞つて、段梯子をとりつける位置もない樣な破目に落ゐるかも知れません。見物人の中の建築家は、直ぐに其事に氣がつくでありませう。脚本家といふものは、種々な生活の模樣を、舞臺面に勝手に選ぶのであります。ビネルの『ジ、アマゾンス』は、運動場の場面をもつております。ペラスコーの『支配者の貴婦人』は、小供の料理屋の場面を必要とします。ゾ・アキンの『テキサスのナイチンゲール』は、模範的臺處の場面を現はして居ります。ショウの『お前は決して話す事は出來ない』は齒醫者の事務室を現はしてゐますこんな風に、舞臺藝術家は、思ひもよらない場面の考案に遭遇するのであります。けれども、普通の室内裝飾家よりは、方法に於て自由だと云ふ事は明らかであります。或る範圍迄は裝飾藝術家自身も、亦建築家であり得るのでありまして、室だの窓だの、又は廣間や階段だのを、其意匠に都合のよい樣な位置へ、思つた樣に配列する事が出來ます。普通の室内裝飾家であるとすると、既に出來上つた家に這入つて、部屋の形であるとか、高さであるとか、光線抔に適當する樣に家具調度を選ばねばなりません。舞臺の上に見る處のものを實際の住宅に起る處の事實と合せて考へると、自分の夢想する家を建てると云ふ場合に立ち至つたならば、私の裝飾家に相談すると同時に、又建築家に打合せなければならぬ必要を認めるのであります。（未完）

文化住宅に就ての一考察

別所悌一

文化とは、勿論、虚飾僞瞞の別名ではない。文化には浮華な嬌慢もなく、歪められた自卑もあらぬ。正しく自然のまゝに、あるべき筈の位置に、なごやかに位置してゐるといふこと、これが正しい文化の根本意である。

住宅は、勿論、工房や事務室ではないやうに、宮殿やホテルでもある筈がない。文化住宅とは、工房化や事務室化されて確に乾燥無味のまゝにうち忘れられた現今の住宅を、宮殿のやうに粧ひ、ホテルのやうに飾つて、小劇場の舞臺面のやうに色づけすることではない。裝飾は文化とは別個のものである。

現今の殆んどの都市が單なる生産工場や取引市場としての發達にのみ大急ぎである以上、家庭であるべき住宅が、都市の燥音雜沓の中に容易に求められないのは當然である。所謂近代の新しい科學で四周を圍まれたアパアトメント・ハウスが、都市に於ける文化住宅の正しい理想であるとは都市の工場化や市場化への過渡期に於ける、單なる狹い謬見に過ぎぬ。文化生活とは、厭くまで自由で廣やかな美はしい自然に背いて、單なる利便のために科學の狹隘なる箱の中に逃げ込むことではない。多分現今の狀態では、都市が今全らゆる都市計畫の陋習から全く自由になつて、全く正しく新しい出發を初めない限り、都市住宅がその工房化や事務室化から逃れることは、或は望んで得られないであらう。よいにつけあしいにつけ、生活の相は日夜私達の周圍で甚だしい更新を經驗しつゝある。何も彼もが私達を取り巻いて激しく動く近代の科學上の文明は、殊に、私達を激動と錯亂

との海へおし出す。私達はしばしば科學に掻き亂されて、科學の足枷の中に苦しく閉ぢ込められる科學は私達への蕩酔を強ゐて、自然への融合から私達を背かせる〳〵遂に、科學への私達の心酔は、科學が卽ち文化の根底であるとの誤謬へまで私達を驅けさせた。文化住宅とは卽ち全らゆる科學上の利便を恣に揃へ備へた住宅であると主張され勝ちなのも、この誤謬から出發してゐるからである。而も、全らゆる利便の集積されたとみえる都市に於いて、眞に私達の衷心を滿足させ得る文化住宅を容易に發見し得ないのは、單に奇怪な皮肉のみではなく、生命なき科學が、決して眞の文化の根底ではない事實の確な證査である。

かうして、雜音の都市から逃れた私達の心は、自然と上とを戀うて、自ら廣やかな郊外へ、田園へと赴く。最近、田園都市に就いての雜多な研究報告や希望計畫が、廣く一般社會へ一種の流行的な話題を與へてはゐるが、所謂高遠な理想と計畫とに依つて建てられた田園都市でなくとも、極く自然の發達のまゝに置かれた小さい町とか、田園中に恣に散在する村とかは、又格別の興味を與へるものである。都市ではあんなにまで相背きあつた人間と雖然とが、こゝ郊外では、確に互に他意なく手を伸べあつて、濕い握手をしてゐるのを感じる。そこで、如何なる設計者建築家も恣に周圍の自然の風景を容易く作り變へ得ない限り、何處かに、自己の希ひを情ひとに從つて、適當な住宅地を求めなければならなくなる。美はしい小杜を負ひ、爽やかな細流に沿うて、或はなだらかな小丘の中腹に、私達は私達の住宅地を見出だす。その設計は極めて入念に行はれなければならぬ。私達の住宅も周圍の自然と同樣、私達の保健愉樂休息等に親しく關聯してゐる以上、私達は全らゆる自己の理想品性趣味等を、能き得る限り眞實に素直に、自己の住宅に於いて表現しやうとする。從つて、巧利的な所謂專門家は、文化住宅の設計には殆んど無要の者であらう。

だが、文化住宅とは、決して、華美、華奢な外觀の一見美しい住宅をのみ指して言はるべきではない。能き得る限り厭まで美しくあるといふこと

勿論、これが最も重要な條件の一つでなければならないのは當然であるが、美が單なる表皮の深さのみでなく、美は立體であり、奥行を有つてゐるものである以上、住宅の單なる外見に媚びて、例へば、屋根に匂配の急な大小雜多な棟をつけ、華奢で不要な破風を交錯させ、全らゆる外線を亂し複雜にし、强ゐて唆感（センセイション）を見る人々に與へやうと努力することが、決して、住宅を美しくする所以ではない。裝飾は畢竟單に裝飾であつて、眞の美の深さとの交渉は有たぬ。僅に一時的な裝飾の魅力に本來のほがらかな美を忘れ、家庭であるべき住宅を、裝飾の陳列場に墮落させてはならぬ　住宅とは、單に華美に裝飾されたる建築物である筈がない。住宅の美的價値は、決して、外觀の裝飾に依つて決定さるべきものではない。住宅の理想が家庭たるべきものである限り、私達の生活の全らゆるものに母胎であるべき家庭をして、單なる薄い裝飾のために醜く飾りつけてはならぬ。住宅の内部に就いても、これと同樣のことが言はれる採光給水換氣等、其他おしなべて建築物としての必要なる條件を能き得る限り滿足せしめなければならないのは勿論であるが、單なる裝飾のために變化を求め、實用に全く相反した雜多なものを、そこゝゝに秩序なく置き並べることが、決して、住宅を住み心地よいものにする所以ではない。例へば、應接室は、決して、美術展覽會の會場ではなく、容易に親しくうちとけあつて、主客互に談笑しあふべき一小私室である限り、苟しくも訪問客に誇示しやうための、凄く卑しい裝飾があつてはならぬ。あるべきところに必要なる器具を何氣なく整頓してをくといふこと、これを、住宅内部を美しく住み心地よくする第一の條件としなければならぬ。他のものを以つて蔽ひ飾りつけられない必要品そのもの自體の美しさといふこと、このことにも極めて細心でなければならぬ。清潔といふこと、清楚といふこと、簡易といふこと、これらが住宅を美しくすることのために、最も重要視されていゝ條件である。文化住宅とは、決して、華やかに色どられた宮殿やホテルではないことに留意しなければならぬ。

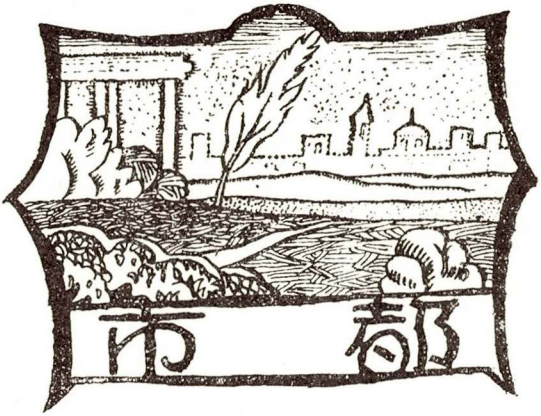
また、文化住宅とは、決して、單に都市から田園へ轉じ建てられたる科學の實驗室でもなく、その製品の陳列場でもある筈がない。近代の科學が確に、近代の文化史上にあなどることの能きない重要な位置を占めたことは、今更らこゝに贅言する要もありはしないけれど、その科學のみが即ち近代文化の根底であるとの意見には、即座に讃同することを躊躇するがいゝ。繰り返へして言ふ如うに、文化とは、直ちに、科學の生長發達を意味するのではない。便利は文化の別名ではない。利便は、確に、文化の一つの重大なる要素ではあるが、實利のみが文化の追ふべき正しい目標ではあらぬ。今日までの住宅に於ける全らゆる陋習ならぬ古雅優美なる傳統を、陳腐不便の名を借りて無下に打破し拒斥するは、眞の文化の採るべき正當なる公道ではない。文化とは畢竟全らゆるものをそのあるべき位置に正しく美しく生かすの謂であつて、古雅を巧利に、藝術を商品に、愚かしく置きかへる意味ではない。柿右衞門一個を贅品と呼んで、粗雜なアメリカ製品の大量と賣り代へることが、文化に忠實なる所謂ではない。從つて、文化住宅とは、單なる裝飾のために裝飾されたる建築物が文化住宅ではなかつたと同樣、所謂最近の發明品と專賣特許品とのみを以つて充たされたる建築物の謂でもない。厨の所謂電化のみが、直ちに文化住宅を意味するものと速斷してはならぬ。例へば、應接室を單なる訪問客の受付け場所にのみ過ぎないとの巧妙的な觀念から、村役場の受付口に類した冷たさで、そのまゝ等閑に附しておくことが、科學を生かす所以ではあらぬ。自働車のみが重要なる科學的必需品であつて、科學と交渉しない繪畫や、音樂が住宅から退けられていゝ理由はどこにも見當らぬ。ピアノを電力裝置で飾つて、クロイツエル・ソナタを歌はせることが文化生活ではないと同樣である。古典が科學と牴觸しないと同じやうに、古風なるものが全て文化と牴觸すると言ふべきではない。結局、文化住宅とは科學に毒され使用されたる粗雜な實驗室ではなくて、科學を自由に採り入れ利用したる愉快な安樂境であるべきである。

從つて、文化住宅は、決して、所謂有產階級者の獨りの專用物ではある筈がない。恣に過大な資金を投入し物資を豊富に集積したものが、直ちに、文化住宅ではあらぬ。自働車を走らせ、別莊を建て、花園を有つたことが、そのまゝ、文化生活と呼ばれてはならぬ。安價なアメリカ輸入品のみで住宅を所謂洋化させることが、文化住宅本來の目的ではないと同樣である。もし、地主のみが文化住宅の建設者であり、有產階級者のみが文化住宅の棲住者であるとすれば、文化住宅とは、竟畢黄金で飾られたる贅住宅の謂に過ぎぬ。不幸にして惠まれざる無產階級者は、文字通りに長い一生涯を、不快不潔な都市の燥音雜沓の中に不當に勞苦し困憊しつくして、得るところはヒポコンデリアとアパアトメント・ハウスの狹小なる數室に過ぎぬ。心情は押し込められ、生命は萎縮し果てなければならぬ　かうして、多數の無產階級者は、遂に、文化には冷たい異邦人となり果てる。從つて文化とは人間社會の一小部分の階級者の、單なる贅澤な趣味に過ぎなくされる。而も、文化が有產階級者の獨專物でないのは、空氣が有產階級者の獨專物ではないのと同樣である。文化は物質や資金の集積からは、決して　生れやうとはせぬ。文化とは物質に即した一種の流行運動ではなく、心靈に即した一つの流動である。文化は人間の手で作りあげた科學から出發しないで、科學の母胎なる自然そのものから裸のまゝ出發する。私達は種々雜多な偶像を彫りその殿堂を建てゝ、それを迷信し、それを文化と呼ばうとしてはならぬ。文化とは、決して、機械化の謂ではなくて、極言すれば、一種の人間化の謂である。人間が本來素直に敬虔にあるべき筈の、自然で高貴な狀態へ復歸するを言ふのである。自然には過剩もなく不足もあらぬ。華美でもなく粗雜でもない。笑ふべき混亂も動搖もあらぬ。約言すれば、私達の生命を、新たなる自覺に依つて正しく本來の相に認識し直すといふこと、こゝから眞の文化は芽生えやうとするのである。認識への出發は、やがて、愛への出發となる。從つて、文化は愛に依つて芽生え、愛に依つて生長する。文化住宅が、決して、黄金の

集積物ではない所以である。

故に、結論すれば、文化住宅とは、一言で言つて、私達の家庭の眞の搖籃の謂である。如何なる藝術も思想も、結局、家庭を離れて健やかに生長し得ないと同樣、家庭に背いて文化は自立し得らるべきものではない。內に文化なくして、外に文化生活はあらぬ。かくすれば、從つて、文化住宅とは單なる建築物の贅澤な見本に過ぎなくされる文化生活とは、文化に就いて聲高く講演することではなく、その講演に感動して靜聽することの謂でもない。私達が外部の如何なる愚劣卑俗なる約束規範に依つても縛られず、强ゐられず、自然に害はれず、又自然を害はず、その本來あるべき筈の、最も美はしく眞實な、人間らしい人間としての完成への道を、自卑もなく嬌慢もなく、ひたすら愼ましく眞劍に步いてゆくといふこと、語を變へれば、△化を歌ひ、文化に融合し、文化のうちに生きるといふこと、このことが即ち文化生活であるとすれば、言ふところの文化住宅とは、この文化生活者を親しく愛をもつて取り圍む住宅の謂である。冷たい科學製品の陳列場や、あくどい裝飾品の展覽會場とは同種のものではない。所謂大都市の大厦高樓が直ぐそのまゝ文化住宅ではないと同樣、片田舍の汚れた小屋が即座に文化住宅ではないとは言へぬ　鴨長明の一部室が文化住宅ではなかつたとは、誰にも斷言能きぬ。住宅の四周を所謂文化らしさを以つて蔽ふことを、先づ、止めよ。家庭の中央に、先づ、文化の花を愛を以つて培ふべきであらう。文化住宅の根底は、決してその外觀の單なる文化らしさ不自然らしさではなく、其內容の深い高雅さ自然さであるべきである

寒月や
早寢しづまる
坂の町



大都市の公園計畫に就いて

文學士　黑田鵬心

一

今回の帝都復興計畫に際し、東京の庭園協會は特に委員會を設け帝都復興の一部分を占むべき公園計畫に關して調査研究し、之れを復興院總裁後藤子爵に建議した。これは直接には帝都に關する公園計畫であるが、間接には大都市には遍く實行すべき理想案を示すものであるから、大阪を始め我が國大都市の爲めに御參考として茲に揭げ、少しく說明を附加してみようと思ふ。

庭園協會は先づ根本方針として

既設の公園を整理、擴張すると同時に、新に適當なる位置に各種の公園を設け、之れを系統的に配置聯絡せしめ、以つて全市の公園を有機的に活用せしむる事

を述べた。全然新たに都市を建設するのでない以上は、先づ既設の公園を整理、擴張するのが第一の方法である。例へば東京市とすれば、上野公園の如きは、公園的施設も足らないし、プランの整理も必要である。又淺草公園の如きは、之れを隅田川岸まで擴張するとか、日比谷公園も宮城前まで擴張する必要がある。次に適當なる位置に新設するといふのであるが、既設のものでは不足であるから新設は必要であるが、これは經濟上土地の買收費に多額を要するので、實際に於いては官有

地を物色する事となるであらう。從つて位置の方から最も適當なるといふ條件に合致する事が困難の場合が多い。例へば東京市で、砲兵工廠跡とか被服廠跡、射的場跡の如きは新設の可能性を帶びた土地であらうが、それらは幸ひに位置も適當と云ひ得る。併し適當なる位置を澤山とる事は何れの都市でも困難であらう。而して之れ等の既設、新設の公園を系統的に配置、聯絡するといふ事は重要な條件で、これをやらなければ、折角の公園も其の効果を發揮し得ない、全市の公園が一大系統を作り、宛も一大公園の如くに有機的に活用せられて、始めて公園の効果は十分に擧げられるのである。

二

以上の根本方針の説明として十七項を擧げた。其の第一項は

東京市に左の九公園を置くこと

(イ)中央公園區

東京市の中央(麹町、日本橋、京橋及神田區の大部分)

(ロ)城南公園區

中央公園區の南部(芝、麻布及赤坂區の大分)

(ハ)城西公園區

中央公園區の西部(牛込、四谷及赤坂區の一部)

(ニ)城北公園區

中央公園區の北部(小石川、本郷、下谷淺草及神田區の一部)

(ホ)城東公園區

中央公園區の東部(本所、深川)

斯くの如く市を數箇の公園區に分つ事は、外國の都市には例のある事で、配置の上にも又營理經營の上にも都合がよい。その區分は必しも行政區と一致しないでも地勢によつてほゞ同面積を區分すべきである。而して第二項に

東京市に公園局を設け、全市の公園を營理、經營せしむること

を擧げ、從來の課を局に昇格せしめ、電氣や道路や水道などゝ同樣に重要視し、相當の人物を公園局長に任命し、更らに各課に分け事務を執るのである。併し公園の管理、經營を市吏員にのみ任かすのは、不滿足の點があるので第三項に於いて

各公園區に若干の公園委員を置き、公園の管理經營に參與せしむること

を述べた。これは公園に關し直接間接の學識經驗ある各公園區内の有力者を擧げ委員會組織で、常に當局の諮問に應じ、又建策し、公園の管理、經營に參與するのである。これも外國の都市に例がある。

三

第四項には公園の種類、第五項には數を規定した。即ち左の如くである。

市内公園の種類を左の五種とすること

(イ)大公園　三十萬平方米(九萬坪)内外
(ロ)中公園　十萬平方米(三萬坪)内外
(ハ)小公園　七千平方米(二千坪)内外
(ニ)兒童公園　千五百平方米(四百五十坪)内外
(ホ)特殊公園　社寺境内及娯樂設備を主とするもの

各公園區に左の公園を設け、市内公園の總面積は少くとも東京市全面積の百分の五以上、成るべく百分の十以上に達せしむること

大公園　一個以上
中公園　三個以上
小公園　十個以上
兒童公園　卅個以上
特殊公園　若干

公園の種類は面積によつて大、中、小の三種とし、別に兒童公園と特殊公園とを設ける。大、中、小の面積は大約平方米を以つて示し、これを標準的の面積とし、その最少限の個數を擧げたのであるが、その最少限の面積及個數で、全市面積の百分の五に達する計算となつてゐる。

現在の東京市で大公園に當るものは上野公園位のもので、芝公園は現在では特殊公園である。日比谷公園も現在の面積では中公園の大なるもの位に過ぎない。其の他現在の東京市の公園は社寺境内のもの多く、所謂特殊公園に屬し、眞に大、中、小の公園に該當するものは甚だ尠い。どうしても在來のものを改造すると共に、新設せねばならないが、前項の最少限度の個數にする事も中々困難

であらう。

四

第六項、第七項、第八項は公園敷地に關する注意で左の如くである。

河海濠池ノ沿岸及傾斜地ハ成ルベク公園ニ利用スルコト

社寺境内並ニ墓地ヲ整理シ、其ノ適當ナルモノヲ選ビ公園トスルコト

兒童公園ハ成ルベク小學校ニ隣接セシムルコト

河海濠池を公園に利用する事は、公園美の上から最も好ましい事で、防火、避難等の目的にも適する。東京市の隅田川、小濠などの沿岸は屢々述べた通り、是非とも公園としたい所である。傾斜地は建築に不適當であるから公園に利用した方がよい。社寺境内は既に公園となつてゐるものもあるが、此の際一層徹底せしめ、墓地は元來市内にあるべきものでないから移轉せしめて公園とするのが適當である。墓地の移動によつては、大、中小の公園、殊に小公園は數多設け得る事と思ふ。

兒童公園を小學校に隣接せしむることは、小學兒童をして兒童公園を利用せしめやうとする趣旨に外ならぬ。

五

第九、第十項は小公園の設計について述べたものである。即ち

小公園は密林本位とすること

小公園には水を利用したる設備をなすこと

廣場的小公園は、平素に於いても單に廣場であつて、公園としての効果尠く、又一朝火災の際などは何の役にも立たないので、密林本位とすれば小公園でも多少役に立つ事になる。又水を利用した設備、例へば池とか流水とかプールなどは、夏の爲めにもよく、又火災の際にも役立つ。中、大公園には必ず其の一部に密林もあれば水を利用した所もある事として、茲に省いたのである。

第十一項は

大、中公園の四周は直接建築敷地に接せしめ道路又は水面を以つて區劃すること

といふのであるが、それは公園の美觀にも大に關係し、防火、避難の目的にも公園の周圍を道路又は水面にする必要がある爲めである。

第十二項は公園内の建造物に關する條項で公園内の建造物は必要なるものに限り之を許可し、成るべく耐震耐火構造とすること としてある。元來公園内には必要な建造物、例へば四阿、喫茶店、便所等、大公園にあつては、音樂堂、美術館なども可）に限り許すべきものであるが、從來は種々不要の建造物のある公園が多い將來はこれを取締ると共に、成るべく耐震耐火的構造として、公園内で火災を出すやうな不始末を防止すべきである。

六

第十四、第十五の兩項は公園聯絡についての條項である。

大、中公園は、公園聯絡廣路により互に聯絡せしむること

公園聯絡廣路は幅員五十米（二十七間三尺）以上とし其の内植樹帶を八米（四間二尺四寸）以上とすること

但河海に沿へる場合は幅員三十六米（約二十間）以上とすること

大、中の公園を聯絡する必要は、既に根本方針中に述べたが、聯絡するには公園聯絡廣路によらねばならぬ。而して公園聯絡廣路は、幅員を二十七間半とし、植樹帶に四間以上をとり 歩道、車道、電車道の外に、遊歩道を設け、遊歩道によつて甲公園から乙公園へ、宛も公園中を歩く思ひの中に移り行けるやうにするのである。斯くして防火線路としても、又避難通路として十分に役立つ事が出來るのである。但し河や海に添ふ場合は二十間以内でも同じ目的に對して十分である。

第十五項には公園外の事ではあるが

一般幹線道路は公園連絡廣路の樣式に準ずること

を擧げた、卽ちこれによりて一般幹線道路を美裝すると共に防火線路として、又避難道路としての十分役立たせる事が出來るのである。幹線道路も

唯幅員が廣い丈けでは大都市の道路としての價値がない、公園聯絡廣路の樣式によつて始めて耻しからぬ幹線道路としての値があるのである。

七

第十六項は自然公園、第十七項は運動場についての條項である。

自然公園としては既設のもの〻外、日歸り行程の地域内に於ける天然の山水風景地を利用すること大運動場は之れを市外適當の地に設くること

前に擧げた大、中、小の公園、兒童公園、特殊公園は最限度にすれば市の地積の百分の五になるので、他の百分の五を市内に求められない場合（實際の百分の五さへ市内では困難の現狀である）は市外の自然公園を以つて之れに充てるより仕方がない。それも單に郊外などゝ云はずに、汽車又は自働車で日歸りの行程、例へば東京市では秩父鎌倉、江之島、箱根附近迄も東京市の自然公園として天然の山水風景を利用するのである。大阪市ならば奈良、須磨、舞子、宇治など數多の適當な場所がある。又從來あまり人の行かなかつた森林などに道路を設けて自然公園とするのも妙である唯その市外から自然公園は其の地方と市の公園當局との接渉をうまくやらねばならぬ。

運動場は公園とは違ふが、市外適當の地に設け道路をつけ交通機關を設置すればよろしい。

猶庭園協會の建議には『附をして

私有の庭園にして保存の價値あるもの及市民の保健上効果あるものは成るべく之を保存するの方針をとること

の一項が加へられてゐる。之れは名園の保存上必要なことで、今回の大災害などによつて益々必要を感ずる例へば松浦伯の蓬萊園の如き其の最も著しきものである。

市俄古市の地域制

加藤善貴知

はしがき

地域制は土地政策の基本として都市に最も必要なる制度であつて、歐米の進歩せる都市にあつては夙に此の制度を採用し其の職能を完ふするに吸々として居るのである。我國に於ても都市計畫法及市街地建築物法の制度に方つて用途地域制を認め既に六大都市に於ては之れが設定に當つて居るのであるが我國に於ける地域制は用途地域のみである。而しながら北米にあつては紐育を始めとして各都市に於て用途地域の外高度地域及面積地域制を認め、この三項目に準據して各其の都市の特有性に適應し内容を異にしたる制度を設けて居るのである。

今回新たに採用されたる市俄古市地域制は從來米國各都市地域制に其の例を見ざる容積地域を認めた。即ち前記の如く各都市は用途、高度、面積地域の三項目に準據したのであるが市俄古市に於ては用途地域及容積地域の二項目となしたのである。

この地域制は衞生保安上より都市の建築物に對して或る制限を加ふるところの制度であつて之れが制度を實施して以來米國各都市のスカイラインに及ぼしたる影響は實に大なるもので之れを一々の建築物の形の上に與ふる變化も亦大なるものである。

近來米國都市建築に於て其の下層が階級形を見るは明かに地域制に於けるセットバックの關係に支配されたることは勿論である。斯の如く建築の外觀上に及ぼす影響大なるが故に建築の美術的方面に關する研究者も各都市の異なる地域制を豫め知得し建築に及ぼす關係を講究し置

く必要がある。此の點に於て新たに採用された市俄古市地域制を譯出して掲載するも無益ではあるまい。

—(以下譯文)—

市俄古市會に於て新らたに可決されたる地域制は此の種制度の範とするに十分である、即ち三十二章と四十九節より成る各用途及容積地域の事項が簡潔明瞭に記載されてある。而してこの制度は建築委員に依つて實施されたのである。

制度局は市長に依つて設けられ其の局に任命せられる人々は何れも專門に於て十年間十分なる經歷を有する建築家、土木家、構造家、政治家より成つて居る、其の上に局長は任命され、市會の是認を得ることになつて居る。而して制度局(Board of Appeals)は斯の如き制度を起案し、實施するの必要に迫つた場合に於ては時々之れを提案し、而して亦必要に應じては或る條件の下に現制度の變更を要するに於ては、其の修正を市會に提出する等の權能を有するのである。市は土地占有の種類を抑制すべく用途地域を規定し、而して之れを住居、商業、アパアトメント及工業地域に分類した。又或る特殊の非適法用途が運用されて居る。即ち市域各部は四種の用途地域の一に該當するのみでなく亦五種の容積地域と稱するものに該當するのである。之等地域に關する具體的制度は明瞭なる圖表と同時に與へられてある。(圖表は削略)

用途地域 (Use Districe)

全市に於て用途地域を四種に分類し用途地域圖と共に下の如く書き表された。

住居地域——この地域に於ては個人住宅、敎會、學校及公園を許し而して事務、商業、工業は如何なる種類をも許さず

アパアトメント地域——此の地域に於ては凡ゆる住居用途及アパアトメントハウス、ホテル(商店の伴はざる)圖書館、病院、私人倶樂部其他之れに類似の建物を許す、而して事務、商業、或は工業用途のものは如何なる種類のものも許さず。

商業地域——此の地域に於ては上記の用途を許すの外商業用途は三グループに區別して許さる、

(一)用途 第一グループの用途は商業地域内の

何れにも許される　即ち小賣商、自働車庫、材料置場、倉庫、銀行、事務所、劇場、洗濯場、觀物場及これに類似のものを含む

(二)用途、商業地域内第二グループの用途は住居及アパアトメント地域より百廿五呎以内にある場合は夜間營業を禁止し、其の用途は其處に存在する建物の床面積の半分より多く占有することを得ず、而しながら少くともその場合に於ても敷地面積と同一面積丈け占有することを得る（譯者曰く、例へば茲に百坪の敷地に五十坪の建坪を有する三階建ありとせば延坪百五十坪の半ヶ七十五坪は此の用途に充當し得るのであるが敷地が百坪であるが故に百坪までは許されるのである）但し商業的建物が鐵道線路の上に設けられたる場合に於ては此の規則に例外が定められてある。

このグループは堅牢なる建物の中に全然處理される場合に於ては輕微にして支障なき製造業を許す

(三)用途、商業地域に於ける第三グループの用途は住居、或はアパアトメント地域に百二十五呎より接近して置くことを得ず、此のグループに於ては乾燥及洗濯する商會の建物、大食料製造所、貯炭場　氷貯藏庫、ミルク配達場、大なる厩の如き住居の安寧を害する如き特殊のものを含有する。

工業地域――工業地域に於ける用途制限は三グループに分類されてある。

(一)用途　第一グループの用途は工業地域内何れの部分にも許され而して從來營業しあるものと雖大規模のものは許さず。

(二)用途、第二グループは住居及アパアトメント地域に四百呎より接近して置くことを得ず而して此の用途には特別の種類、塵埃、瓦斯煤煙、騷音、火氣及臭氣の發生する工業動作を含む、

(三)用途　第三グループは住居及アパアトメント地域にまで二千呎より接近して置く事を得ず、而して此の用途には膠、セメント及製粉工業、石油精製、製革其他之れに類似する如

き製造工業の凡ての有害種類を含む。

非適法用途　本制度の採用以前に存在し而して其の地域の適用を受けざる用途は非適用用途と稱せらる、これに於ては用途制限を免れるが而し發展擴張は制限されてある。

容積地域　(Volume District)

市の各部は四種の用途地域の一にある上に亦容積地域にも該當するのである。容積地域は四種ありて各建築物に依りて占有し得る土地總面積と建物の高さの制限が附せられてある。この四種の各容積地域に於て角地に對する制限は中間敷地に對するより少しく異つて居る。又商業、工業、プロバーに對する制限は住居及アパアトメント地域に對するより少異がある。

容積地域は容積地域圖に於て大體を示し、而して更に圖表一、二、三、四或は五に表はし之等を第一、第二、第三、第四及第五と指示されてある

第一容積地域——市域内に於ける之等の地域は個人住宅、二戸建及類似の住居用途と定めこれに建築する建物は廣き空地を要求し、又その建物は敷地面積に對し大なる比率を取ることを得ぬ、之れに接近しては事務地區を嵗く住居或ひはアパアトメント容域に於ける第一容積地域は其の建物は中間敷地面積の五〇%（パアーセント）角敷に於ては六五%より大なる面積を占有し得ぬ、而して之が商業及工業地域に於ては全面積に建築することを得る建物の立體積は敷地面積の十倍を超過することを得ず（商業或は工業地域に於ては三六倍角敷地は一三倍）（譯者曰く、圖表を見るに單位は呎であつて、例へば茲に敷地の巾三十呎奥行百二十呎ありとせば其の敷地面積は三千六百平方呎である、此場合に於ける計容立體積は其の面積の十倍なる三萬六千立方呎であつて若し之れが角敷地である場合は其の十三倍即ち四萬六千八百立方呎である以下皆之れに倣ふものである）

屋根面は上記の立體積の上に許されるのである。

道路境界線上（Street Line）に於ける高さの

制限は三十三呎であつて最高限は六十六呎である（許容體積を超過せざるもの）

第二容積地域――この地域は大なる三階建アパアトメントの建築物が發達する處の傾向を有し隣接しては事務地區である。第二容積地域に於ける住居或はアパアトメント地域に於ては何れも建物は中間敷地面積の六〇%、角敷地に於て七五%より多く面積を占有することを得ない、而して商業或は工業地域に於ては全敷地に建築するを得る

建築の立體積は敷地面積の四十倍を超過するを得ず（角敷地に於て五十倍、商業地域及工業地域に於ては七十二倍）

道路境界線に於ける高さの制限は六十六呎最高限度は許容立體積を超過せずと雖も百三十二呎を超過するを得ず。

第三容積地域――此の地域は中樞地區の外廓に事務及工業中心が高く發達すると同樣高きアパアトメント建築及アパアトメントホテルが發達するところの傾向を有つて居る、第三容積地域に於てこれが住居及アパアトメント地域にある場合は其の建築は中間敷地面積の七五%、角敷地の九〇%より多くの面積を占有するを得ない、而して商業或は工業地域に於ては全敷地を占有し得る、建物の立體積は敷地面積の一〇〇倍を超過し得ず（角敷地に於て一二〇倍、商業、工業、地域に於ては一四四倍）

道路境界線上に於ける高さの制限は百三十二呎最高限度は許容立體積を超過せざるも百九十八呎を超過し得ず

第四容積地域――此の地域は中樞部であつて大なる倉庫及事務所建築の地區である

第四容積地域に於ては敷地面積の規定は第三容積地域のそれと同樣である。

建物の立體積は敷地面積の二一六倍を超過し得ず。

道路境界線に於ける高さの制限は百九十八呎である、最高限は許容立體積を超過せざるも二百六十四呎を超過し得ぬ

第五容積地域――此の地域は商業地（Down Town）區である、此の地區に於ける敷地面積の規定は第三、第四容積と同樣である。

道路境界線に於ける高さの限度は二六四呎である、此の制限以上の部分のスペースは一般に差掛小屋、水槽、貯藏用途又は同種のものは道路境界線より後退（Set Back）すれば許さる

建築物をして背面及側面に沿ふて採光及通風の十分なる程度の高度を保存せしめむとする關係に於て後退（Set Back）を要求して居るのである。而して塔は凡ての容積地域に於て許容される、軒蛇腹の張出しは限定建物の最上部に於て二呎と限定されてある。（了）

―（アメカリン、アーキテクト、アンド、アーキテクチュヤル、レヴユウ一九二三、七、二八）より

京都帝國大學醫學部衛生學教室に於ては戸田正本三士が統裁して、助教授助手學生等數人分擔の上日本家屋に對する衛生學的研究を急ぎつゝある者は曩に本邦の報導した所であるが、之れは住宅として日本の家を各方面から根本的合理的に研究するのであつて、その研究の結果に依つては我々日本人の生活に深甚な影響を與ふる重大問題であるも、爲に戸田博士も其研究の結果を輕々に發表しない方針であるらしい、何しろ此の研究は終了して居るものもあるが、凡ての研究を完結して、之れを綜合した上でなければ發表しない方針で事を避け既にその一部分の研究に着手して以來既に四年の時日を經過してゐるのであるから、相當の業績は擧つてゐる筈であるが、研究の範圍の人體を摘出して見ても如何に此の研究が我々日本人の生活に取つて重大な關係を有するものであるかと云ふことが理解される

殊に普通の日本人は冬季間火鉢から離れることの出來ないものであるが此の炭から生ずる有毒瓦斯が若し人體に深い惡影響を及ぼすものとすれば之れ非常な問題であつて、々々の日常生活に一大革命を行はなければならぬ事になるのである此の重大なる點に關しては一方木炭から生ずる種々の瓦斯の狀態及び數量等を調査し、他方その有毒瓦斯の直接人體に及ぼす影響に就て研究してゐる、次ぎには光線の問題である、即ち日本の家は現在々何なる程度に光線を採入れてゐるか、又が人體に適當であるか否か如何なる方法を講ずるのが最も理想的であるかと云ふ點續いては通氣の問題である

鳥の如きものも普通空氣の流通には關係がないやうに考へられてゐるけれども荒壁なぞは非常によく空氣を通すことが、此の研究で明かになつたのであるが、此の壁紙と障子紙の空氣を通す程度と、その人體に對する適不適を實驗的に研究するのである、この他日本室内の保溫、屋根壁等の問題、濕度、床、疊等の問題等、あらゆる細部に渉つて日本人の體質を本體として

西洋建築との比較研究に沒頭してゐるのであつて現に大阪衛生試驗所長の藤原九十郎氏が疊の衛生學的研究に依つて博士になつたのであるが、之れも口細部に屬してゐるのである、此の研究の抱擁する範圍は以上のやうに非常に廣大なるものであるからして、その全部の完成を告げるのは尚前途遼遠であるか、も知れないが若し之れが完成した曉には日本人の生活に與ふる功果は恐らく非常のものであらう



開路市よりミニヤ迄 (一)

―續「埃及遊記」―

工學博士　天沼俊一

十月二十三日　（月曜、好晴）

六時四十分起床、洗面をすませた時、昨夜來月初め迄預け置き度き旨帳場へ申込んでおいた荷物二個を下男が取りに來た。勿論一人で樂に持てるのに、こんな時には必ず荷物の數丈け人が來る。

編輯者申す――本誌客年十二月號まで「八戸成蟲樓」の名で「埃及旅行記」を執筆されたことは讀者御了知の通りですが、「八戸成蟲樓」の讀み方や意義に就いて餘程讀者の問題となつてゐたようです、その人が何人であるかといふことは、天沼博士が「續埃及遊記」を書かれたとて、直ちに同博士であるといふことは、餘りに無研究的な考へ方です。是れは餘程面白い意義を有つてゐるのですが、それに今姑く天機漏すべからずです。

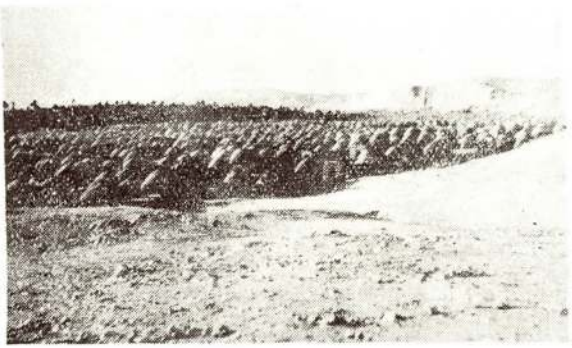
うるさい事だ。彼此してゐるうちに七時二十分になつたから食堂へ行つた。

私にとつては此時間は、決して早い事はないのである。併しこゝらあたりへ來て泊つてゐる異人達は、大概は遊覽に來てゐるのだから、申合せた樣に宵張りの朝寢坊をする。だから朝は九時過ぎでないと先づ食堂へ出ぬ、たから朝の七時二十分位には異人は皆ねてゐる。だから勿論、今朝は廣い回敎式の裝飾をした食堂は私一人であつた。食事をすませて食卓を立上つた時、給仕をした土人が、私の前へ立ち塞り行手を遮つて、若干の心附を要求するのであつた。

昨夜、夕食後、私は私の食卓附の歐人の給仕頭に二包の金を、給仕人共に見ゆるが如く見えざるが如くにして渡した。此包の一は給仕頭へ、一は私の爲め去る十四日夕食以來、入れ代り給仕をした給仕人へ分配すべき心附を入れておいた。そして其由をいつておいた。だから彼等は既に貰つてゐるか若しくは未だ貰はぬにしても知つてゐる筈なのである。然るに今朝は未だ其給仕頭が來て居らぬのにつけ込んで、二重取りをしやうとしたのだ。尤も去る六月下旬獨乙國ケルン市の宿屋へ泊り、いざ出發といふ時、廣間に誰れも居なかつたのを幸ひ、見たところいくら安く積つても陸軍少將は大丈夫と思はるゝ樣な制服を一着に及んだ客引が、臆面なく心附をねだつたから、大枚金五十錢——五十マーク、當時は一マーク約一錢であつた——を與へたら、帽子をとり笑顏を作つてお辭儀をした事があつた。獨乙ですらこんなだから、埃及あたりは仕方がないと言へば言ふものゝ、餘り露骨なのでいやになつたから、默つて突き立つて其男を睨みつけてゐたら、先方が退却したので私は步き出したのであつた。いくら宿が First Class で食堂が Egyptian Saracenic で噴水があつて天井で電氣扇が廻つてゐても Tunis や Nubia や Sudan あたりから出て來た我利我利亡者の給仕ではいやになる。

食堂から部屋へ歸る時廣間の時計をみたら、もう三分で八時だ。私のは七時四十分、いつどうして二十分も後れたのか分らぬ。併し愚圖愚圖は出

來ぬから、ゆつくり休むひまもなく出かける、此時何も用事のないものが室へ陸續やつて來る、陸續はちと形容が過るかも知らぬが、入れ代り立ち代り來て追從笑ひをする。金をいくらでもいゝから貰はう、貰はねば損だといふ意地の汚い根性をかう遺憾なく發揮されては閉口せざるを得ぬ これも獨乙での話しであるが Nürnberg 市大旅館の一なる Württembergerhof の食堂の給仕が、食後心附をやらうと思つた矢先に催促をしたのでいやになり、減額支給をした事があつた。併し兎に角食事をサーブした丈けいゝ、同樣の理由により今朝の給仕の方がまだいゝ、出がけに來る奴はけしからぬから、理屈からいふと一文もやらぬのが正當であるが、實際はさう行かぬ、此現象も亦世界各國共通で、たゞ程度に於いて若干の差あるのみであるから仕方がない。

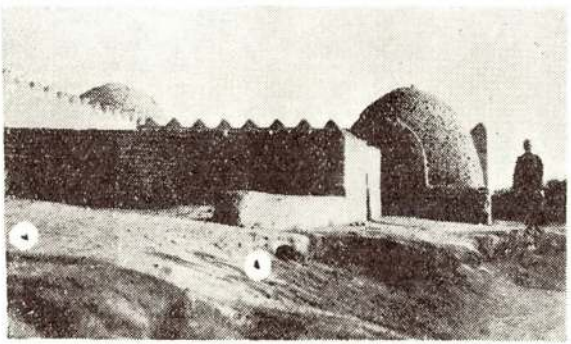


コロムボ ハラムマルに於ける土饅頭を並べたアニミスト人の墓全景
見渡す限り

宿の Omnibus で驛へ行く、ついて來た歐人番頭大に世話を燒き、切符の買入から座席の占領に至る迄大に盡力をしたのであつた。又惡口になるが、開路に於ける驛赤帽の賃金は、荷物の大小に係らず一個一ピに定まつてゐる。私は手荷物としては Suit Case 一個丈けだつた、そこで番頭は一ピで充分だといつたので直に賃金をやつたら、彼は澁々退却したが、番頭が去るや再び窓口に來て帽をとり、小腰を屈め一片の白銅を乞ふのであつた。一ピでなぜ不足かといつたら、彼は分つたのか分らぬのか同じ事を繰り返すのみであつた。私が甲谷陀(カルカッタ)から Madras 市に到着した時、赤帽賃一個一アンナ(約四錢)なるに對し、私が一等客であるからとて四個の荷物の運賃十六錢が正當なるべきに一ルーピー(約六十五錢)を强請したので、そこ

は八戸流の奥の手を出して美事に撃退したのであつたが、こんなのと比べると、人の悪い開路の赤帽としては餘程温順な好人物なのだらう。もう此れ限りやらぬぞといつて尚一ピを與へたら、直に消へて失せてしまつた。汽車は間もなく發車した、時に八時半。

私の占領したのは客車の一番端の Compartment であつた。私は歐洲旅行の際に汽車が各驛に着く毎に、いつも窓から首を出して乘降場をみていた、そしたら顔が塵除けとなり誰一人其仕切内に入つて來る者はなかつたのに鑑み、此日も其通り試みたら効能顯著で頗る好成績をあげ得たが、唯一つ困つたのは、暑氣が劇しいのに室内に電氣扇なき爲め止むを得ず窓を開放しておいたので、微細な砂塵が一ぱいに入りそこいら中一面に薄赤い被膜が出來て了つた。これを手巾ではたくと舞ひ上つて噎つぽい、閉めれば暑し開けておけば此通りで何とも始末に惡かつた。併しこの塵攻は埃及で修業をしておいたので後に印度を旅行した時に大變に助けになつたのであつたが、此時は初めてこんな目にあつたので少なからず弱らされた。開路發後正に四時間を費し、午後零時半目的の Minia, 驛（一に Minyeh, Minieh）に着した。

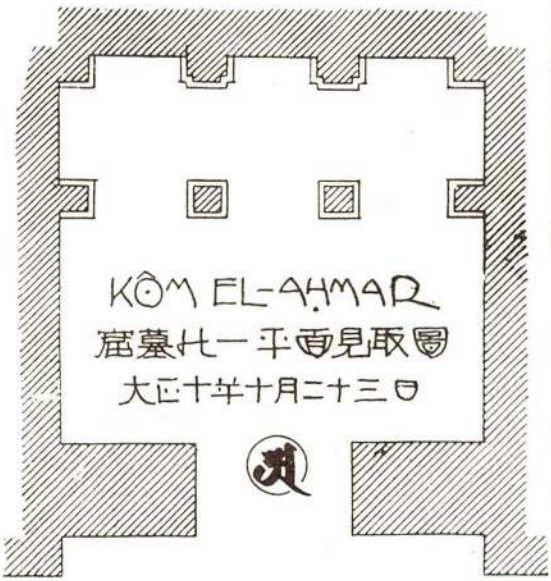


コムハラムマルの墓のルイナ
日光で乾かした煉瓦で築造せし土泥のルイナ
をもつて作りの

下車するとヘメダがゐた。此男先日ミニアでお眼にかゝりますといつたから、先發するのかと思つたら同じ汽車へのつて來たのだつた。其上僅に四日間にしていやに大きな鞄をもつてゐる、荷物は赤帽に持たせ導かるゝまゝに驛より程遠かぬ Palace Hotel といふのに入つた。

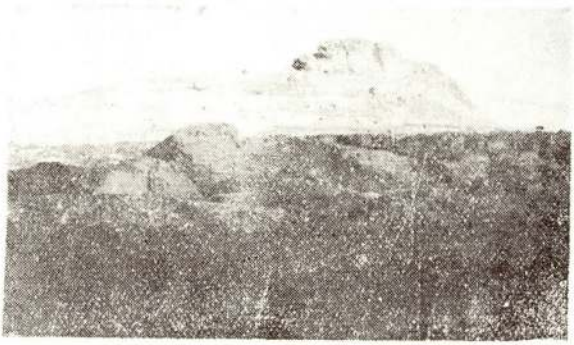
昨大正十年十二月初旬、西班牙國ブルゴス町の伽藍見物の目的で、佛蘭西のボルドー市から汽車にのり一日かゝつて夜晩く此町につき Hotel de Paris といふのへ泊つた事があつ

た。田舍の町と馬鹿にしてゐたのに、夜だからよくは判らぬが、玄關も相當だし、屋號の巴里館といふのが氣に入つた。多分少しはうまい物を食はせるだらうと思つたのに、翌日は晝食に白魚と鹿尾菜とをマーガリン・バタでいためた頗る生臭い油臭いのを食はされ、同行の櫛仙博士は一口頬張つたが吐出す事も出來ず、眼を白黒し妙な顏をして鵜呑みにしあとは次の料理の來るまで行儀よく膝へ手を置き、紳士然と控へてゐたのが可笑くて仕方がなかつたが、併し室は小綺麗で勿論電燈はあつた。然るに今日の御殿舘はブルゴス等とは比較にならず、電燈はなく床に敷詰めた油布はボロ〳〵で孔だらけで、上面の模樣なんかすつかり禿げてなくなつて了つてゐる。戸でも窓でもたてつけはガタガタで、ろくには閉まらぬが、幸ひな事には熱帶で暑いから隙間洩る風の心配は少しもない。天の配劑妙なる哉と大に感心をしたものゝ、此調子では白魚と鹿尾菜を覺悟せねばならぬらしいので、大に悲觀しながら食堂へ行つてみたら、割合にうまく食べられたのは勿怪の幸であつた。但し獻立表が曉夜文字で印刷してあつたには困つた。仕方なしに讀んで貰つてやつと無事に食事をすませた。



食後半日をどうするかときくから、案内記によると此町の反對側に向ひ合ひに Kôm el-Kefara の村があり、こゝに Middle Empire の墓があるとかいてあるから、夫をみるといつた。古墳は何れにしても川の右岸だからとて直にナイル河に向つた

ミニアは人口約三萬で繁華な都會である、宿を出て徒歩約十分にして川岸に達した、こゝには大小二艘の船が舫つてあつた。船頭との談判は宿からついて來た男とヘメダと二人で可なり長時間を要した、私は早く決めろ、でないと時間に無駄が出て困ると二度程催促をしたら、嘘か眞か判らぬが船賃が餘り高いから負けさせるのだといつた。併し約三十分を費してから漸くの事で大船は百で小船は六十ピだといふ返事であつた。いくら川が汎濫してゐて橋がないにせよ、渡船に拾圓だの六圓だのは不當な料金である。けれども中止するのも惜しいから、なぜそんなに高いのか、小さい方の船をもつと負けぬか、といつたが、夫れは何の役にもたゝなかつたヘメダは一磅の方を九十ピに負けさせたから、直に乘り給へといふ。かうなると意氣地のない事夥しく、反對する事も出來ず仕方なしに乘込む。此時の心理狀態は、もうかうなつてはジタバタしても仕方がないといふ諦めが半分と、ナイル川遊びをやつた古代の王候將相の氣分を少しでもいゝから味つてみやうといふ氣が半分とであつた。けれども、ざう考へても渡船に九圓とは箆棒である。切齒扼腕しながらヘメダをみると、煙草を吹かしながら傲然と嘯いてゐる。船頭は勝利者の樣な顏をしてゐる。いやな奴計りだ、此船頭九つか十位の女の子を一人連れてゐる。我國なら尋常二三年の子供だが、頗る忠實に阿爺の助手を勤めてゐる、阿爺元來眼中金錢以外何物もないのである。こんな小さい間から學校へ行かずに阿爺を見習ふのだ。此子は岐度數年の後には斯道の Expert になるだらうと大に感心をしたのであつた。



コムの丘ルマハラムの中腹にはルマハラムの墓(丘)が赤い。前方の景山、全澤の昔はこゝは多分の町の廢墟で、後方の小高い丘である。

扨て船は出たが中々向側へは行かぬ。流に溯り帆をかけて電光形の航路をとつて進んで行く、樣子が大分に變るので、三十分計り我慢をした後案内人に行く先をきいてみた。

『何處へ行くのか』

『古墳をみに行く』

『それは私が註文したのだが何處の古墳か、大變に遠いぢやないか』

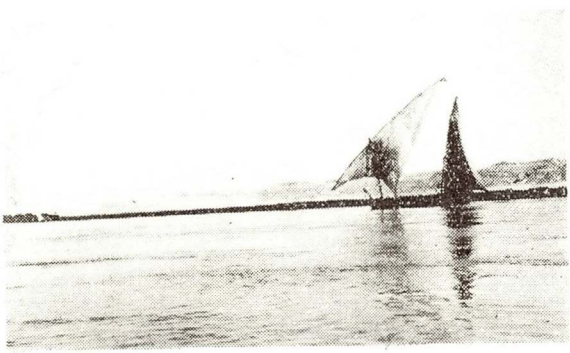
『コムラハマルへ行くつもりで』

『そんな所があるか』

『ミニアから四哩半川を溯るのです』

地圖を開いてみると、成程あつたが Kôm el-Ahmar とかいてある これをコムラハマルとは難かしくて中々訓めぬ、夫れにしてもこんな所迄で來るのでは、時間もかゝるし船賃も高い筈だ。

漸くにして Ziawiyet el-Amwat 村を過ると、右岸に沿ひ眼の及ぶ限り無數の土色をした半球形の屋根が見えた、此れはミニア人の墓地で、古來の習慣によりミニア人は、今でも死者を船にて此所迄運び、先祖代々の墓地へ埋葬するのださうな、其半球形の土饅頭の樣な屋根が、南北に長い墓地一面に竝んでゐるのだから、丁度我國に類例を求むれば、舊式の大きな餅菓子屋の店頭に、隙間なく葛饅頭か何かを並た樣なもので甚だ壯觀で到底數へ切れぬのである



ナイル河の土人船、ベニ・ハサン附近

此葛饅頭を通り越して船は右岸へ着いた。時に四時十五分ミニアを出たのが二時半だつたから正に一時間と四十五分かゝつた。船がつくと直に土人が二人出て來た、これ等がまた餘計な案内をして金にありつかうといふ算段である。

上陸をして直に葛饅頭の探見に行く、二人來た土人の內一人はちやんと附いて來る、近くへよつ

て見ると饅頭の下は四角な部屋になつて居り、夫れに續き、又は其反對側に一段高い平場があり、圓屋根の入口は迫持形に開いてゐる。入つてみたが内には何もなかつた、夫れから斜めに玉蜀黍畑を抜けると、山の中腹に Ancient Empire の末葉に迄で溯り得る Hebenu の皇子貴族の窟墓がある。併し暴力で掠奪したのと兼て保護が行屆かざりし爲め、隨分にひどくなつてゐる。其内の一番いゝのでも入口の處は全く亡くなり、内部の支柱は二本共缺きとられてゐたが、其平面は大體圖のやうであつた。墓の入口には鐵柵があつて入れぬ時間も追々なくなるし、外から覗いた丈けでは不充分ではあるが、西向きなので夕日が内部迄さし込み、爲めに充分にみる事が出來た。

まだ此外に澤山の墓があるさうだが、概念を得た丈けで充分である。夫れよりか明日はベニ・ハサンをみる樂みがあゝ。だから今日はほんの小手調べである　だからこの位で澤山である。そこで引返さうとした時、村の長で此墓を責任を以て預かつてゐるといふ老人が、鐵砲を持ち驢馬へ乘つてやつて來た、流石に一村の長丈けあつて威風可なり堂々としてゐて、頭髪も口髭も銀色だつた、あれで顎髭さへあれば、繪にあるマホメツトそつくりであつた。かういふ老人には Sheiku なる尊稱が如何にも適する樣に思はれた。

此老人が私に一禮して鐵柵をあけやうかときく私は外からで充分だし、早くせぬと途中で日が暮れさうに思つたから、其厚意を謝し川岸に引返したら、老人は先廻りをして船着場に居り、其傍に村民十數人堵列してゐた。老人は下馬して居て私が通る時に捧銃の樣な事を機械的にやつた。發條仕掛の人形の樣な捧銃の禮を受けた事はあるが、夫れは今を距る十八年以前だつたし、もう忘れてゐたところへ、出抜けに發條人形をやられたので大に面喰らつた。併し此老人は敢て金が欲しい爲めではあるまい。あんな Venerable な老人は例令金に目的があるにせよ、さう考へ度くない、だが村民共は珍らしいもの見たさと錢欲しさとからである事、一點の疑を挿む餘地はないのである。恐らく彼等は初めて日本人をみたのであらう。物

見高いのは我國のみではない、珍らしいものをみた上錢になればこの位うまい事はないから、集まつて並んでゐるのは當然である。

かくて此地に滯在僅に三十分、四時四十五分に船出した。歸りは下りだから一瀉千里と思ひのほかで、流れと風との都合が同じく電光形に船を操る、だから中々思ふ樣に進まぬ。その上不都合にも對岸へつけて土民の一群を便乘せしめたから尙更晩くなり、元の岸へ着いたのは六時二十分だから正味一時間と三十五分かゝつた。丁度往きがけとたつた其差は十分であつた。

いふ迄もなく歸りは船の中で日が暮れた、熱帶だから暑い事は暑いが日は短かい。折から透き通る樣な青空に、新月は東天に懸り無數の星はきらきらと光り、廣い廣いナイルの流れは沿岸唯一の肥料たる泥土を含んで滔々と流れてゐる。涼しい川風に吹かれながら、船の上にひつくり返つて空をみてゐると、何とも言へぬいゝ氣持である。晝間の景色も決して惡くはないが、私は初めてナイルの夜景をみて雄大壯大の感に打たれたのであつた。夫れと同時に、昔しの王候貴族の川遊びの光景を思ひ浮べ、こんな暑い砂ばかりの國では、これが唯一の慰安である。だから皆好んで船遊びをしたので尤千萬である。今は私以外には金で雇つた案內人と船頭と丈けだが、これで忠誠を抽でる臣下が大勢乘つてゐて、山海の珍味が並んでゐたら、正に身は五六千年前の埃及貴族になつたも同じである。だから私は歐米各國や開路市の博物館でみた古へのナイル遊覽船（Pleasure Boat）の模型を頭に浮べ、盛に時代逆行をやつて獨り大に樂んだのであつた。かくして圖らず體驗を得たこの半日の船賃として拂つた九圓は、今では少しも惜しくなくなつた。

歸宿して夕食を了つたら、案內人は追々と談判を持ち込んで來た。卽ち自分はアスアン迄案內し度いといふのであつた。前にも書いたが私は一日も早く此男に暇をやり度い、だから私はルクソルから先きの案內人は最早決めてあるから、お前にはアビドスで分れるのだといつたら、夫れならばルクソルから先きは誰が案內するのかときく、う

るさい事だが敢てかくすには當らぬ。併し餘り喋ると場合によつては小刀細工をせぬとも限らぬ。厄介な事になつて來た

『誰でもいゝ、夫れをきいて何にする』

『差支なくば名丈け聞かしてください』

『名はムスタファといふのだ』

『あの男には今朝クック社で會ひました、英國人二人を案内してゐたから今ルクソルには居りません』

『居ても居なくても約束は約束だから、自分はルクソル迄行つてみる。夫れで若し居なかつたら夫れは其時の事だ』

『苦し萬一ルクソルにムスタファが居たら、あの男には私が金をやつて破約とします。そして私にアスワン迄案内させてください』

『いや、いかん』

このムスクファといふ男は未だ會つた事はないが、開路の案内人サラーが推薦したのだ、サラーは坡西土の南部氏が推薦したのである。こんな關係だから大概大丈夫であらう。少なくともヘメダの様な虫のすかぬ男ではあるまい。ヘメダが餘りうるさいから、ルクソルへ着いてみてムスタファが居なかつたらお前を連れて行かうが、居たら先約だからいかん、といつておいた、そして私は殊更カリールといふ彼の姓を告げずにおいたのであつた。そしたら最後に、

『では一層の事アスワンを先きにし、ルクソルを後廻しにした方が便利でせう』

と言ひ出した。愈以ていやな男だ、果して彼が開路に居たのならルクソルに居らぬ事は確かであるから、お鉢は當然自分に廻つて來るから、こんな事を言ふ必要はない。

明日もヘメダはベニ・ハサン迄船で行かうと申出たが、一も二もなくはねつけて朝五時發の汽車にした。其爲めには四時半に朝食せねばならぬ。こんなに早く朝食するのは、昨年の十二月馬耳塞の宿へ泊つた時にあつたが、正に一年目でまたそんな目に會ふのだが、今度は寒くない丈け餘程いゝ。ヘメダは其由を帳場に通じ、歸つて來て自分も同室にねていゝかときく、此室には二つの寢臺

がある。別段差支ないからいゝと言つたら先へ床へ入つたが、間もなく長押の塵が踊り出す様な鼾をかき出した。早速起してさう大きな鼾ぢや今夜私は寝られぬから、他の室へ行けと追ひ出したら不平さうな顔をして出て行つた。これでやつと安心をして床へ入つたのであつた。（メダはどこ迄もいやな男だ。（大正十二年十二月七日稿了）

＊　＊　＊　＊　＊

正誤

九月號及び十一月號に掲載の事にも、誤植が數個所あつたが、大した事でもないから、こゝには省略し、左に十二月號の分丈けのせる。

頁	段の行	誤	正
四〇	下、八	家形文字	象形文字
四一	下、八	傳說あり	傳說ある
同	下、一六	Point devue	Point de vue
四七	下、二〇	Tokyo	Tokio
四八	下、一九	Bargug	Bardud
四九	下、七	三つの道路	三つの通路
同	下、一〇	Farag Abd el Aziz	Farag 及 Abd el Aziz
五六	上、七	高龍神	高靈神

第四十四頁終『かう書くと恰』より第四十五頁の下段の終の二字『も窓』へ續き、夫れから第四十六頁の初『口へ金を拂ひ……』へ、同頁の終より第四十五頁の初へ、同頁下段末行『我國でも、筑紫の國』より第四十八頁上段の初『造磐井の墓……』へ同頁の終なる『一木一草なき荒地に建つ、廟』より第四十七頁の初『は建築家……』へ續き、其終『尤も』より第四十九頁上段『だと思つた』へ續く。此前後は順序間違なしで、順に讀んでくだされればいゝ。

此大間違は、第四五・四六、及第四七・四八のページのつけ方が間違つた上、現在の第四十六頁の初めに行くべき『も窓』の二字が、現在の第四十五頁の最終へ入つたので、支離滅裂になつて了つたのは遺憾である。印刷所の失態ではあるが何ともすまぬ事である。

尚も一つ、第五十四頁挿圖の說明中、中央の分『フォスタート出々……』とあるは『……出土……』の誤、下の方に『フォスタート出土分漆喰斷片』の十三字を脫す。

關東方面震火災被害視察日誌 (一)

小川安一郎

大正十二年九月一日東京方面震災火災被害甚大なる事の報が頻々と傳はる度毎に銀行東京支店が無事なるや否やと我等同行の建築に最大最小となく關係した者は殊の外氣になり、勿論同銀行は耐震耐火には大に技師長が注意されたる建築なる爲安心は致し居るものゝ心に掛る事非常なりし、然るに其の後の報に東京支店無事何等の被害なしと其の時の私の喜は何とも云へない程であり（否直接間接の雇員方もさもあらんと思ふ）夫れより後は如何なる程度に如何なる狀態に被害を免がれたるやを知り度技師長初め視察して歸られし人々に就き尋ねて色々詳細に知る事を得たれども夫れが詳細に知れば知る程尙更其の狀態を直接詳細に知り度く又詳細に取調べ度く、尙東京方面の他の狀況を調査すると同時に東京支店の立派に殘りたる者を見度き念は心密かに大に萠しつゝあつたのである

然るに去る五日突然に部長より東京、横濱方面震災被害を調査研究し特に私には木造建築の震災に對する方面をも取調べて一週間の內に歸阪せよとの命令ありし時は非常の喜び常に必密に萠つゝありし心念が遂行せらるゝかと同行者三名と出發の用意を話合つゝ明六日午後八時五十分の急行上り列車にて東上する事に定めたり飜て考うるに命令に對し遂行する責任の甚大なる感は致せしも勇を皷して力の及ぶ限り時間の許す限り出來る丈の調査と研究を遂げ自分としてのベストを盡して歸れば夫れで足ると勿論吾々の分らざる所は先發せる諸君の立派なる研究があるので大に力強く思ひ度胸を定めて出發せし樣な次第である

出發當夜

一工務より本社其の外の依頼書信其の他の荷造りを成し大阪驛にて上り急行列車に無事乘車致し各自の規定の寢臺に着けり

十月七日——午前六時三十分沼津驛にて寢臺車廢止となり三等車に取り換へ連結す爲め各車輛滿員の爲め三等車に乘り換へ三島、裾野驛を過ぎ御殿場に差し掛る頃よりそろそろ震災氣分を見分することに成り沿道の山、崖等の崩れ落ちたる狀態に依り其の當時を推察せらる。

一駿河驛附近に差掛ると例の噂に高き富士紡績會社の崩潰の如何に噂より實際の方が大且つ酸鼻でありしかを想像せらる。

一駿河、山北驛間の徒歩連絡約二十町玉なす汗を拭ひつゝ遂道及小山を走りつゝ乘り越へ第三酒匂川の假橋を渡り待ちつゝありし連絡列車に打乘り汗を拭て二十二三分の後發車松田驛附近の慘狀非常な者にて夫れに加ふるに山水の出水甚だしく山崩れ土砂並に樹木を流し山間にある人家は是れが爲め流され倒され其の土砂の爲め人家を三分二以上も埋めたる所もありたり。

一此の慘狀（普通に各自に考へ居ることながら多く夫れ迄成されたる處少し）其の中に山水が山岸の下にある草葺の一農家ありたり、其の農家は敷地の境界に樹木を並列せしめ大なる生垣の如く家の左右裏の三方に（東西北、北に山南は日光を受け干物に便の爲め）植込ある爲め山の方より地震の爲め山崩を成し山塊出で來り多くの土砂、木材等を押流し其の農家に向て非常なる勢を以て押流し來りたるに其の家は前にも申したる通り境界に樹木を植付けあり　爲め押流され來れる土砂、木材は遮ぎられ丁度土止め柵の形となり恰も家の三方に土手を築きたる形となり南方の一方が樹木あらざりし爲め其前より水の排出口となりて其の家は安全に保たれたるは一偏に此の周圍の樹木の賜と云ふべきである。

一是れが爲め村中人々は家は埋められ或は流され潰され是れが掘出取り除け修繕等に此の秋の多忙なる時期に暇を消費しつゝあるも其の家の人丈は

家が安全なる爲め無事農事に業を勵む事を得つゝある者の如し。

一右の事情に依り山手附近に家を持つ人又は是れより建てらるゝ方は宜しく家の周圍には萬金を費したる無價値なる煉瓦塀及石塀・高塀を廢して安價なる樹木を植へ生垣代用とせらるゝ方衛生的となり防火的なり家の美觀となる實に好都合の方法なる事に注意せらるべき事である。

一夫れより進みて一は曾我驛附近は尤も慘狀を極め停車場は申すに不及全村完全なる家なく實に名狀すべからず此地方一帶締り無き地盤なる樣見受けられたり。

一國府津、二宮、大磯等皆損害甚だしく特に大磯の如きは東京方面の人々の別莊多く崩潰家屋の見ゆる丈尙更感を深ふせり。

一平塚を過ぐれば例の馬入川の鐵橋大破潰の爲め二重の假橋に依り徒歩を以て連絡する事を得約二拾五六丁非常の骨折を以て茅ヶ崎假停車場にて連絡列車に乘込みたり。

茅崎、辻堂、藤澤も家屋例潰甚だしく横須賀行の乘換場所たる大船處も甚だしく特に大船田園土地會社の文化的住宅の無慘の慘狀實に氣の毒の至なり、此の慘慘なる狀況は歸途に取調ぶることに定めて進行せり。

一戸塚、程ケ谷を過ぎたる頃より横濱の慘狀が線路兩側の人家其の外の被害に依り想像せらる

一横濱に入りて初めて其の程度想像以上なりしを眺めつゝ東京方面へ進む。

一神奈川、鶴見、川崎に至り左手の方へ東京電氣會社の鐵筋コンクリート構造の大工場及明治製糖會社（煉瓦造）の大工場が見るも無殘な倒潰振りには驚かざるを得ざるなり（後日研究）

一大森、大井を過ぎ品川に入りし時は案外町らしきに驚き田町邊より濱松町驛に至れば想像も餘りある東京市の燒野が原に化したることの大なるには實に實に能くも斯く甚大に短時間の內に燒け盡したりと驚くの外なかりし其の原中に大、小會社商店の建築の不燃壁體不燃柱の殘骸は恰も彼のポンペイの跡が斯くありし樣に忍ばれて無殘であり新橋方面より東京支店の方面を眺めつゝ東京驛に

づきつゝ眺むれども色々の新らしく出來たる建物の燒殘りに遮られて見へざるは殘念に思ひつつ東京驛に着して初めて燒色も付かざる支店ドームの見へたる時は實に實に何とも云へぬ喜びに打たれたり。

一早く下車して先づ支店に行くべく急ぎ無殘に燒け盡したる白木屋と加島銀行の殘骸を見つゝ其の東に如何にも孤軍奮戰して圍を突て歸りたる勇將軍の面持られたる住友銀行支店の面影が如何に悲慘に變り果れるを見たる時其當時深川の石材工場で石工を監督して熱心に且つ立派に出來し彫刻物が一物として完全なる者なく實に形の惡しきこと恰も人間にすれば鼻耳を取り去りたる顏を見る感がありたるなり。

一事務所に入り出張員に面會し多忙中に當時の狀況を聞き同氏の當時夫れ〳〵の處置せられし事思ひやられたり。

一兎に角一應營業室其の外內部を見廻り一つの異狀なきには大に安心せり（研究事項後出）

一夫れより麻布別邸に行き最早日暮なりし爲め一應外部の狀態を見矢野氏に面會を求め、同氏より當時の狀況を承り後日に視察研究は殘して宿に歸れり。

一以上出發より東京着迄の見分せし感想

十月八日——九の內ビルデイング視察研究

一九ビルに就ては既に先發の技師長初め光安、長谷部、小寺、中付其の他諸氏の立派なる調査研究濟に付生意氣に私が取調ぶる必要もなけれども私としては又私の取調ぶる所もあらんと又後學の爲めに中村、田邊事務所員佐藤氏の案內に依り最も丁寧に說明を受け其の狀況を知り且つ研究することを得たり。

一同ビルデイング構造及使用目的等は略。

同ビルデイングは昨年十一月の東京附近の地震に依りホロータイルの間仕切は殆んど破潰せられたるを以つて其の當時一百萬圓の補修費を以つて全部鐵骨の筋違を入れ兩面より金網を張りモルタル下塗りに漆喰塗仕上げとなされたり（モルタル下塗中にスサ石灰の混入せられある樣に見受けたり）

一右の間仕切りが此の度の地震に依り三階最も甚だしく上下へ破損の程度を減じ三四階の如きは其の鐵骨の筋違ひ非常なる力のショックを受けたる爲めか或は突出し或は灣曲し或は切斷せられ又は折斷『リベット』は外づれ鐵網は破れ非常の破損蒙り居れり。

一階段室の如きは腰羽目の大理石落ち壁には大なるクラツノ入り實に慘澹なる者なりし斯る慘狀なる爲め今後立派に使用するに貳百萬圓の修繕費を以て施行せざれば完全ならずと實に誠實を缺きたる建築の地震の爲めに蒙る損害甚だしきことを想像するに餘りありと云ふべしである。

一若し右の『プレーシング』を以て昨年補給せざれば如何に此の度の地震の爲めに大なる破損を生ぜしか或は崩潰せしやも計り知れずと推察せらる又案內者も崩潰せしならんと云へり。

同ビルデイングの電燈器具は重に半透明の洗面器形のグローブを『コ』にて釣し其の中央にコードを以て釣したるランプを附したる俗に云ふ半インダイレクトライトなるが爲めに始ど全部グローブの釣箇所より振り落され幾千と云ふ之の立派なるグローブは破潰せられ又は是が爲め人は大怪我を受けたる者多數ありたるが故に是等工事に關係する者宜しく此の處に就て研究しライト共に大に注意すべきことなり。

一但し『シイリングライト』『ブラツケット』『パイプペンダント』の如きは取附の丈夫なる者は全部完全なり。

右の實證に依りて建築物體に完全に取付附着せしめたる者は被害程度少き爲め此點に大に注意すべき事なり。

其の他張り付大理石の剝落及仕上工事の粗末には驚く

興業銀行

此の銀行は此の度の震災を免かれたる最近落成し構造に於ても內外觀に於て最も善美を盡せる右數の建築物なり剌を通じて內部の設備萬端の參觀を乞ひたる所甚だ親切に設計者渡邊節氏の所員たる內藤昇氏の案內にて一々懇切なる說明に依り地下室より一階、二階、三、四、五、六、七近

屋階迄丁寧なる案内説明を得たるは大に多謝すべきことである。

尙ほ同建築概要を給せられたるに依り構造其の外坪數に於ても其の詳細を知ることを得たり略す

一營業室、客溜は床モザイック、高巾木大理石『カウンター』『マンナリ』花崗石、目隱は『カンター』全に取付け框なき硝子の引戸付にて氣持好く出來上れり。

一同天井は『アーチ』型になり全部石膏彫刻を附し仕上色彩は住友銀行東京支店營業室天井の色合と同じく『アイボリーカラー』に仕上げられたり。

電燈設備——營業室電燈は同室全部を照すに全くの『インダイレクトライト』にて各並列せる柱の柱頭を兼用せるブロンズ製の器具を取付け電球は全く隱蔽せられ甚だ氣持宜しく出來上り居れり

『スタンド』用『コンセントプラグ』の如きは別記する必要なし只柱の　面に各係りより見易き所に各種の色『ライト』を現す電燈裝置を取付られたるは支配人、重役、總裁の來店を知らしむる爲めに色別の『ライト』に依り區別し知らしむる裝置とせらる。

一、特に營業室金庫及各室必要箇所に豫備燈を設置しある事は注意すべきことでありし

家　具——客溜り客用テーブル、四尺に八尺の長方形の大テーブルにして尤も『ステブル』なる形を成し彫刻を附したる裝飾實用兩用兼備せる者にして甲板の如きは一吋厚の『プレート』磨き『グラス』を取付られたる等驚く程なり。

客用長椅子も前同樣の『デザイン』にして氣持宜しき皮張り椅子なり。

營業室家具も形其外右同樣に立派なる者たり右營業上の家具に就ては店の習慣に依り形狀裝置に就ては批評の範圍にあらず。

一金庫及二階保護預り等に就ては最も注意を拂ひ最も安全に最も立派に最新式を以て構造せられたる舶來扉を使用し完全に裝置せられたり

此の種の構造設備に就ては已に長谷部技師其の外諸氏の調査濟なる爲めに是れ以上は筆を止めて只注意せられたる二、三を擧げて參考とせん。

一金庫のマンホールを裏面の方に取り壹間は扉を

開き其の跡に扇風機を嵌込み常に室内の空氣を交換せしめつゝあること。

一室内周圍は全部鐵板にて造れる箱になり居ること。

一保護金庫前の秘密室は常、扉が開け放しにせられ人が室内に入り、扉を閉ぢれば締ると同時に電燈が付く裝置となり秘密の仕事を成すに安全にせられたること。

此の室に於て注意すべきことは取付テーブルが木製なりし爲め寶石類の如き小なる者が若し轉げ落ちたる場合に机の下等に行きし時直に其の所在を知ること能はざることあらんと懸念せらる。

故に右を防ぐ爲めには硝子製の取附テーブルにすれば妙ならんと思ふ(所感)

一大便所の扉が前同樣用便後は必ず開放的になり居ること是れは一寸考へれば見苦しき感なれども是れが爲め清潔と無臭を保つことを得る。

一是れは『デザイン』に依ることなれども陸屋根に出たる時に百尺も高き家はバラペットの高さ及厚さに依り人間の腦裡一種恐ろしき眩暈感を持つものなり、故に同銀行バラペットの如く眞下が見へぬ横少し高く巾廣く前方へ突出する樣構造する方甚だ當を得たるかと思ふ

一總裁、重役、貴賓會議は各室共善美を盡されたり、色彩裝飾に就ては夫れ相當に考もある事なれば批評するを止む。

一以上は只同行の設備の一端なれども地震に對しては殆ど絶無と云つても差支へなき被害あるのみなり。

此の建築の構造的設計は工學士内藤多仲氏の設計にして同氏の尤も意を用ひて設計せられたると云ふ夫れが爲めか只一階以下に間仕切の『ホローブルック』積の筒所に龜裂を生せしと(當時補修中なりし)屋外埋戻し地盤が沈下せる爲めに其の地盤に建てられたる建物破損を生じ、又其地中に埋めたる『パイプ』類に破損を生せしのみ

聞く所に依れば内藤氏は此の建築の構造設計は尤も『マキシマム』安全的計算にて建てられたるに反し大阪高島屋の構造設計は尤も『ミニマム』の計算を以てせられたりと云ふ、實に好都合にも其

の『マキシマム』の者は東京にありて『ミニマム』の者が大阪にありたり、若し是れが反對なれば如何なる結果を生ずるか大に注目すべきことなりしと可呵して話せし者あり、只聞きしまゝ參考の爲め書す、然し同氏は此の道の大家にして決して之れに就て心配すべき筈なきことを信ず。

東京工業倶樂部

＝此の倶樂部は大正七年三月起工、同九年十一月竣成せし。

一、鐵筋コンクリート造り『タイル』張の大建築

一、横河工務所の設計及施行

一、親切なる庶務課長喜多貞吉氏の案内に依り各室共詳細に見學を成すことを得たり

内外共非常の損害を蒙り居れり、其の大なる箇所は東側中央大柱三本一階の所に於て壓潰されたる爲め各方面にも害を及ぼしたる樣に見受けらる此の建築は『インギュラー』の平面を有する爲め震動を受けし事も亦甚だし、夫れが爲め思の外各箇所に損害甚だしく特に各階段室の如きは大理石は剝ぎ落され壁體には龜裂を生じ是れが補修修繕には相當の時日と經費とを要するならん、丁度一階の壓潰されたる部分は最早補修工事中にて盛に工事を急ぎ居れり。

一然し西館の大講演室は少しの被害なく只取附箇所の龜裂生じたるのみ。

一此の館は鐵骨を以て完全なる立派なる構造なり事を知る此の事に付ては構造專門家の時に注意すべきことゝ思はる。

一電燈に就ても丸ビル同樣の器具の分は皆振落され居れり大に注意すべきことゝ思ふ。

丸ノ内代表建築物

一、內外ビルデイング

一、郵船ビルデイング

一、東京會館

一、日本石油ビルデイング

一以上の諸建築に就ては諸大家　先發諸君の完全なる視察見學に依り知ることを得ると思ふ、時間が許さゞる爲め詳しき調べを止めて只參考の爲めに外部丈け視察することにせり

一右視察中甚だ遺憾に思ふのは破潰箇所に依て如何に施行上及監督上の不注意不行届きの點である

（イ）例へば煉瓦積の中に木屑、塵り等の不純物が混入して積上げ居る爲め如何にも腹綿を露出せし樣で甚だ見苦しき事云はん方なし、實に建築道德を無視して建設したる樣思はれ不愉快極りなし。

（ロ）**鐵筋に就ての私の考**＝鐵筋の接合箇所が小なる柱の一部に同時に揉合せられたる爲めコンクリートが此の接合に依り上下に切斷せらるゝに最も便利の樣な感至す爲め或は此の部から多く折れたるではなきやと思ふ、亦其部分より折れたる者も見受けたり。

（ハ）此の理由の爲め出來得べくんば接合を亂にすれば此の點に於て丈でも好結果を得はせないかと思ふ。

（ニ）『テラッツオ』張の建築の『ミジメ』に龜裂破潰せられたる壁體を見るに如何に氣の毒に思はれる今少し施行に注意し張付に注意すれば或は完全殘すことを得るならんとも思はれる、勿論壁體の如何に依りては何とも致し方なし。

（ホ）裝飾的大理石張付の剝落の如きも右同樣施行の注意を缺きたる爲め斯の如く無殘なる跡を殘せしと察せらる。

住友銀行東京支店の如きは右の如き跡を殘さざりしは其の點に尤も注意せられたることを證するに足る。

施行方法は同行の時に述べん。

澁谷、青山方面

所夕方青山、澁谷方面を視察するべく一行と別れたり。

一同方面は所謂山の手にして地盤の堅固なる爲めか其の被害甚だ少く屋根瓦の大部分は落下せるも大體に於て皆無事である

只大谷石の土止め石垣同石塀等は殆ど無事なる者なし。

東京には此の種の施行非常に多く爲めに相當の損害を受け居れり、其の施行方法に就ては一斑石

土に石灰を混じたる土を以て成七八寸、巾六七寸で長さ二尺五寸以上の者を積上げたる者故此の度の如き地震に對して完全に殘ることは期せられてない事で當然害を蒙る筈である、偶には小端を現して三本置き位に引張りとして積上げられたる者あれども元來『モルタル』になるべき者が右の樣な土なる爲め其の引張石が其儘土巾に殘りて崩れ居るを見ても證明することを得。

若し是れを立派なるセメントモルタルの接合材を以て積み上げたなれば或は完全なる事を得たるならんと信ず。

一尙塀の如きも充分なる『バットレス』を取りて造りたる者は殆ど完全に殘留せり（山崩せざる限り）特に板塀の如きものは明にバットレスの有無に依り其の結果を立派に證明することが出來る

以上の事は建築屋のみならず素人でも考ゆることと又常識を有する者は何でも無きことで此處に書くだに馬鹿げた樣なれども大低は色々の都合に依り夫迄成さざることと多々ある爲め特に記し置きたるなり。

十月九日——本日は雨天なる爲め自由行動を取ることゝし一行と別に千代田生命、東京支店麻布別邸を詳細に取調ぶることにせり。

千代田生命ビルデング

此の建築は鐵筋『コンクリート』七階建なる最新式の建築なり、此の建築は地震の爲めには餘り損害を受け居らず只火災の爲め建物の燃燒物の分は燒盡し外部の張付石は又相當の被害を受け居れるも此の建築は他の被害建築物に比し被害の程度割合に少し夫れが爲め補修工事を急ぎ各室共事務を取りつゝあり。

一此の建築の電燈器具も例の米國製の『インダイクレーライト』や『バーブエクトライト』なる爲め全部追落破潰せられたり。

右の樣な次第にて前述の如くグロブ及ゼードの取附に尤も注意を拂ふと同時に電球の取附の所にも相當の考を要することは各自大に注意すべきことなり。

此の建築は一階を除の外東北は『シャッター』の取附なく窓は全部スチールサッシュのみなりし

も幸ひ出來上りて餘り時日を經過せざる建築なりし爲め燃燒物の多からざりしと空室が多かりし爲め内部も相當立派に殘りたる次第と想像せらる。

住友銀行東京支店

＝東京支店は前に一寸述べし通り、最も多く此の工事に關係せし丈け最も深き印象を止めて居る故に如何なる程度迄完全に被害を免がれたるかを取調ぶることの相當樂みであつた。

イ、外部は前述の通り甚だ悲しき感を以て見られたるも内部には些細の被害もなく實に立派に否寧ろ立派になりし樣な感を起せり（是れは目があまり恐ろしきものを見たるため）只營業室の北側の窓硝子が龜裂、破を生じたるのみと床の一部が『リノリヤム』と其の下『コルク』及『アスフワルト』が熱の爲めに湧返りたるため『ボッ』『ボッ』が出來凹凸を生ぜしめしのみにて他に異狀なし（是れは地下室に火が入り在庫品が燃燒せる爲め其熱に依り床に影響しコンクリートの上のアスフワルトが湧き返りコルク板及『リノリユム』に影響を及ぼしたるなり（別包見本）

ロ、今より考ふれば『コンクリート』床上にアスフワルトを塗ることを止めてセメントモルタルを以て地均を成し其の上に『コルク』を『モルタル』を以て敷き込めば右の樣なことがなかりしと思ふ（コルクはモルタルと非常の力を以て附着し又熱を防ぐ爲め）

ハ、窓硝子が破損せしは窓臺とシャッターの下端の透間より火力風の爲めに吹き込みシャッターの裏に塗りあるペンキに點火し其の火氣を以て龜裂破損を生ぜしめたるなり。

ニ、右の樣なる次第に付『シッター』裏の塗料に就て意を用ひて防火塗料を塗るか又は『シャッター』は假及非常の時の爲めなる爲め裏側は錆止めのみにても宜しきかと思はれる。

ホ、窓掛・カーテン、日覆等も防火施行完全なる窓に裝飾せる者は　何の變化もなく立派に色をも變らず殘り居ることは他の建築物に比し實に雲泥の相違である、實に窓障子と窓額緣迄の間五寸の所に薄板を以て作りたる日覆

用『ガラリカ』迄が何の異常もなかりし事に於てをやである。

ヘ、家具は住友銀行の各店部の家具は東京支店の形式に取りたる程にて色々の方面より考へられたる者なる爲め地震に對しては何の異常もなく只五階ドーム會議室にある一小卓子と奥行少き飾棚及びスクリーンが倒れたるのみなり。

然し倒れ様が宜しかりしか構造の丈夫なりしか硝子一枚破れず少し『モルチング』の所に傷を生せしのみなり。

右の様な次第で机が倒れたる事より考ふるに如何に甚だしく震動せしかを押計られるのである。

夫れに建築物に少しの龜裂も生せざりしは最も地震に對する構造に如何に注意しあるかを知るを得。

ト、電燈器具此の事に就ては前にも度々見分せし通り何れの建物でも相當の被害ありたるも住友銀行のみは何の損害も受け居らざりし（注意すべきことゝ思ふ）

特に私の心配して居りたる五階ドームの中央に取付けたる九燈用大シャンドリヤ重量十六七貫。取付の時に職工七人と私とにて『ワイヤーロップ』を以て釣り上げ非常の努力を用して取付けたる者たるを以て或は異常はありはせないかと心を痛め居りしも何の損害も異常もなかりしを喜びし次第である。

チ、銅板製蛇腹及『シイールド』五階『ドーム』の外部に人造石塗を成したる鐵骨組にて銅板を打出して張りたる蛇復及シイールドは皆熱の爲めに溶解し落ちて無殘の形を殘したることに就ては大に將來考ゆべきことなり。

帝國ホテル

＝是れも震災火災を受けざる建築物と云ふの と兼て話に聞き居りたる變た建築物なること故一度見物したき望みありし爲め覗くことにせり。

東京に行かれし人及繪端書等にて見られる通り日本人の建てそうにない施行と仕上を成し居る實に面白き建築物である。地震に對して所々龜裂を生じ居るも是は驚く程でもなく又修繕も易く出來

るので地震の被害は殆どなしと見て差支なし。
一構造は鐵筋コンクリート大谷石及タイル張付三階建　天井低き色彩落付きたる仕上なり、然し構造的飾的方は或る部はアンコンストラクチーブであるので不安な感じがする。
一電燈器具は前述の如く天井低き爲め天井の中より覗かせ『デコラチーブ』の破損止め金物で一層面白く現れたる手方なる爲め大に地震に對しては安全のみならず天井低き箇所に取付くるには又大に參考となれり。
一要するに此の建物は吾々は批評する資格は有せざれども無理に云はしむれば建築のモデルの置物の如き感じがせり

震災火災を受けたる各省假建築

一大藏省、議院、建築局へ友人を訪問し震災見舞の挨拶後友人臨時擔當の震災火災を蒙れる各六省の假建築の平面圖を拜見すると同時に色々と同氏の說明を聞き其の誇大さを感ぜり
一場所は永樂町の燒跡にて六省共一箇所に集まる設にて約一省三千五百坪を限度として十箇年有效の木造平屋△、下見張バラック式假大建築なり。
要所々々に防火用見張の高塔を造り防火裝置を完全設備せられたり。
右平面圖に對しては各省よりの色々注文を持込み絲ぐ工事に對し纏り付かざる爲め大に閉口せるも最早絶對拒絶せりと呵々大笑して建築屋話を成し別れたり
右は震災火災副產物として附記せり。

佐友麻布別邸視察

＝麻布別邸も工事に關係したる爲め大に興味を以て同邸に伺ひたり、
イ、通用門の扉が締りが悪くなり居ること同塀に龜裂を生じ居ること。
ロ、中庭塀に龜裂特に曲り角の部分に大龜裂を生じ居ること。
ハ、洋館外部煙突取付箇所に龜裂が出來居ること。
ニ、日本家の方の瓦が一部落下せること

ホ、土藏の地盤沈下せる爲め本屋と取付箇所に大龜裂及同締付柱に破損を生じ居ること。

ヘ、日本家内部階段室壁に龜裂を生じ居ること。

ト、御居間床に龜裂生じ居ること。

右の樣な次第にて一々之れに對して說明を要せずとも技師長初め先發技師諸氏の說明もありしことゝ思ひ又普通技術者は直に分明することなれども私の氣付の分丈を申述ぶることにせり

右說明並に意見

(イ)通用の扉が開きありし時地震の爲め門柱へ異常が起り扉の開きし方へ傾き(約一寸)し故戸締が非常に惡しくなりたるなり(然し反對に是れが支へとなりて倒れを防ぐ事もあり)右の次第から門扉の爲めには早く締め相當の處置を成し置く事である。

(ロ)中庭塀はセメントブルックを積重ねたる者にて丁度曲り角の所が地震の震動の方向に依り一方へ突當てる爲め大低の角は龜裂を生ずるが當り前である。

夫れ故此の場合を避けるには甚だ構造上には面白からざるも隅に折り曲に適したる柱形を作り其柱に芋目地に兩角面に打付けたる塀を造れば一方より押し來れば其の柱に突當り折れ曲りの所には異常を起さないことになる其の柱形の構造の如何に依りては喰止めることを得其の喰ひ止める力以上の震動が來れば其の柱の部丈に異常を來たすのみにて其他は及ばずに濟と思われる。

(ハ)洋館に取付けの煙突の取付に龜裂が生れた事は斯の如き大地震には不得已ことで幸ひ煙突が折れざりしは構造の立派でありしを證する譯で幸である、地盤地形が惡しければ地震が搖らずとも龜裂を生ずること往々あり兎に角木造と煉瓦造との構造が異なる如く地震の振動も差違を生ずる爲龜裂が生る次第である

(ニ)事務員矢野氏の談に依れば庭園より屋根を當時見つゝありしに非常の振れ方にて最早倒れるかと思はれる程なりし由其の折り瓦が落下せりと如何に振動の激しかりしかを想像せらる

附近の借家及住宅の屋根は殆ど瓦が振落され居るに御別邸丈が其の一部で止まりしは蓋方の注意と瓦の良しきに依ることは申す迄もなきことである。

(ホ)總て本館に取付きたる土藏離れ座敷、廊下別館別座敷等前例及後例にも度々出ることなれども斯の如く鍵形になる家は別々に震動を受ける爲め特に木造家屋に於ては柱に枘及『ボールト』を以て取付あるを以て其の箇所に必ず異常起し柱は曲り或は折れ壁は落ち取付際の屋根は引離れ大に損害を受け居れり、特に取付家屋の地盤に異常が起れば尚更のことである。

丁度御別邸の土藏の西側の地盤が少し陷落せし爲め土藏は取附箇所と反對の方向に傾斜せし爲め取付際の屋根口開き丈夫に取付柱に『ボルート』を以て取付ある爲め引張れ柱は桁より取離し壁は落ち大なる損害を受け居れり夫れは丈夫に取付けあればある程破損も甚だしき樣なり。

右の樣な次第なる故必ず取附及接續家屋は別々の柱を並列せしめて建てる必要があると思ふ故に兼用の柱は大に注意すべきことゝ思ふなり、然し如何にも外觀は柱を現す日本家に於ては面白からざるも木造洋館其の他の洋館の塗被せるものなれば少しも差支なし。

(へ)日本家の壁に龜裂を生ぜる箇所は大低定て居る其の通り御別邸のも出來て居るのである壁貫の箇所、片蓋柱の箇所と階段室である日本壁は貫を以て堅めてあるので殆ど筋違なるものなき爲め横振には一寸は支へることを得れども此の度の如き震動には大低の家は貫の通り箇所には必ず龜裂を生じ或は貫が折れて居る者もある位ひだから當然別邸の壁にも龜裂を生じたと思ふ

斯くの如くの狀態なる爲め私は日本流の眞壁で徑二分より三分內外の針金を以て筋違に締付け置けば大に其の害を防ぐ事を得ると思ふ日本室には能く體裁の爲め柱が三尺間に出る所とか床の正面とかに構造上現れることがあ

る斯る時には必ず其の體裁を保つ室の面の柱を削り落して一面の壁とすること何れの家にもあることである、是れが大に地震に對しては禁物である、是れが爲め殆ど大事なる壁面に大龜裂を生ずる譯である、御別邸の如きも御居間の床の方の龜裂は其の爲めである、夫れが爲め不得已所は右の體裁を無視して柱を現して置くべきであると思ふ。

屈折階段の如き踊場を有する場合は力の關係上突き出す爲めか大に壁に龜裂を生じ居れり御別邸の階段室も此の理由で龜裂を生じ居れりと思ふ

特に能く平面の都合で階段室丈を突出せしめて作る場合往々見受ける斯の如きこと間取の時に大に愼むべきことである。

右の樣な例は此度大に見受けたる次第で、是れが從來の木造日本建築の大缺點である事で大に改良すべき點であると思ふ。

落合の友人の改良住宅

同日夕方より落合なる親友（大藏省技師同氏設計）某を見舞かたがた見學すべく不便なる電車を利用して六時半頃到着して挨拶の後同家の設計其の外被害の程度を聞き又視察もした。

一同住宅は大正十年に出來上りし米松一式の坪、百貳拾圓で出來上りし甚だ失禮だが御粗末な家である柱も三寸二分角で外部は胴上は構造的裝飾材を現し胴以下は下見張りを成し『モルタル』仕上の英國風の『コッテージ』である室内は應接室と食堂が洋室に成り他は日本室である。

此の方面は山の手方面であつた爲め被害も少かつたのである、然し前申した通り大谷石、石垣は崩れ日本瓦は落下し壁は龜裂を生じて居るに此の家は瓦は其の儘一つの破損落下もなく外部は前の樣な一部モルタル下は下見張りなる爲めか外部の壁には龜裂は見へず只内部に前述の通り貫の箇所片蓋柱の所の日本壁に龜裂を生じ居る位で大に本人滿足して居り又私も不思議の樣であつた。

一勿論震動の少きは非常に幸せしも六分板の下見が羽重に成つて居るのが大に力になつた樣に思はれるのである。

又瓦の落下せざりしは佛蘭西式赤瓦の引掛付であつたからであることを云つて居つた。

此の點から云つても日本流瓦の粗末なる事方を廢して穴を穿ちたるもので釘付となすか引掛付桟瓦にするか前の佛蘭西式瓦を用ゆれば此の難を避ける事を得ると思ふ（日本瓦の釘穴なき時は瓦葺は金槌の尖端にて自由に穴を開ける事を得）

能く謂はれて居る通り瓦の落下の爲め非常に怪我を成したる事を聞て居るから大に注意すべきことである。

十　日――本日は一行と芝園橋に午前九時に待合せて日本電氣芝原の工場崩潰を見學すべく事務所に行き本社大屋課長より日本電氣會社の松本課長殿への紹介狀を受けましたので許可を得るべく同氏に御伺せし所未だ出勤なき故應接室にて一時間半以上も待受けしも出勤なき爲め時間を急ぐ吾々は不得已辭し勝手に裏の方へ廻り取片付中の同工場を視察して其の一班を知る事を得たり、餘り恐ろしく崩潰して居るので二三寫眞を取りて川崎方面へ急げり。

日本電氣工場は（カーンバーを使用）一見柱が餘り小さく窓の部が大で壁の部が小く且つ鐵筋を節約してあるスパンが大なる樣に見受けられるので斯る事になつたのではないかと想像せらる、然し之は私の想像で設計者は充分と見て施行したる事程實に氣の毒の感がせらる、米國あたりの工場建築圖や寫眞には同じ樣な設計を見受けるのである

兎に角地震がなければ立派な工場で明るくて氣持宜しき工場であつたろうに地震があつた爲め實に氣の毒特に死傷者の爲め一滴の涙を拭はざるを得ないのである。

川崎方面

夫れより田町より汽車に乘り川崎驛に下車丁度十二時を三十分も過ぎて居るので晝食を取るべく且つ有名な川崎大師に參詣すべく同方面に急ぎし然るに其の方面に行けば行く程地震の被害甚だしく殆ど滿足なる人家なし、特に廣大なる木造某紡績工場の全潰を見川崎驛大師前の立派な旅館料理屋等一軒として倒潰せざるなく殆ど全部全滅なり

晝食どころか茶一杯飲む所なく又飲むべく氣の毒であつた、夫が爲めか空腹も何時の間にか感じなくなり、其の被害の特に注意すべき者二三を寫眞にし大師に參詣を濟して中門外のバラック式の茶店が幸にも被害なく開き居る所に親子丼で腹を作りて東京電氣工場に引返せり。

一二階にして一階は殆ど完全に建ち居るも二階が半潰せる者より（寫眞にあり）

一右は大師境内にある住宅であるが只今迄木造の被害ある建築物を見るに必ず階下が潰れて二階が乘り掛り居る者多く、現に同社内にも二階胴差を土臺として二階間に住居して居る被害家屋は澤山である。

然るに右の住宅は立派な檜木柱で然も五寸角の（大低此の建家は檜木柱を使用し五寸角柱は普通に使用してある）柱を使用したために二階建て丈晴の宜しき方面三方を柱を以て屋根を支たる氣持のよさそうな家である、是れが爲め屋根の重さは一方の壁面と三面は隅柱二本を以て支へたるが故に側振動に依り立派な柱を持ちながら二階胴差の台より折れ此の不幸に遭遇せし事實に氣の毒なる次第である。

一右の理由からして家でも建てられる人は出來る丈壁の部を多くして無理せない樣願度き事である人に依りては無理に開かせ又は構造上不得已壁にして置く事あれば此の設計者は景色を無視し又は趣味を持たない設計者だと惡口を云ふ人がある事は往々である。

斯かる無理なる注文設計依頼者に大に構造を說明して或る程度迄は會得せしむべき事である。

又設計者も大に注意して構造に差支へなき丈の事を成し各面に丈夫なる壁面造るべき事は必要である（勿論出來る丈筋違ひに設ける事である）

境内鐘樓も中門も軒下柱と桝組の台より折れ不幸にも寫眞に示す如き慘狀を呈し居れり、勿論鐘樓は石垣が一方崩れたる爲でもあるが殆ど四本の裸柱に依り甚だ重き瓦屋根を支へ居る爲め石垣の破損と共に此の不幸の運命を來たしたのである（寫眞參照）

一此の所一帶前にも述べた通り殆ど倒潰せざる建

築物は無きに大師御堂と同山門の二棟は立派に存在して居る事である内御堂は見るからに『スツーブル』な屋根勾配が急で下の方へ降り廣がり柱が他の御堂に比すれば短き様に見受けらるゝと同時に一階床が高く廻廊が其の下に廻り居る爲めに柱の途中を搦み付けたる形になつて居るので安全であつたのであると思ふ。

然し附近の人々は御大師様の御利益の然らしむると云ふて有難がつて居る次第である。

尚山門に就ては甚だ不思議で東西の棟で奥行は南北で即ち桁行が長く梁間が短き成の高き見るからに不安定の様に思はれ丁度地震の波を受けるに都合の宜き建築物であるが是れも立派に存在して居る事が如何にも御大師の御利益が盛なりしを察せられるのである。

他の倒れたる建築物に比し特に其の附近に紀念碑が下臺石に大入れに入れあるにも關はらず臺石は何事もなく竿石丈が倒れたる事から思へば（佐野君實測及寫眞撮影同君研究物）當然此山門は倒れざるを得ない建物の様に思はれるのである。

勿論構造上は充分に且つ柱は大で東西に接續する丈夫な塀も大に助けになりし事と思はれるも是れは只最負目に見た申し譯である要するに立派なる構造を有した山門でありしと云ふより外に申様ないのである

然るに此の町の人の話に依れば此の山門の仁王様二人が大力を出して守護せられたからであると大に敬意を表して話して聞かせたので如何なる理由で左様に申すのかと尋ねしに夫れは仁王様を御覽なさい、向て右の方は前に左の方は後に倒れかゝつて倒れずに大に力むで居られる爲であると成程拜見して左様に感ぜられるので夫れは實に有難い御利益であると仁王様を拜して別れんとせしに尚ほ言葉を續けて云ふには此の川崎町は御存じの通り約一千戸位の戸數があり、特に料理業が重で一戸として滿足に生て居家はなく全く崩潰せる有様なるに火氣は其の當時充分ありしに反し一つの火災は起らず厭死者も少く僅々八名に過ぎぬのであると是れ全く御大師の御利益であるとしみ〴〵話して聞せられたので是れは全くだと大に御神信をせよと申して自分も大師を拜して例の東京電氣會社工場に急ぎたり。（つゞく）

漫錄

鳳凰堂の晩秋

大阪市立工業學校建築科　澁谷五郎



うら〳〵と、暖かげにも晩秋の日は昇りて、淡黄の稲田に照れど、川霧なほもたへだへにして、平等院の優さしき姿を半ばは包み、中島に立てる十三塔は晝の如くおぼろなり。濕めり含める朝日山の、松の梢にたゞよふは香の煙か、興正寺の禪堂に晨の勤行の聲朗々たり、實にも古人、此の中流を汲んで茗を煮たるは、茗の味よりも禪味を樂ㇲん爲なりけん。琴阪のもと、興正寺の山門に立ちて、彼の西岸上に、繊しきあこがれの主なる鳳凰堂を望みつ寂定の氣に包まれながら、容易に彼の岸に渡らんこともせざるは、遇ひたき人に遇はんとして今したゝめらひながら、わざとらしく落ち付き拂へるにも

似たるか。

古りにし歴史をかゞなうれば、平等院の地は長徳年中(約九百二十年前)藤原道長此所に山荘を營み、法華三昧を修したりしを佛緣の創めときけり。頼通に至り之れを捨てゝ寺となし平等院と號し、天喜元年三月更に阿彌陀堂(鳳凰堂)を建立したりと言へば、こゝに八百六十九星霜、幾度かの兵燹に、よくも灰燼をまぬがれて、祐かに泰らけき左右『シンメトリー』の形をくづさず、我日本建築史を嚴りて、此の後更に幾春秋、趣味ある幾多の人々をして讃美をつゞけしむるか。

吾等嬉しくも此の珍らしき殿堂の、必滅に歸せざる時に生れ、緣あればこそ度々に、杖を引きては其度に、飽かぬ思をくりかへし得ることのたふとさよ。渡し舟の掉さす人の呼ぶ聲に、我にかへりて彼岸に渡りぬ、堤に置かれし露臺に腰をおろし、しばし靜かに彼れが姿を打ち見れば、ゆるやかに反れたる軒の曲線は、何よりもまづ我が胸にひびきて、たゞぞく〳〵と嬉しさのみまさる。中央主殿と左右翼樓、これをつなげる廊屋との調和長短高低の妙なる、さながら天樂の妙音に似て恍惚たり。前なる池を阿字池と云ふ、梵字の阿字の形をとりしものか、佛說阿彌陀經によれば、極樂國土の莊嚴は、七寶宮殿、廊廓と共に、八功德水滿ち滿てる池中に存べりとかや、此所に圍らすに阿字池を以てし蓮を生じたるは其意なるべし。其の昔、水もさこそ清く澄めりしならんも、濁惡の世とうつろひ來し、末法濁世に及びては、水も自づと汚れ來て、今は中々八功德水には似もやらず。

中堂桁行三十四尺、梁間二十六尺一寸、圍らすに裳階を以てし其大きさ桁行四十七尺、梁間三十九尺一寸なり。左右翼廊梁間十三尺、桁行折廻り六十三尺四寸八分、之れに高さ三十六尺四寸方十尺三寸の翼樓を組み、後ろに梁間十四尺、桁行六十五尺の尾廊を引けり。中央主殿に重層にして入母屋造、巍然として立てる姿靜かなり　上蓋の軒は深く大膽に架り、下蓋の軒は堅實なる手法によりてよく整へり、世の常ならば上大下小は重くるしく、押しつぶされた氣持して不安定を感せしむべき筈なるに、此れは少しの不調和もなく上は大

に下をかばい、下は堅實に上に仕へる有樣、まことに敬上慈下の形にして君臣父子の趣きあり。下蓋正面入口は單調を破りて庇を上げ向拜にもあらずして向拜の如く、工匠の苦心、わざとらしからぬ内にゆかし味あり。左右翼廊と主殿とは切れて建てられながら、これまた何等の矛盾を感せず、さも一つ續きに主殿より延びたる如き印象を、誰人の頭にも殘すは不思議、めぐらすに勾欄を以つて諧調を保ち、廊屋上に組まれたる左右翼樓の屋蓋は寶形造、結ふに露盤を以てし寶珠を冠して整然たり。廊の前端は切妻造、之れを飾るに千鳥破風、其の『カーブ』の非凡なる、唯だ驚くばかりなり。翼樓と中央主殿の、大小高低相呼應せる、恰も彌陀三尊の形を現じ、彌陀を中にし、左右に觀音勢至あるが如し、尾廊單層にして勾欄を用ひず長く後に引けり、蓋し鳳凰の翔べるに似たりとは無理からぬ見方ながら、此平面の計畫は、當時盛なりし住宅、寢殿造の形式を根據として實用を超越し、姿に重きを置きし『デザイン』なりしに他ならずとするが穩當なるべし。

彼の飛鳥、白鳳、天平、弘仁の各時代に於ける佛敎は、華、天、三密、一乘の極理を說ける哲學的乃至神祕的なる聖道門なりしも、藤原時代に入りて恵心僧都源信出で、天臺の法門より茲に平明安樂、廣大慈悲を高唱せる淨土門を開きて、凡夫直入、煩惱即菩提の敎相を基調とせしより、淨土三部の妙典とする大經、觀經、阿彌陀經の思想が早くも上流識者の間に味はれ、差別の見を離れて平等に歸すべしとなし、遂に彼の賴通をして山莊を捨てゝ寺となさしめしを見れば、寺院としての此の平面に、住宅としての寢殿造を加味し以て敎義の『デモクラシー』を暗示したるや疑ふべからざる所なり。

源信和尙、未だ鳳凰堂の建立せられざりし生前に、度々此處に法を說き、集まり來れる道俗朝野の人々に共に、西方安樂世界の莊嚴と、大悲彌陀の弘誓を讃仰したりと云へば、賴通は僧都が唱導せる淨土の觀念を基調として、此の御堂の經營を思ひ立ちたるなるべし。以來九百の星霜を閱する內に、形あるもの必ず破るゝ理にもれず、今に至

るまで約十三回の大修繕を經たれば、昔ながらの寂はなけれど、つとめて創めの手法を用ひて古形と色調を損ねざるを期したれば、斯くも美しき姿して、杖引く雅人を歌はしむ。嗚呼其の昔、北は横島村と界とし北櫻門を宇治橋西畔に建て、南は淨土院の南方に延び、西は宇治全部を包みて西大門を今の停車場に設け、東は川を境として朝日山に面し、堂塔伽藍建てつらなりたる頃を懐ふにつけても世の變ろひのはげしさを偲ばしめて涙なり轉た往古をしのびつゝ行くとはなしに僧坊を叩きぬ、問ふて鳳凰堂の開扉を乞へば、やがて案内の若僧、衣の袖をかきあわせながら、鍵を片手に御堂の方へと導きぬ。仰ひで軒の組物を見れば丹土柔かに塗られし斗組、桝組、尾椎木、肘木・長押、支輪の何れにも精巧の氣宇輪奐として整ひ、木割の機微なる、彼の飛鳥、天平の豪放とは一段の趣を異にして、宛ら藤原盛期の文化を語れり。

扉のいつか開かれたるも知らで若僧に促されぬと見れば面正須彌壇上に坐し給へる、丈六彌陀の尊像は、金色の光をはなちて吾を俯瞰し給へり、踞して合掌し、念を西方淨土にかけて恭敬禮拜、靜かに佛の名號を唱ふれば、口より無數の光を出して欣笑を垂れ玉ふが如し。

嬉しきかなや、我れ末法濁世に生を嗇けたれば何れの聖行も及びがたなき凡小の身なれど、大悲ものうき事なくて、かゝる底下の愚鈍を憐れみ、無上寶珠の名號を與へ、光明智相をはなちて无明の黑暗を破し、やがては无生の生を得させ給ひて觀音勢至の聖衆と共に、並んで妙法の宣說を聽く事を得んとは!!!

しばしぬかづき讃仰すれば我を忘れて恍惚たり。

往昔行基、空海などの信仰に生きたる聖者が、一刀三禮默禱と共に刻みし尊像の如く玄妙神祕の凄美を欠けど、さすがは一代の名工定朝が必生の努力をつくしたる刀の痕に寂光を止め閻浮檀金色をはなちて三十二相八十隨形好を具せり、光脊の中には化佛を配し、化佛各々こと〳〵く念佛の衆生を攝取するに似たり。本尊の直上に架かれる長方形の天蓋、其の下に釣られし圓き佛大蓋など、色あせざりし其の昔は、まことの天の妙華を取り

て現れるかと疑はしめけん。さながら木質の彫刻とは思はれず。欄間の小壁に飛べる五十二菩薩小像も亦定朝の作　三界六道廿五有界の迷の有情を出離して眞如法性の悟りに至る、五十二段の修行を暗示し、自力聖道の難を示して念佛成佛他力淨土の易行に歸すべきを敎へたり。

此等の彫刻と相俟つて四壁には釋迦八相成道の姿、正面及左右の扉には三品九生の說相をあらはしたるは繪所の長者宅麿爲成の丹精なり。之れに觀經九品の經文を書けるは、當時の能書左大臣源俊房とかや。柱、方立、貫、長押、格椽、格間、支輪間、斗組、こと〴〵く寶相花を主として蓮花花菱、迦陵、頻伽、圓點、繧繝、直線を交へて整然たる圖案の手法、まことに近代の斯界を驚かしぬ。壁畫はすべて乾式『ブレスコ』（濕式ブレスコ）は伊太利等に行はれしも我國にはなし）乾ける漆喰壁の上に膠を入れたる繪具にて畫けるなり板畫は下地に漆を塗りて之れに胡粉の彩畫をなせると、下地に白堊を塗りて乾ける上に彩畫せるとの二樣あり、前者は甚だしく剝けたれど後者は方立、長押、天井、扉にやゝ形をのこせり。

須彌壇はもと塵梨地（現今普通の梨地は一寸角に約七千粒の金粉あれどこれは粉粒粗大にして二百乃至千二百粒以內なり）の間に螺鈿をちりばめたりしも、今は殆んど脫け落ちて、あたかも虫喰いたる朽木の如く見るかげもなし。

明治初年廢佛遺釋の聲盛なりし頃、村の子守の遊び場として、または行きかふ旅人の思ふがまゝに何處の住人何の何兵衛などと落書して行けるあと明かに殘り、印度より傳來せりと言はるゝ螺鈿（夜光貝）も子供等が『ハジキ』石ともなり、或は利にさとき歐米人に拾はれたるものか　手のとゞかざる所にこそ幸に殘されたれど其の他はことごとく虫穴の如くに虛のあとを留むるのみ。寺傳によれば此の寶貝の外に瑠璃、玻璃、瑪瑙等の寶珠寶玉、燦然たりしと言へど今は殆んど見る事難し

噫さるにても、移ふものは娑婆の常かも、

光顏巍々として旭日朝日山に上がる頃、百僧の勤行いかめしき內に、上品三生を畫ける正面の扉靜かにひらかれ、ねぐらを出でゝさへづる鳥は迦

陵、頻伽の聲に似て、丈六彌陀の金色は四壁に畫ける八相成道の畫の群青(ぐんじょう)にはへて、隅なくちりばめたる珠玉、螺鈿に異光を照らし、たゆ〳〵と立ちのぼる燒香の五十二菩薩をかすめてたなびけば八功德水湛然(たんねん)たる阿字の池に、倒の影あらはれて思はず渇仰の首(こうべ)をうなだれ、寂光淨土を目のあたり拜する心地せしめて詩歌管絃につかれたる藤氏一門のみならず道俗共に、厭穢欣淨(おんえごんじょう)の緣を結びしもことはりなり。

星は流れて歲うつり茲に佛法龍宮に去せんとするの濁世には、獨留此經(どくるしきょう)とのたまへる釋迦の遺經の三部妙典によりてこそ。はじめて此の御堂の昔の莊嚴光明を偲ぶを得べし。

まことに稀世の名匠定朝の彫刻と爲成の繪とを包むに、誰が繩墨に成れるかや『プラン』にも『エレベーション』にも全く我國民性をあらはしたる此の遺構こそ我等建築家を以て立つ者の深く味ふべき藝術品にあらずや。

冴ゆる灯のしゞまに一顆刻しけり

大阪府の誇り「釘無堂」

池田谷久吉

一

釘無堂は大阪府下に現存せる數多の寺社建築の中で最古のものであり、またその様式の特色あると共に天平期の彫刻を蒐めた點に於て府下唯一の藝術の菁華ともいふべき古刹である。

然し交通の利便が悪いために一般世人に知られてゐないのは惜しむべきことである。

私は且て數回杖を曳いた事があるが、こ感陰れたる古建築と佛像とから受けた一つの感覺は時々幻影となつて思ひ浮んで來るので十一月の末、日曜日のお晝前、機動演習で初冬の野は時ならぬ戰の眞最中、また〳〵足を運ばせたのである。

南海線の難波驛から約五十分、貝塚驛で下車して北の一番踏切を渡ると黒い幌箱の付いたガタ馬車がこんまき屋の笛の様なものを吹き鳴らして客を待つてゐた。こんな情調は一寸味はひ得ないのんびりとした田舍特有の氣分である。

客が定員に充つると走りかけた、道が悪いのでガタ〳〵してとてもたまらなく搖れる、時々ゴツゴツと頭と頭、頭とガラス窓とが突き當りそうな事はたくさんある。尚其の上に締め切つた幌の中に陽の光はなまぬるく照りつけて來る。まあ走るといふよりは足を勞させないで行くといふ程度のもので却つて疲れることは夥しい。

あとから自轉車などがやつて來てはすぐに通り越して間もなく見えなくなつて終ふ。

五つ六つの田舍の村を越して約一時間も掛つた頃、漸くに水間寺に着いた。馬車は木積迄行くのだが、もうこゝで乘り捨てゝ水間寺へお參りする

ことにした。寺の周圍は溪流に圍まれてゐて橋を渡ると廣大な境内の中央に大きなどつしりとした本堂があつて三重塔や經藏、庫裏等が型の如く立ち列んで立派な伽藍である。

この寺の背後の山にはお夏清十郎の墓もあつて時々遠客、粹人が足を留めるそうである。清十郎の生地はこの村だとか聞いた事はある。そんな關係でこゝにも比翼塚が出來たのだらう。

もとへ引き返したがガタ〳〵の馬車に乘るよりは寧ろ歩く方がよかろうと思つたので歩きかけた馬車の駐るところには田舍らしい料理屋があつてどこの田舍にも有り勝な眞白に化粧した女が頻りに『まあお入り』などとお世辭を振り舞つて居たが『緣なき衆生』はそのまゝ通り越した。

初冬の小春日のうらゝかに刈り取られた稻田には冷やりとした風が吹いてゐて向ふの密柑山は黃金の鈴なりを以つて彩つてゐた。もう自然と氣持がしつくりと落付いてくるのを覺えて來た。

水間から二三丁も行つたところから立石に示されて街道から左折して少し高見のところへ行くと田甫の中から遙かに三四丁も向ふの竹籔を背景にして、そこに莊重な美しいカーヴを持つた屋根がプロポーションよき姿態の建築の外觀とがかすかに見える。私はもう此寺へは幾度も來た事があるが何時・來て見ても實に氣持がよい。



泉州木積釘無堂（其一）

二

凡てものゝ形にはその配景といふものゝ影響によつてその美醜の價値批判の程度を大いに支配するものだとは何時も、この寺へ來る時に思ふ一つの事であつた。小さい村を一

つ廻つてから一丁餘も行くといよ〳〵本堂の横へ出る、現在は本堂だけたつた一つで孝恩寺の本堂や庫裏がこれと道を距てゝゐて今はこの寺が觀音堂を管理してゐる。

寺僧に案内を乞ふと早速いつもの古びた土藏に使ふ樣な鍵を持つて來て裏手の出入口の戸の鍵穴に入れてカチヤンと開けて呉れた。私は古寺巡禮にどこへ行つてもこの音のするとき、邊りの靜寂を破つて千古の藝術に接する一つのバブテスマを受けさせられた樣な嚴肅な心持になつて緊張味を覺ゆるのであつた。またこれが一番好きな床しい音なのである。親切な住職の老僧は正面の扉を開け放しておいて『どうぞ御ゆつくりと』いつたきりで元の庫裏へ立ち歸つて終つた。平素は締め切りだから香くさい樣なびくさい樣な或る特別の匂ひがぷんと鼻をついて來る。

泉州木積釘無堂（其二）



此の釘無堂の沿革は寺僧によると四十五代聖武天皇の御宇（紀元一三八六丙寅）行基は勅命を受けて近畿に天竺祇園精舍に倣ひて四十九院の伽藍を造營に際し、此地木島の杣山より料材を伐採し之を積み置いてゐたので木積と呼んでゐた。即ち神龜三年の春この地に七堂伽藍二十一堂宇僧房を建立したものである。

その後足利時代に至りてかの山名大内の兵亂に佛堂六宇、僧房二十餘一、烏有に歸すといふ記錄が殘つてゐる。また其後、天正十三年豊臣秀吉紀伊根來攻めの時にも兵燹にかゝつて僅に觀音堂のみ無事に殘つた。

現在の觀音堂の創立時代に就ては何等の記錄も

確證もないが建築の樣式、手法等から考へて鎌倉時代のものには相違ないものと考へられる。前年關野博士の鑑定も鎌倉朝のものと云はれてゐる。

また屋蓋に用ひてゐた牟瓦の銘には大永七年三月廿六日とあるところからその時代に修理したことは想像し得るに充分である。最近大修繕をやつたので見違へるほど美しくなつてゐる。

三

堂宇は南面し竹籔を挾んで川に沿ひ平面、五間四面で正面の中央三間、背面の中央一間とが開扉となつて居て唐戸を用ひ他は皆壁になつてゐる（背面西の端の一間の半分を引き戸にして居るがこれは後世變更したものらしい）勿論この壁には標子窓を附け、内部は背後に近く三間二面の内陣が設けられ内陣正面三間には格子戸を嵌め、上部には菱組欄間を設け墓股を置き背面總壁にて兩側は一間は壁、一間は開け放たれ背部に接して壇を作り、本尊觀音を初め脇侍等を安置してゐる。

堂は全體、稍高き段組石壇上に立ちて軒の詳細を見るに桂は圓柱にて粽を附け、荒つくりの礎石の上に立ちて柱の上部には船底肱木を用ひ組物は和樣出三つ斗の簡單なものにて肱木の下、繰形は丸圓形を作り正面柱間には格好よき白由にして雄健なる寫實的の板墓股を置き、菊花、梵字等を透彫にしたものを用ひ側面及後面には斗束を配してゐる。其他頭貫には唐樣の鼻飾等ありて宋より輸入した構造的並に新意匠の特長を充分に發揮せる點など見るべきものがある。

屋根は四注造、單層本瓦葺にて軒先巴瓦と唐草を用ひ瓦は行基葺亦はシコロ葺と稱ふる極めて類例の少さいものである。

軒は二軒、椎に角物を木間返しとして天井外陣周圍一間通は化粧裏にて大虹梁を架けて桷肱木にて受け、内陣は鏡天井にて天竺樣の手法を明かに表はし周圍は切目椽を取繞らし内部床、板張にて床高壇上二尺位もある。

要するに此建築は和、唐、天竺の三樣式を巧妙に結合した點に於て當代の代表的たる事を失はないと共に此堂内に安置せる佛像こそは實に天平期のも

四

のゝみにても十五體を數へ、その丈七尺餘もある立像にて宛然博物館を見る樣な心持がする。

此佛像は觀音堂とは最初は無關係のものであつたが、山名、大內の兵亂に際して佛堂は敢なくも烏有に歸したが佛像のみは寺域にあつた池中に投じて辛うじて災厄を免れたのを後日泥中より掘出して此堂に安置したものである。

十五體の內釋迦、彌の兩像は座像で　地藏、虛空藏、文珠、普賢、十一面觀音、聖觀音、藥師に帝釋、多聞、辨財天、阪難院、難院龍王は各々立像である。

殊に著色の天部の板繪があつて、その裏には神龜三年行基作といふ銘があつて著色の富麗、曲線の巧妙なる人間味の理想化せるものといふも過言ではない。各佛像は當時は彩色してゐたものらしいが何分に池中に埋れてゐたので衣紋の襞などには今に泥氣が附着してゐる位だから只うすぼんやりとして充分に其の色調を窺ふ事は出來ないが定めし雄麗にして美しかつたものと想像する事が出來る。

光背と臺座とは其後の作品たる事は一見して判るもので餘り大したものでない——。

五

ずらりと一列に並んだ此等の佛像を見てゐるといつしか行基といふ潔僧はたしかに天平期に於ける偉大な人物の一人であることをつく〴〵思はせる。彼は到る處に佛敎弘通の爲めに一生を捧げたのみならず、大いに土工を起し、日本國中殆んど足跡印せざるなき迄に漫歷して科學と哲學と宗敎と敎育と藝術の苗を植えつけて結實させてゐる。

この和泉の山奥に、然かも現在でも便利の悪い僻地に千有餘年以前に建築に彫刻に斯の如き立派なものを創造してゐた事は何といふ大した事業だらう。尤も彼の事業としては他に高野を始め種々のものが數多あるが殆んど世人に認められない寒村に於ける此遺物には全く敬服の外はない。

暮れやすい陽はもうよほど西の空、水間の山に落ち懸つてゐて堂の中も淡くらくなつて來たので寺を辭した。

もと來た道を引き返して暫くの內に今迄とは丸つきり違つた餘りに變り方の甚い、ざわ〳〵した貝塚の驛へ着いたのはもう、とつぷりと陽は暮れて十日過ぎの淡い月かげは鋭く大空に淋しく物凄く輝いてゐた。

美を建てるもの

水町與志雄

美は、決して單に表皮の深さではない。美は立躰であり、奥行を有ち、躰積を有つ。美は盛りあげられたる深い内容であつて、單に飾られたる薄い平面ではない。美は表面に浮動する影の如うなものではなくて、黄金より重い密度を有つたあるものである。一見派手やかに意味づけられた表皮が、美の本質と合致するものではあらぬ、外線の複雑さや色彩の混淆のみが、美を組成しないと同様である。美は皮膚ではなく血である、肉體ではなく心靈である。美は動く、美は歩く、從つて、美は絶えず生長しつゞける。美を押し込め得る檻はない。美は美そのものとして獨立する。美は他の一切と卑しく妥協しない、美はあくまで敬虔、謙遜で、あくまで暴慢、自尊する、だが、美は常に明るく快活で、うちに一切の暗らい狡猾と不純とを有たぬ。美は常に優しく微笑する、闇と地獄とは、美の本質には縁遠いものである。美は美が本來あるべき位置に、あるべき如うに素直に立ちあるべき氛圍氣をつくり、環境をつくる。美は時に清澄であり、華麗であり、典雅であり、時に壯嚴であり、雄大であり、鈍重である。美は假面を蛆の如うにきらう、美は正々堂々たる姿を有つ、美は亡命客の如うにうなだれず、僞天才の如うにそりかへらない、美は最も正しい道を、最も正しく歩む。美は最も忠實に自己の本分に生き、それを確く守らうとする。美は不死の愛を根底として立つ、永劫の人類の燈明臺である、人は美の燈明をかゝげて、向方に永劫の幻を見る。人の見る永劫の幻とは、永劫に生きる神の相貌の謂である。

全らゆる藝術運動は、畢竟美ゆ燈明をかゝげて永劫の神を見やうとする、一種の心靈の動きである。全らゆる藝術衝動は、愛から出發すると同じ

程度の強さを以つて、美から出發する。言ふところの藝術衝動とは、愛を求めてもがく靈魂の喘ぎである如うに、又美を求めてあえぐ心情の憧れでもある。この衝動は、やがて、この運動の先驅をする。愛の死屍から藝術が生長しないと同樣、美の殘骸からは藝術は芽生えない。自然界をそのまゝ忠實に再現すること、これが直ぐ藝術を呼ばれてはならぬ。周圍の色彩の再現がそのまゝ直ちに繪畫ではなく、周圍の燥音の再現がそのまゝ直ぐ音樂ではならぬ。美を中心に卷いて、その四周を騷がしく圍り歩くこと、かうした騷ぎが藝術運動と言はるべきではない。美の運動は美のプロパガンダの意味ではない。美は騷亂の中には住まず、靜觀のうちに生きる。歪められ掻き廻されたる美は、正しき美ではあらぬ。美の生長のまゝに素直に生長し、美の流動のまゝになごやかに流れてゆくといふこと、これこそが藝術運動と呼ばなければならないものである。言葉を變へれば、美の認識の度合が、藝術運動の波であり流れであると言はるべきものである。全らゆる運動は、おしなべて、しばしば運動としての群衆心理に輕く動かされ勝ちなものであるが、美の運動のみは、決して輕やかに搖り動かされてはならないものである。美の藝術運動には、美の本質上、運動としての失敗もなく成功もない筈のものだからである。

美を建てるものとは、美を生むもの、美を創見するものゝ謂であつて、美を組立てるものゝ意味ではない。組成されたる美は、多分いつかは、再び解躰せらるべき運命を有つ、美はつくるべきものではなく、生むべきものである。或は、美はつくらるべきものではなく、生れるべきものである私達は美をつくり出さうとして空しく喘ぎ、美は自ら生れ出やうとして哀しく惱む。美を建てるとは、表皮を裝飾し蔽ひ隱す謂ではない。如何に賢しく蔽はれたる表皮の裝飾も、美の深い内容とはなり得ない。しばしば、美はものゝ背後に隱れ、内部は睡る。美は見らるべきところにはなくて、見えないところにひそむ。美は卑しく派手な外面の誇示を拒む。美を表皮にのみ求めて、失敗してはならぬ。勿論、豐富に溢れ出たるものゝ美しさ

は言ふまでもないが、現はれたる美はしさのみが美ではあらぬ。隠れたる美しさ、現はれざる美しさ、探り得ざる美しさをも、現はれたる美しさと等しき美としての評價を有たせていゝのである。從つて、物を破り物を引き裂くことが、かへつて美を建てる近い手段とされなければならぬ。私達はしばしば神に近づかうとする。愛こそは神に近づかうための階段である。私達は絶えず永劫を覗かうとする。美こそは永劫を見やうための窓である。美を離れては、私達は哀しい色盲となり果てる。色盲には、永劫を正確に見定めやう視力はあらぬ。

美を建てるとは　從つて、所謂美術的なる繪畫を大急ぎで描きあげることではない。所謂美術的なるものと呼ばるゝものと、本來の美とは、こゝで最も嚴密なる等差をつけてをかなければならぬ所謂美術的なるものは、殆んどの場合、決して、本來の美でもなく、その正しき表現でもあらぬ。顔料や木炭が、少しも美の本質に觸れ得ないと同じく、線や色彩が美と同列の評價を奪ふことは能きぬ。上等高價な顔料が、高貴壯麗な繪畫を生むとは限らぬ。單に錯雜した線や押し並べられた色彩が、直ちに、藝術なる繪畫を組成するものではあらぬ。線や色彩の生命なき羅列は、單に價値なき汚されたる晝布でしかない。顔料や木炭は生命なきと同樣、線や色彩自躰にも求むるところの生命はあらぬ　極言すれば　線や色彩と美とは、些の關係なきものである。ゴッホの向日葵が素晴らしい美を表現し得ても、ゴッホの使用した線と色彩とが、あの美を表現し得なかつたと同樣である線や色彩は美を建てず、ゴッホは美を建てるゝかうした同樣のことは、單に繪畫に就いてのみではなく、音樂、劇、文學、彫刻、建築等、全らゆる藝術に於ても殆んど同樣に言はるべきである。よき樂器やそのよき音が、直ぐ、よき音樂を豫想させはせぬ、選ばれたる美しき大理石が、直ちに、勝れたる彫刻や建築を約束すると言はるべきではない。かうして、美は、遂に、外ではなく、内にある。美を建てるとは　内なるものを外へ轉じ置くことではなく　内なるを内なるまゝには内に生

かしきるの謂である。美に附け足し、美を削り取ることが、美を建てる所以ではあらぬ。美を縛り美を解くことが、美を建てることの謂ではない。美をうるさく巻き圍んで、冷たい象牙の塔のうちに飾り据えることが、美を建てる謂ではない。美を醜く切り刻んで、亂れた外塵の中に投げ出すことが、美を建てる所以でもあらぬ。美を建てることは美を自由の廣野に放つことである。美を建てるものとは、美を愛の花園に培ふものゝ謂である。自由こそ、美の住家、愛こそ、美の母胎である。

美を建てるものとは、故に、愛に住み、美に生き、美を慕ふものゝ謂である。自由に歌ひ、自由に踊り、美を解放するものゝ謂である。美は私達の捕虜ではなく、愛人である。美は永劫から永劫へと、欲するまゝに流れ流れてゆく。美は背後に無限の空間と時間とを肩負つて立つ。美の零圍氣にとび込んで、私達は永劫に圍繞される。私達は美を愛し、永劫に愛される。永劫は美を通して私達は微笑む。美を建つるものとは、愛に乘てられたる色彩畫家のことではなく、巧利に氣を失つた建築家のことでもあらぬ。藝術なる繪畫を愛すると稱して顏料を愛し、藝術なる音樂を愛すると自負して樂器を愛し、藝術なる建築を愛すると誇示して石を愛するものゝ、いかに周圍に過多いことであらう。藝術家ならざるものは、決して、美を建てるものではない。髮を長くしパレットをもち、ゴッホを語りセザンヌを言ふものゝみが、全て畫家ではないと同樣である。美は僞善でもなく、僞惡でもない。美の本然の姿は裸躰である。美は一切を剝脫されゝばされるほど、本來の純きと美しさとを加へる。美はうちへ食ひ入れば食ひ入るだけ、深くなり輝やかしくなる。藝術を理解せずして、美を建てる資格を購ふことは能きぬ。美を創見せずして藝術を語り得ないと同じく、藝術に生活せずして美に愛されることは能きぬ。美の藝術運動は肉躰の運動ではなく心靈の運動ではあるが、美は、決して、夢中の幻覺ではなく、白晝の實躰である。美は激しく灼熱する細い火花のみではなく、太陽の如うに重い炬火である。美はねた

ます、そこなはない。美は感動を強ゐず、周圍に雷同しない。美は戰慄せず、狂奔しない。美は緊張しすぎず、弛怠しすぎない。美の魅力は、決して、ものゝ平面に表現されたる外の魅力ではなく未だ外面に表現され得ないものゝ内の魅力である美は、その本質上、もりあげらるべき容器を有たぬ。美に加へ、美を割くことは能きぬ　極言せばそは所謂美女のやうなものでもなく、醜婦の如うなものでもあらぬ。美は本然の眞そのものである或は、美は本然の愛そのものである。かくて、美は、遂に、本然そのものでさへある。美はつねに美であつて、その姿を變へぬ。閃く電光も、轟く雷鳴も、美の本然そのものではあらぬ。從つて、こゝに言ふ美を建てるものとは、美を飼ふ暴君ではないと同じく、美に媚びる御用商人でもあらぬ美を離れて、美を見、美に愛されることは能きぬ美に與へずして　美より受けることは能きぬ。美を生かさずして、美に生きることは能きぬ、美と倶に生き、美と倶に死ぬものこそ、美を建てるものゝ謂である。言葉を變へれば、正しき本然の生活者こそ、こゝに御言ふところその美を建てるものの謂である。本然は、そのまゝ、美である。

霞みつゝ日は落ちにけり山かげの

花のみ白き春の夕暮

日本建築協會々報

日本建築協會會則

第一條　本會ハ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルヲ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラント希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會ヲ申込ミ履歷書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成ノ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記載ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ寄附金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ履歷及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セサルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會務ヲ總攬シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク：

一　主記　一名

二　計主　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トス得

第十五條　本會ニ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會務ヲ總攬シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク：

一　主記　一名

二　計主　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トス得

第十五條　本會ニ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催スヲ理事會ノ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　會誌ノ發刊

四　建築ニ關スル講演會ノ開催

五　建築ニ關スル展覽會ノ公開

六　建築ニ關スル視察

七　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

八　理想的建築ニ關スル計畫

九　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

十一　但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ヲ半額トス

十二　一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓本會ニ前納スヘシ

但六箇以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會員入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算衝ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

本則ノ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



會報

一、關東震災調査公開講演會の件

本協會は曩迄に報告しました通大阪、名古屋、京都、神戸の四大都市に於て講演會を開き關東震災に付專門的見地より調査したる事項に付講演を致しました今回岡山市、堺市より招聘がありまして左の通講演會を開かれ非常の盛會裡に閉會を告げました

十一月廿五日午後六時三十分岡市深妙尋常高等小學校大講堂に於て開催

災害豫防と關東震災講演會

開會の辭　岡山市助役　伊藤好眞氏
耐震火の建築　理事工學士　國部文雄氏
關東震災の教訓　理事長工學士　池田寶氏
閉會の辭　岡山市社會課長　尾形惣三郎氏
幻燈說明　理事工學士　國部文雄氏

十一月廿六日午後六時堺市大濱公園堺市會堂に於て開催

關東震災と都市計畫講會

開會の辭　堺市長　齋藤研一氏
關東震災の教訓　理事工學士　國部文雄氏
關東震災と都市建築の將來　谷民藏氏
地震と建築
震災調査委員工學士　中村琢治郎氏
震火災と都市計畫　副會頭工學博士　片岡安氏
閉會の辭　理事長工學士　池田寶氏
幻燈說明　小川安一郎氏

右何れの講演會に於ても講演者の優遇を受けましたは本協會の洵に感謝に堪へざる處であります

一、帝都復興並四大都市計促進に關する委員會設置の件

十一月九日開會の臨時例會並通信決議の結果により都計委員會を設置することになり左の諸氏に委員を指名依囑なりました

（委員長）横濱勉、（主査）國部文雄、（主査）池田谷久吉、伊藤正文、石本喜久次、本多二郎、小笠原釗、小川安一郎、置臘章、葛野壯一郎、谷民藏、加藤善吉、中村琢次郎、中澤誠一郎、安井武雄、古塚正治、井尻眞雄宮本長治、日高胖、瀨戸文吾

會合

臨時理事會

△日　時　十一月二十八日午後五時—九時三十分
△會　場　本協會會議室

△出席者　片岡副會頭、池田理事長、岡部理事、設樂理事、宮本長理事、小川會務委員、安井會計委員

△議事

一、住宅改造博覽會役員に對する謝禮に關する件

二、大阪市美術協會に關する件

三、教化委員會設置に關する件

四、會誌表紙圖案審査員選定並審査會開催に關する件

五、名古屋市外各地に於ける講演會經費關する件

六、人事に關する件

七、會會銓衡

會誌表紙圖案審査會

△日　時　十二月三日午後五時―十時

△會　場　本協會會議室

△出席者　片岡安、池田貫、宮本貞治、靜呂長四郎、宗兵蔵、谷民藏、小川安一郎、安井武雄、横濱勉、長谷部鋭吉、伊藤正文、葛野壯一郎各審査員

△記　事　應募圖案總數六拾六點にして之れを陳列し審査を重たること五回にして左の通當選者を選定したり

第一等當選　　櫃藤　要吉氏（東京）

第二等當選　　村上　文郷氏（大阪）

第三等當選　　岩本　眞人氏（大阪）

選　外　　森西龍太郎氏（大阪）

都計委員會

△日　時　十二月五日午後五時―九時

△會　場　本協會會議室

△出席者　委員伊藤正文、池田谷久吉、石本喜久次、本多二郎、小笠原銅、小川安一郎、葛野壯一郎、横濱勉、谷民藏、園部文雄、安井武雄、中澤誠一郎、宮本長治、瀬戸文吾、置鹽章

役員　池田理事長、佐藤理事

△記　事

一、委員長の選擧を行ひ左の通當選

委員長　横濱　勉氏

一、次に委員長より主査として左の兩氏を指名し承諾を得たり

主査　園部　文雄氏

主査　池田谷久吉氏

一、夫れより協議に入り先づ本委員會に左の二分科會を設け審議することに決し委員長より委員を夫々指名したり

I　帝都復興に關する分科會

園部（主査）、石本、小川、波江、中村、中澤、安井、古塚、日高、瀬戸各委員

2　四大都市都計促進に關する分科會

横濱　委員長）、池田谷（主査）、伊藤、本多、小笠原、置鹽、葛野、谷、木子、宮本各委員

一、分科會の審議決定を俟つて再度委員會を開くことに決し散會

帝都復興に關する分科會

△日　時　十二月七日午後五時―八時

△會　場　本協會會議室

△出席者　園部主査、瀬戸委員、安井委員、古塚委員、石本委員、中澤委員

△議事

帝都復興に關する建議案に付審議したり

理事會

△日　時　十二月十日午後五時―八時廿分

△會　場　本協會會議室

△出席者　片岡副會頭、池田理事長、園部理事、野呂理事、佐藤理事、宮本長理事、宗會務委員、小川會務委員、谷會務委員、安井會務委員

△報告

一、會誌表紙懸賞圖案審査經過報告

二、技術家團體聯合大會委員會經過報告

△議事

一、役員半數改選に關する件

二、都計委員會委員に關する件

三、十二月例會に關する件

四、人事に關する件

五、會員銓衡

新入會員

（會員）

古謝剛丸君、工藤榮治郎君、川村種三郎君、友田藏君、小泉甚一郎君、中島智喜君、石川寬三君、林眞三君、內川賢一君、米田光太郎君、佐々木昌雄君、山下國太郎君、中川望氏、坂本森一氏、堀切善太郎氏、湯淺藏平氏、平塚廣義氏、石橋爲之助氏、廣田精一氏、渡邊勝三郎氏、安川內藤吉氏、稻畑勝太郎氏、泉仁三郎氏、佐竹三吾氏、杉本又三郎氏、太田政弘氏、川崎卓吉氏、宇佐美勝夫氏、永田秀次郎氏

（名譽賛助員）

佐藤貞治郎君、林德一君、村上清一君、遠山勇吉君、細田善三君、鈴木只重君

（普通賛助員）

渡邊　義三君　府下東成郡天王寺村字阿倍野一〇七

原田　覺三君
加藤　誠二君
請地亨之介君　近衛師團經理部工務科

出浦　高介君　大阪市外吹田町借栗園

岩崎甚太郎君　神奈川縣戸塚町矢澤四九九七

小島　榮二君　東京府下中野町打越二〇二二

吉本新之助君　東京市外巢鴨町宮仲一九九六

白井　健二君　東京市四谷區傳馬町三丁目西富島方

宮本　金七君　旅順新市街千歲町六ノ三

東京市役所學務課

住所移轉

庭園　八號同協會

住宅　九號住宅改良會

建築雜誌　八號建築學會

材木新聞　每號同　社

金屬工業新聞　每號同　社

經濟資料　十一號東亞經濟調查會

都市公論　八號都市研究會

土木建築　十一號日本實業與信新報

建築世界　八號同　社

工業評論　十一號工業評論社

帝國鐵道協會々報五號同　協會

建築畫報　十二號同　社

都市と建築　片岡安

國民經濟雜誌　三五卷第六號寶文館

通俗衛生　十一號大阪府衛生課

電氣學會雜誌　十號同　學會

朝鮮と建築　五號朝鮮建築會

工業の友　九號工手學會

滿洲建築協會雜誌九號同　協會

建築の普及　九號帝國工業教育會

建築業協會月報　六號建築業協會

新住宅　九號洪洋社

電氣評論　十一號電氣評論社

大阪市商工時報　五號市役所商工課

工業之日本　九號工業之日本社

名古屋工業會々報五號同　會

會報　七號名古屋工業會

都人　第七光都人社

住宅研究　六號文化建築社

活人　十號同　社

工政會々報　十一號工政會

柊　一號柊　會

早稻田建築學報　二號早稻田大學建築學科教室早苗會

日本美術協會報告　第十二輯日本美術協會

朝鮮鐵道協會々報　第八月號朝鮮鐵道協會

中央建築　第一卷第一號中央建築社

都市復興　號十一號都市研究會

役員及職員

副會頭　片岡　安

理事　池田　寶（理事長）

理事　宮本　長治（主計）

理事　園部　文雄（主記）

理事　設樂　貞雄（編輯）

理事　野呂長四郎（編輯）

理事　宮本　金七（編輯）

理事　本田　登

理事　佐藤　彰美

理事　竹腰　健三

新理事

伊藤　正文
田中　綱
中澤誠一郎
中村琢治郎
松本禹象
本田二郎

職員

江村　郊邨
西谷　節
清川　伊佐
大和　境
伊藤二世子

會員	二八三	會員（地方）	一〇四
名譽賛助員	八八	終身賛助員	五五
特別賛助員	二九	普通賛助員	四八三
合計（十月廿五日現在）			一〇四二

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	七拾五錢	貳錢
	十二册	九圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正十二年十二月廿五日印刷
大正十三年一月一日發行（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所

大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第七集第一号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
大野正営業所
内外木工所
中央セメント
佐倉金庫店
阿部鉄工所
MIDORI SHOKAI
北島安太郎商店
飾磨化学工業
大塚鉄工所
瀧山商店
南満鉱業
大林組
文化工業
石綿スレート
木下商店
高谷商店

山本東作商店
田村商会
建築金物商会
日本洋瓦大阪出張所
金剛商会大阪支店
今井硝子店
横河橋梁製作所
田中昌司商店
二和商会
HANKEN SEISAKUSYO
井筒政蔵商店
日本ペイント製造
森川組
佐伯捨次郎製作所
大福海上火災保険
日本建築協会
浅海商店

出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所

遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
岡部建築事務所
前田松本建築事務所
西原衛生工業所
砂崎
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎

山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
辰巳吉之助
清水組大阪支店
森本建築社
銭高組
清水福太郎
大阪青写真調製所
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
須賀商会
高島屋呉服店
コルク工業

内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
三越呉服店
日本ホロタイル
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
品川白煉瓦
三枝商会
日本木材工芸
東京電気
大理石工業
ベニス工房
作田工務所
城口汚水処理研究所大阪支店

米本栄商店
田中タイリング商会
浜口商店
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
岩崎商業
小野田セメント製造
日本建築紙工大阪出張所
日本工剤
高田商会
政正
関西ステンドグラス製作場
桐田商会
尾崎機械研究所
大阪窯業
旭硝子
淡陶
川崎工場
日米板硝子

山中商会
建築金物商会
北小林酒井衛生工業部
サカイブン
野沢幸三郎商店
梅原組
中松組
山本藤助商店
吉田鉄工所
関西石材
西孫南店
日本亜鉛鍍
小野田屋根瓦製造所
境川文庫
岡部商会
岩波書店
田中源太郎商店
極東板硝子工業